

ニスル判決ハ刑事訴訟法第二百〇五條ニ違背シタル不法アルモノトス三十三  
年三月三十一日  
宣 委託金費消ノ件

年齢認定ノ證  
據ヲ明示スル  
ヲ要セス

○年齢ハ罪トナルヘキ事實ニ非ラス之ヲ認定シタル證據ヲ明示スルノ必要ナ  
シ三十三  
年三月三十一日  
宣 強盜詐欺取財ノ件

刑ノ言渡ニ法  
條ヲ適用スヘ  
シ

○刑ノ言渡ニアラサレハ法條ヲ適用セサルモ不法トセス三十三  
年三月三十一日  
宣 強盜ノ件

刑訴二百二條  
ノ所謂所有者

○刑事訴訟法第二百二條ニ所謂所有者トハ物件ノ所有者ノミナラス其差出人  
ヲモ指シタルモノトス三十四  
年二月十五日  
宣

顯著ナル事實  
ニ對スル訊問

○新聞紙ノ發行所ハ新聞紙ニ掲記シアリテ顯著ナル事實ナルヲ以テ特ニ之レ  
ヲ訊問セサルモ不法ニアラス三十三  
年三月三十一日  
宣 官吏侮辱ノ件

探證法ヲ誤リ  
タル判決

○金員ヲ支拂ヒタル者ニ於テ其金員ハ自己ノモノナルコトヲ證明スルコト能  
ハサルヲ以テ直チニ其金員ハ他人ノモノナリト認定シタル判決ハ探證法ヲ  
誤リタル不法アルモノトス三十四  
年二月二十二日  
宣

管轄違ノ言渡

○管轄違ノ言渡ハ普通裁判所相互ノ管轄ニ付テノ規定ニ違背シタル場合ハ勿  
論普通裁判所ハ特別裁判所トノ管轄ニツキテノ規定ニ違背シタル場合ニ於

公訴不受理ノ  
言渡

テモ亦之ヲ爲スヘキモノトス三十三  
年三月三十一日  
宣 詐欺取財等ノ件

○公訴受理スヘカラサルノ言渡ハ本案ノ判決ナリ從テ第一審裁判所ニ於テ其  
言渡ヲ爲シタルトキハ未タ事實ノ審理ナシト雖モ法律ニ特別ノ規定アルニ  
非ラサレハ再ヒ同一事件ニ付キ判決ヲ爲サシムヘカラス而シテ刑事訴訟法  
第二百六十二條第二項ハ此場合ニ適用スヘキ法則ニ非ラス三十三  
年三月三十一日  
宣 公書偽造ノ件

同斷

○既ニ公訴ノ提起アリタル事件ニ對シ更ニ公訴ヲ提起シタルトキハ公訴不受  
理ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス三十三  
年三月三十一日  
宣 私印盜用私書偽造行使等ノ  
件

被告人ニ示シ  
テ辯解ヲ爲サ  
シメサル證據

○被告人ニ示シテ辯解ヲ爲サシメサル證據ヲ採テ斷罪ノ料ニ供シタル判決ハ  
不法ナリ三十三  
年三月三十一日  
宣

事件ニ關與シ  
タル檢事ノ官  
氏名記載ノナ  
キ第一審判決  
原本

○事件ニ關與シタル檢事ノ官氏名記載ナキ第一審判決原本ハ刑事訴訟法第二  
百五條ニ違背シタルモノトス從テ其判決ハ第二審ニ於テ之ヲ取消サ、ルヘ  
カラス三十四  
年三月十九日  
宣

公訴ニ附帶ス  
ル私訴ノ相手

○公訴ニ附帶スル私訴ノ相手方ニ付テハ法律上何等ノ制限ナシ從テ刑事被告



力ニ付テハ何  
等ノ制限ナシ

訴訟費用ノ額  
ハ判決ニ明示  
スルヲ要セス

訴訟費用ノ額  
部ヲ負擔セシ  
ムヘキ旨ノ記  
載ナキ判決

始末書ノ整理  
ハ言渡後ニ爲  
スヘキモノナ  
リ而シテ立合  
場合ニ異ナル

訊問囑託書ハ  
被囑託者ニ送  
付スルモノナ  
リ付テテ常ノ  
一件記録中ニ  
存在スヘキモ  
非ズ

代理委任ハ必  
ズシモ書面ニ  
依ルヲ要セス

刑訴法第八十  
七條ノ法意

始末書ニ整理  
アリテ常  
否ヲ審査スル  
ニ由ナキトキ  
ト雖モ記録中  
原本存在シ且  
故障ヲ申立タ  
キル事實アル  
ト

裁判長差支ア  
リテ署名捺印  
スル能ハサル  
場合  
證據取寄シ決  
定ヲ爲シタル  
後之ヲ取消シ  
ルハ不法ニ非  
ズ

人外ノ者ト雖モ尙ホ對手者ト爲スエトヲ得三十四年九月一〇六號三  
十四年三月十九日宣告

○訴訟費用額ハ判決執行ニ至リ訴訟記録ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ得從テ判決ニ於テ其額ヲ明示スルノ要ナシ三十四年九月四六七號  
三十四年四月九日宣告

○訴訟費用ノ幾部ヲ負擔セシムヘキ旨ノ言渡ナキ以上ハ其負擔ハ全部ナリトス(右同斷)

○公判始末書ハ判決言渡後ニ整理スヘキモノナレハ公判ノ開廷數度ニシテ立會書記ノ異ナル場合ト雖モ一通ノ始末書ヲ作ルヲ以テ足ル而シテ整理者二名アルトキハ其一名ノ契印アルハ書類作成ノ要件ニ於テ缺クル所ナシ三十四年九月四六七號  
三十四年四月九日宣告

○訊問囑託書ハ被囑託者ニ送付スルモノナルヲ以テ常ニ一件記録中ニ存在スヘキモノニ非ス從テ囑託ヲ受ケタル判事ニ於テ其囑託ニ應シ取調ヲ爲シタル事實アレハ他ニ反證ナキ限りハ其囑託書ハ適式ニ調製セラレタルモノト看做スヘキモノトス三十四年九月四六七號三  
十四年四月十九日宣告

○代理委任ハ必スシモ書面ニ依ルヲ要セス訴訟記録中委任ノ事實ヲ認ムヘキモノアルヲ以テ足レリトス三十四年九月四六七號三  
十四年四月二十六日宣告

○刑事訴訟法第八十七條ハ公訴不受理ノ申立ヲ却下スルニハ必スシモ本案判決前之ヲ爲スヘシトノ法意ニ非ス從テ被告カ其申立後本案事實ノ申立ヲ爲シ又ハ辯論ノ最終ニ其申立ヲ爲シタルトキハ本案判決ト同時ニ却下ノ言渡ヲ爲スモ不法ニ非ス三十四年九月五八二號  
三十四年五月六日宣告

○公判始末書ニ整理アリテ判決ノ當否ヲ審査スルニ由ナキトキト雖モ一件記録中判決原本存在シ且缺席判決ノ告知ニ依リ故障ヲ申立タル事實アレハ判決ナキモノト云フヲ得ス三十四年九月七一〇號三  
十四年五月二十一日宣告

○公判ニ於ケル裁判所書記カ刑事訴訟法第九十五條第二項ニ從ヒ證人ノ供述錄取書ヲ豫審判事ニ送致スルニハ必スシモ其直接ノ送達アルヲ要セス而シテ公判書記ニ於テ之ヲ檢事局ニ送致シ檢事局ヨリ豫審判事ニ送致スルハ一般ノ慣行手段ナリ三十四年九月七三二號三  
十四年五月三十日宣告

○裁判長差支アリテ署名捺印スル能ハサル場合ニ於テ其審理ニ干與シタル上席ノ判事代テ署名捺印シタル公判始末書ハ有効ナリ三十四年九月七三三號三  
十四年五月三十一日宣告

○證據取寄セ許可ノ決定ヲ爲シタル後裁判所ニ於テ更ニ其必要ナシトシ其決定ヲ取消シ公判ヲ終了スルハ不法ニ非ス三十四年九月七三五號三  
十四年九月二十三日宣告

第四編 公判 通則 區域裁判所公判 地方裁判所公判



ス

審理更新ノ場  
合ニ更ニ被告  
人ヨリ證據申  
請ヲ爲サハル  
トキ

○ 審理更新ノ場合ニ更ニ被告人ヨリ證據申請ヲ爲サ、ル以上ハ更新前ニ於テ終了シタル證據調ハ更新後之ヲ再ヒスルノ要ナシ三十四年十一月十六日宣告 私印盗用私書偽造等ノ件

辯護人ニ發送シタル呼出狀

○ 辯護人ニ發送シタル呼出狀ハ被告ノ受取ルヘキモノニ非スシテ辯護人自ラ受取ルヘキモノナルヲ以テ其辯護人ノ委任ニ基キ呼出狀ヲ受取リタル者アルトキハ被告ノ委任アルヲ要セスシテ其送達ハ有効ナリトス三十四年十一月五日宣告 詐欺取財及附帶私訴ノ件

刑訴二百三條ノ律意

○ 刑事訴訟法第二百三條ハ證據ニ依リテ罪トナルヘキ事實ヲ認メタル理由ヲ明示スヘキモノニシテ其證據タル所以ヲ證據ニ依リテ説明スルノ意義ニ非ス三十四年十一月三日宣告 冒認及竊盜ノ件

【參照】 刑ノ旨告ヲナスニハ罪トナルヘキ事實及ヒ證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ明示シ且法律ヲ適用シ其理由ヲ付ス可シ○無罪又ハ免訴ノ旨渡ヲ爲スニ付テモ其理由ヲ明示ス可シ(刑事訴訟法第二百三條)

公判手續ノ意

○ 公判手續トハ審理判決ニ關スル手續ノ謂ニシテ保釋申請ニ對スル決定ノ如キハ公判手續ト云フヲ得ス(右ニ同シ)

在監被告ニ對シテ發スル呼出狀

○ 在監ノ被告人ニ對シテ發スル呼出狀ニハ特ニ其職業ヲ記載セサルモ不法ニ非ス三十四年十一月九日宣告 官文書偽造行使官印盗用詐欺取財ノ件

始末書中間答自ラ明瞭ナルトキ

○ 公判始末書ニ要旨左ノ如シト記シ被告ノ陳述シタル事項ヲ一々記載シアリテ其問答ノ始末自ラ明瞭ナルトキハ不法ニ非ス三十四年十一月五日宣告 不法逮捕制縛云々ノ件

事實證據ヲ明示セスシテ爲シタル判決

○ 被告事件ノ公訴判決ニ關係ナク且其判決ヲ受ケタルモノニ非サル私訴ノ被告人ニ對シ公訴判決ノ事實證據ニ依リ明確ナリト説明シ其事實證據ヲ明示セスシテ判決シタル私訴ノ裁判ハ不法ナリ三十四年十一月六日宣告 冒認販賣及附帶私訴ノ件

判決ノ効力

○ 判決ハ被告事件全躰ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノトス從テ一部判決ヲ受ケサル點アルモ該事件ニ付既ニ終局判決アリタル場合ニ於テハ之ニ對スル控訴ハ被告事件ノ全部ニ涉ルモノトス三十四年十一月十日宣告 官私文書偽造行使私印盗用詐欺取財ノ件

辯論ニ立會シタルコトノ記載ナキ調書

○ 始末書ヲ整頓シタル裁判所書記ノ署名アルモ書記カ辯論ニ立會ヒタルコト



ヲ記載セザル公判始末書ハ無効ナリ三十四年九月一七四二號三 放火ノ件  
○判決ヲ爲スニ熟セザル場合ニ在リテ一旦終結ヲ告ケタル辯論ヲ再開スルハ  
相當ノ措置ナリトス三十四年九月一七四二號三 謀殺ノ件

裁判所ノ職權

○帳簿ノ保管等ニ關シ別段ノ規定ナキトキハ其保管者ノ誰タルヤハ事實裁判  
所ノ職權ヲ以テ認定スヘキ事實問題ナリトス三十四年九月一七四二號三 監守盜云々  
ノ件

判決本文ノ記載

○帳簿ニ詐欺ノ記載ヲ爲シ金員ヲ竊取シタル監守盜事件ヲ判決スルニ當リ其  
主文ニハ單ニ監守盜ノ點ハ云々トアルモ帳簿偽造ト竊盜トヲ包含スルコト  
明カナルトキハ不法ニ非ス(右同シ)

公訴不受理ノ  
申立ニ對スル  
裁判

○公訴不受理ノ申立ハ本案判決前ノ一ノ抗辯ニ外ナラス從テ本案ノ判決ヲ爲  
スヘキ場合ニ於テハ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ事件ナリト雖モ公訴提起前ニ發  
生シタル理由ニ基キ公訴不受理ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ其事實ヲ審  
理シ相當ノ判決ヲ爲スヘキモノトス三十四年九月一八二四號三 有夫姦ノ件  
十四年十二月二十三日宣告

既判ノ効力

○無罪ノ判決ハ其無罪ノ言渡シタル點ニ付テハ既判力ヲ有スルハ勿論ナルモ  
無罪ノ原因タリ理由タル事實ハ確定ノ効力ヲ生スヘキモノニ非ス二十四年十月  
二十三日大審

判決ノ第三者  
ニ及ホス効力

院判決同年 官文書偽造ノ件  
一八六號  
○判決ノ効力ハ其判決ニ關セザル第三者ニ之ヲ及ホスコトヲ得ス二十四年十月二十  
三日大審院判決同  
六號 官文書偽造ノ件

判事ノ異動アルニ拘ハラズ審理ヲ更新セスシテ訴訟手續ヲ進行シ單ニ前  
早ニ前申立ノ相違アリヤ否ノ一事ヲ訊問シタルニ止マリ直ニ證據調ニ  
シタルニ止マリ直ニ證據調ニシタルニ依テ審  
理ヲ結了シタル場合

○列席判事異動アルニ拘ハラズ審理ヲ更新セスシテ訴訟手續ヲ進行シ單ニ前  
回ニ於ケル申立ノ相違アリヤ否ノ一事ヲ訊問シタルニ止マリ直ニ證據調ニ  
移リ依テ審理ヲ結了シタルハ刑訴第二百十九條ニ背反スル不法ノ處置ナリ  
三十年二月十五日大 官文書變造行使ノ件  
審院判決同年八八號

【參照】 刑事訴訟法 第二百十九條 判事ハ被告事件ニ付キ被告人ヲ訊問ス可シ

必要ナル調書其他證據書類ハ書記ナシテ朗讀セシメ又證人ノ供述ヲ聽キ其他證  
憑ノ取調ヲ爲スコシ  
若シ被告人ノ自首アリタル場合ニ於テ檢事民事原告人ノ異議ナキトキハ他ノ證  
憑ヲ取調フルニ及バズ

公判ニ於ケル  
起訴

○豫審ニ於テ未タ起訴セザルモ公判ニ於テ起訴アルトキハ之ヲ裁判スルモ不  
法ニアラス二十六年三月六日大 私印盜用ノ件  
審院判決同年七〇號

刑訴二百十八  
條二項ノ適用

○刑訴二百十八條二項ノ檢事カ被告事件ヲ陳述スルコトハ一審裁判所ニ適用

第四編 公判 通則 區裁判所公判 地裁判所公判



スヘキモノニシテ二審裁判所ニ適用スヘキモノニアラス  
書偽造行使ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百十八條 判事ハ先ツ被告人ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ地ヲ問フ可シ

生ノ地ヲ問フ可シ  
檢事ハ被告事件ヲ陳述ス可シ

檢事カ事實ノ論告ヲ爲シテ法律ノ論告ヲ爲シタルトキ

○凡ソ訴訟ハ原被兩造ノ陳述ヲ聽キ斷案ヲ下スヲ以テ通則トス刑事ノ訴訟ニ在リテモ被告ノ辯論ノミナラス原告官タル檢事ノ事實及ヒ法律ノ意見ヲ聽キテ判決ヲ下スヘキハ勿論ナリ故ニ刑訴二百二十條一項ノ規定アリ因テ檢事カ事實ノ論告ノミヲ爲シテ法律ノ論告ヲ爲サルハ不法ナリ  
日大審院判決同年六月十七日  
六號 毆打創傷ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百二十條 證憑調濟ノ後檢事ハ事實及ヒ法律適用ニ付キ

意見ヲ陳述ス可シ

被告人及ヒ辯護人ハ答辯ヲ爲スコトヲ得

檢事被告人及ヒ辯護人ハ互ヒニ辯論ヲ爲スコトヲ得但辯論ノ最終ニハ被告人又ハ辯護人ヲシテ供述セシム可シ

刑訴二百十八條ノ檢事ノ陳述

○刑訴二百十八條ノ檢事ノ陳述ハ書面ノ朗讀ヲ以テ之ニ代フルモ毫モ法意ヲ

害セス即チ陳述ニ代ヘテ豫審調書ヲ書記ニ朗讀セシメタルハ不法ニアラス

二十八年六月十三日大審院判決同年四七六號 詐欺取財ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百十八條 判事ハ先ツ被告人ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ地ヲ問フ可シ

檢事ハ被告事件ヲ陳述ス可シ

刑訴二百二十九條未段ノ規定

○刑事訴訟 第二百二十九條未段ノ規定ハ闕席判決ニ依リ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ自ら其判決ノ送達ヲ受ケ又ハ判決執行ニ依リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタル場合ニ非サレハ故障申立ノ期間ヲ進行セシメストノ法意ニシテ右ノ場合ニ非サレハ故障申立ノ權ナシトノ趣旨ニ非ス  
三十二年六月十五日判決同年第七〇三號

私書偽造行使ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百二十九條 故障申立ノ期間ハ三日トス此期間ハ罰金以下ノ刑ヲ言渡シタル判決及ヒ私訴ノ判決ニ付テハ缺席判決ノ送達ヲ以テ始マリ

禁錮ヲ言渡シタル判決ニ付テハ被告人自ら其送達ヲ受ケ又ハ判決執行ニ依リ刑ノ言渡シアリタルコトヲ知リタル日ヲ以テ始マル

鑑定書ノ援用  
○鑑定書ニ負傷事實ノ記載アルコトハ自ら明カナレハ判決書ニ鑑定書ヲ援用スルヲ以テ足ルモノニシテ鑑定書記載事項ヲ重記スルヲ要スルモノニ非ス







私訴ニ對シテハ原因ノ變更ヲ許サズル規

私訴ノ原因ノ變更ハ民事原告

略記ノ内容ヲケトモ判文上

適法ノ故障ハ當然消滅セシ

二箇中一箇ノ所為カ罪トナル

モ所屬裁判所ニ對シテ

判決言渡ニハ辯護士ノ立會ヲ要セス

裁判費用ノ點ニ付變更アル

缺席判決ニ於ケル期滿免除

罰金以下ノ刑ニ當ル事件ニ於テ代理人ヲ以テ上告スルハ認許シタル法

公知ノ事實及ヒテ末ノ疑點

三十四年第一號三十  
四年一月十五日宣告

○被告事件罪トナラサル場合ニ於テモ私訴ニ對シテ判決ヲ爲スヘキモノト定メタル以上ハ法律上私訴ニ付テハ原因ノ變更ヲ許シタルモノトス  
三十四年一月二十日宣告  
三十四年第一號三十一  
三十四年一月二十日宣告

○私訴ノ原因ノ變更ハ公訴ノ取調ニ依リテ生スヘキモノナレハ特ニ民事原告人ヨリ變更ノ申立ヲ爲サ、ルモ裁判所ハ直チニ判決ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス(右同斷)

○證據ノ内容ヲ略記スル場合ニ在リテハ少クトモ判文上如何ナル認定ヲ其證據ニ依リ爲シタルモノナルカヲ明示スルヲ要ス  
三十四年三月十九日宣告  
三十四年第二號三〇  
故障ヲ適法トシテ受理シタル以上ハ前關席判決ハ當然消滅ニ歸ス從テ更ニ其判決ヲ爲スニ當リ前關席判決ヲ廢棄スルノ要ナシ  
三十四年四月八日宣告  
三十四年第二號三二

○二箇ノ犯罪行為カ實質上ノ一罪ナルトキニ於テ其中一箇ノ行為カ罪ト爲ラサル事實アル場合ハ唯其理由ヲ示スニ止マリ其點ニ對シ別ニ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノニ非ス  
三十四年四月十二日宣告  
三十四年第三號三三

○地方裁判所判事カ控訴院判事ノ代理ヲ爲シタル場合ニ於テ其判事カ控訴院所屬ノ地方裁判所ノ判事ナルコトハ公知ノ事實タルヲ以テ特ニ其所屬裁判所ヲ判文ニ明示スルノ必要ナシ  
三十四年四月十二日宣告  
三十四年第四號三四

○判決ノ言渡ニハ辯護士ノ立會ヲ要セス從テ其期日ノ變更ヲ通知スルノ要ナシ  
三十四年四月十八日宣告  
三十四年第三號三五

○裁判費用ノ點ニ付キ第一審判決ヲ變更シタルトキト雖モ原判決ハ之ヲ取消スモノトス  
三十四年五月三十一日宣告  
三十四年第七號三六

○關席判決ノ場合ニ於テハ期滿免除ハ刑法第六十一條ニ從ヒ判決宣告ノ日ヨリ起算スヘキモノトス  
三十四年五月三十一日宣告  
三十四年第七號三七

○罰金以下ノ刑ニ當ルヘキ事件ニ付テハ被告ハ第一、二審ニ於テハ代人ヲ差出スコトヲ得ヘキモ上告審ニ於テハ代人ヲ以テ上告ヲ爲スコトヲ認許シタル法條ナシ  
三十四年六月七日宣告  
三十四年第八號三八

○訟廷ニ於ケル各判事カ評議ヲ爲スニ當リ筆談ヲ以テスルモ違法ニ非ス  
三十四年九月二十日宣告  
私印盜用私書偽造事件  
三十四年第九號三九

○刑ノ言渡ヲ爲スニ當リ證據ニ依リテ罪トナルヘキ事實ヲ認メタル理由ヲ明示スルハ其事實カ證據ヲ待テ始メテ明カナルヘキ場合トス從テ證據ヲ待タ



スシテ當然明カナル公知ノ事實又ハ事件ノ關係上毫未ノ疑ヲ存セスシテ審  
理ヲ經過シタル事項ニ付テハ特ニ明示ヲ要セス 三十四年九月八日七號 議員ヲ侮辱  
シ暴行ヲ加ヘタルノ件

刑訴二百七條  
法則ノ適用

○上訴ヲ爲シ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ告知スルノ法則(刑事訴訟法第二百七條)  
ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ限り適用スヘキモノニシテ公訴不受理ノ申立  
ヲ却下シタル場合ニ在リテハ其告知アルヲ要セス 三十四年九月五日四號 故殺及ヒ  
謀殺ノ件

證書毀棄罪  
其證書ノ所屬  
ヲ說明セナル  
判決

○證書毀棄罪ハ其證書ノ他人ニ屬スルニ非サレハ構成スヘキニ非ス從テ該犯  
罪ヲ斷スルニ當リ其證書ノ何人ニ屬スヘキヤヲ說明セサル判決ハ不法ナリ  
三十四年九月十一日五號 證書毀棄ノ件

同一裁判所ニ  
於テ判決言渡  
後更ニ言渡ヲ  
ナスヲ得ス

○同一裁判所ニ於テ判決言渡ヲ爲シタル後更ニ言渡ヲ爲スヲ得ス 三十四年九月十一日五號  
三十四年九月十一日五號 詐欺取財ノ件

書記ノ署名捺  
印ナキ呼出狀

○裁判所書記ノ署名捺印ナキ呼出狀ハ無効ナリ 三十四年九月十一日五號  
三十四年九月十一日五號 私印盜用ノ  
件

【參照】 刑事訴訟法 第二十條(第一項)

刑訴二百三十  
九條ノ適用

○刑訴二百三十九條ニ自白シタル場合ト雖モ裁判所ハ仍ホ取調ヘサルヘカラ  
ストアルモ前科ヲ自白シ眞實ト認ムル場合ニ適用スヘキモノニ非ス 二十八日大審  
二一八號 恐喝取財ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百三十九條 裁判所ニ於テハ被告人其罪ヲ自白シタルト  
キト雖モ仍ホ取調ヘサルヘカラス

下調書ノ無  
効ナルトキ之  
ニ依テ爲シタ  
ル判決ノ効力

○刑訴二百三十七條ノ下調々書ニシテ無効ナルトキハ之ニ依テ爲シタル判決  
ハ正式ノ審理ニ非ス其判決モ亦無効ナリ 二十六年十一月十三日大  
審院判決同年八月四日 謀殺ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百三十七條 重罪事件ニ付テハ開廷前裁判長又ハ受命判  
事ハ裁判所書記ノ立會ニ依リ一應被告人ヲ訊問シ且ツ辯護人ヲ選任シタルヤ否  
ヲ問フヘシ

若シ辯護人ヲ選任セザルトキハ裁判長ノ職權ヲ以テ其裁判所所屬ノ辯護士中ヨ  
リ之ヲ選任ス可シ被告人及ヒ辯護士一名ヲ選任シ被告人數名ノ辯護ヲ爲サシムル  
コトヲ得

書記ハ本條ノ訊問ニ付キ特ニ調書ヲ作ル可シ

○刑訴二百三十七條ニ被告人ニ讀聞ケ署名捺印セシムルノ法規ナキノミナラ  
ス同條ニ從ヒ作ルヘキ調書ハ豫審調書ト其性質ヲ異ニスルヲ以テ同條九十

刑訴二百三十  
七條ニ從ヒ作  
ルヘキ調書ハ  
豫審調書ト其  
性質ヲ異ニス

第四編 公判 証則 區裁判所公判 地方裁判所公判



五條ノ式ヲ履行セサルモ違法ニ非ス二十七年五月二十五日大審院判決同年三九九號 官文書毀棄ノ件

○刑訴二百四十一條ノ場合ニ於テ輕罪ナリトシテ受理シタル裁判所カ之ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ檢事カ更ニ重罪ナリトシテ訴追スルコトヲ申立タルトキハ法律上當然重罪公判ノ手續ニ從フテ審判セサルヘカラス二十九年五月二十日大審院判決同年八一四一號 毆打創傷ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百四十一條 裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ檢事ヨリ更ニ其事件ヲ重罪トシテ訴追スルコトヲ申立タルトキハ豫審判事ニ送附スル決定ヲ爲スコシ但被告人拘留ヲ受ケサルトキハ拘留狀ヲ發スコシ

其被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ更ニ重罪事件トシテ裁判スヘキ旨ノ決定ヲ爲シ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲナシ報告ヲ爲サシム可シ  
受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

○重罪事件ノ公判ヲ開廷スルニ當リテハ控訴ノ成立セシト否トニ拘ハラヌ薄テ刑訴二百三十七條ノ法則ヲ履踐シ公判前裁判長又ハ受命判事ニ於テ一應被告人ヲ訊問シ且辯護人ヲ選定シタリヤ否ヤヲ問フヘキモノトス二十九年十月八日大審院判決同年三八〇三號 謀殺未遂ノ件

重罪公判ヲ開廷スルニハ公判前裁判長又ハ受命判事ニ於テ被告人ヲ訊問シ且辯護人ヲ選定シタリヤ否ヤヲ問フヘキモノトス

參照 刑事訴訟法 第二百三十七條 重罪事件ニ付テ開廷前裁判長又ハ受命判事ハ裁判所書記ノ立會ニ依リ一應被告人ヲ訊問シ且辯護人ヲ選定シタルヤ否ヤヲ問フ可シ

若シ辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ノ職權ヲ以テ其裁判所々屬ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任スコシ被告人及ヒ辯護士ニ異議ナキトキハ辯護士一名ヲシテ被告人數名ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得  
書記ハ本條ノ訊問ニ付キ特ニ調査ヲ作ル可シ

○區裁判所ニ開ク地方裁判所支部ニ於テハ區裁判所書記ハ即チ支部ノ書記ナルカ故ニ其職印ヲ兼用シタル公判始末書ハ違法ニ非ス二十七年六月十一日大審院判決同年四〇二號 私印偽造ノ件

○區裁判所判事ハ當然地方裁判所判事ノ代理ヲ爲スヲ得ヘキヲ以テ公判始末書及ヒ判決書ニ代理タルノ記載ヲ要セス三十年三月廿九日大審院判決廿九年九九〇號 酒精營業稅法違反ノ件

○裁判所構成法ニ依リ地方裁判所判事ハ控訴院判事ノ代理ヲ爲スコトヲ得從テ判決書ニ署名シアル以上ハ其他ノ訴訟記録ニ代理タルノ記載ヲ要セス三十一年十月十二日大審院判決同年七四三號 私書偽造行使ノ件

○重罪事件ノ下調ハ必スシモ其事件ノ判決ヲ干與シタル判事ニ於テ之ヲ爲ス

區裁判所ニ開ク地方裁判所支部ニ於テハ公判前裁判長又ハ受命判事ニ於テ被告人ヲ訊問シ且辯護人ヲ選定シタルヤ否ヤヲ問フ可シ

區裁判所判事ハ當然地方裁判所判事ノ代理ヲ爲スヲ得ヘキヲ以テ公判始末書及ヒ判決書ニ代理タルノ記載ヲ要セス

地方裁判所判事ハ控訴院判事ノ代理ヲ爲スコトヲ得從テ判決書ニ署名シアル以上ハ其他ノ訴訟記録ニ代理タルノ記載ヲ要セス

重罪事件ノ下調ハ必スシモ其事件ノ判決ヲ干與シタル判事ニ於テ之ヲ爲ス







長ノ行爲ニ依テ被告人ノ權利ヲ失却スルモノニ非ス 二十七年十二月十四日大審院判決同年一三〇六號 詐欺取財ノ件

請求ヲ受ケタル事件ニ判決ヲ與ヘサル不

○全部ノ控訴ハ主刑附加刑ノ總躰ヲ包含ス故ニ全部ノ控訴ニ付主刑ノミヲ判決シテ附加刑ニ及ハサルハ請求ヲ受ケタル事件ヲ判決セサル不法アルモノトス 二十九年一月二十八日大審院判決同年一五〇三號 詐欺取財ノ件

上訴取下ノ効カ發生ノ時期

○上訴ノ取下ハ取下書ノ裁判所ニ到達スルヲ以テ其效力ヲ生ス 二十九年六月十一日大審院判決同年五八五號 私印盜用ノ件

假住所ノ性質及ヒ上訴期間ノ起算點

○訴訟行爲ニ付假住所ヲ選定シタルトキハ其行爲ニ付テハ總テ本住所ト同視ス從テ其上訴期間ハ書類ヲ假住所ニ送達シタル日ヨリ起算スヘキモノトス 二十九年八月二十一日大審院判決同年抗告九號 私印盜用ノ件

被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ辯護人トシテ得ヘキ辯護人

○被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ辯護人ハ前審ニ於テ選定セラレタルモノナルヲ要ス 二十九年十二月十四日大審院判決同年二〇八號 竊盜ノ件

期間内ニ上訴申立書ノ不明ヲ訂正シキ出シタルトキ

○法定ノ期間内ニ上訴申立書ヲ提出シタルニ不明ノ廉アリ之ヲ訂正シテ尙期間内ニ更ニ申立書ヲ提出シタルトキハ後ノ書面ヲ以テ效アリトス 二十九年二月二十八日大審院判決同年抗告一七號 私印偽造行使ノ件

不利益ノ變更ノ意義

○不利益ノ變更トハ刑ノ適用ノミヲ指稱ス 二十六年六月二十二日大審院判決同年五六八號 官印盜用ノ件

不利益ノ變更ヲ許サストノ範圍適用ノ範圍

○原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益トナスコトヲ許サストノ法則ハ判事ノ職權ヲ以テ裁判ヲ爲シ得ヘキ公訴費用等ノ場合ニ適用スヘキモノニアラス 二十九年三月十日大審院判決同年九八四號 官印偽造使用ノ件

六個ノ所爲ヲ三罪トシテ處斷シタル判決

○事實ノ理由ニ於テ六個ノ所爲アルコトヲ認メナカラ法律ノ適用ニ至リ三罪トシテ處斷シタル判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ然レトモ此場合ハ被告ノ不利益ニ歸スルヲ以テ破毀變更スルコトヲ得ス 三十年十月八日大審院判決同年七五六號 私印盜用ノ件

不利益變更ヲ許サストノ意義

○刑訴二百六十五條一項ニ所謂原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サストハ原判決ヲ變更シテ其刑ヲ重クシ又ハ原判決ノ認メサル罪ヲ認ムルコトヲ許サストノ法意ニシテ犯罪ノ狀況若クハ犯罪ノ性質ヲ變更スルヲ許サスト謂フニアラス 三十年十一月十五日大審院判決同年九七三號 詐欺取財ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百六十五條 被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ裁判ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サス

被告人ノ利益ノ爲メ檢事ヨリ控訴ヲ爲シタルトキ亦同シ

裁判費用ヲ多額ニ言渡シタル二審判決

○公訴裁判費用ヲ二審カ一審ヨリ多額ニ變更シ言渡スモ不利益ノ變更ト云フ



懲治處分ノ性質及ヒ其上訴

ヲ得ス 三十二年三月二十九日大審院判決同年二六八號 官印偽造ノ件  
○懲治處分ハ裁判權ニ附セラレタル特別ノ處分ニシテ刑ヲ言渡シタル公訴判決ト其性質ヲ異ニス從テ該處分ニ對シテ上訴スルヲ得ス 三十二年二月十三日大審院判決同年九四號

【參照】 刑法 第八十條 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審察シ辨別ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ滿二十歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

所謂不利益ノ變更ト云フヲ得サル場合

○第二審裁判所ニ於テ第一審裁判所カ重シト認メタルモノヲ無罪トシ同一ノ刑ヲ殘餘ノ罪ニ科スルモ不利益ノ變更ニ非ス 三十二年七月七日大審院判決三十二年一二二一號 私書偽造行使詐欺取財ノ件  
○被告ハ公訴不受理ノ判決ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス 三十三年十月六日判決同年第九二九號 公文書偽造行使等ノ件

辯護人ノ上訴ノ性質

○辯護人ノ上訴ハ被告人ニ代リテナスモノニシテ辯護人ノ獨立シタル上訴ニ

代人ヲ以テ上訴ヲ許サス

非ス 三十三年二月二十六日判決 放火ノ件  
○刑事訴訟法上罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ付テハ被告ハ代人ヲシテ出頭セシムルヲ得ヘキモ代人ヲ以テ上訴スルコトヲ認許シタル法條ナシ 三十四年四月七號三十四年十一月二十二日宣告 鑛業條例違反ノ件

二審ニ於テ一審調査ノ誤認トキ

○第一審公判ニ於テ證人ノ證言ニ對シ被告ニ意見ヲ問ハサリシモ第二審公判ニ於テ其證言ヲ朗讀シ被告ニ辯解ヲ爲サシメタルキハ之ヲ採テ罪證ニ供スルモ不法ニ非ス 三十四年九月一六〇六號 葉煙草專賣法違反ノ件

法律上代理人ノ上訴權

○法律上代理人ハ訴訟ニ關係シタル場合ナルト否トヲ問ハス上訴ヲ爲スコトヲ得然レモ其上訴ハ一ノ代理行爲ニ外ナラス從テ被告人ニ與ヘタル上訴期間經過後ハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス 三十三年九月一〇四四號 竊盜ノ件

附帶控訴ノ申立

○公廷ニ於ケル附帶控訴ノ申立ハ相手方ニ於テ之ヲ知悉スルヲ以テ特ニ申立書ヲ提出セシメ通知スルノ必要ナシ  
附帶上訴ニ付テハ呼出狀ト出頭トノ間ニ於ケル猶豫期間ノ法則ヲ適用セス 三十三年九月一七四號 詐欺取財ノ件

所謂不利益ノ變更ノ意義

○刑事訴訟第二百六十五條ニ所謂原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコ



トヲ許サストハ第一審判決ヲ被告人ノ不利益ニ變更スルコトヲ許サ、ルノ  
趣旨ニシテ上告裁判所ヨリ移送ヲ受ケタル控訴裁判所カ上告裁判所ノ破毀  
シタル第二審判決ヲ被告人ノ不利益ニ變更スルヲ禁シタルモノニ非ス三十三  
年三月二十七日宣告 官文書偽造行使ノ件

二罪併加ノ事  
件ヲ併セテ審  
判シタル判決

○二罪併加セシ事件ニツキ控訴セル所爲ヲ併セテ審判シタル判決ハ不法ナリ  
三十三  
年三月二十七日宣告 竊盜ノ件

刑ノ輕重ハ主  
刑ヲ標準トス  
更ニ利益ノ變

○刑ノ輕重ハ主刑ヲ以テ標準トス從テ第一審判決ニ於テ附加セザリシ罰金ヲ  
附加スルモ主刑ニシテ第一審判決ヨリ輕キトキハ第一審判決ヲ被告人ノ不利  
益ニ變更シタルモノニ非ス三十四  
年三月二十七日宣告 竊盜ノ件

### 第二章 控訴

刑訴二百五十  
一條應用

○刑訴二百五十一條ニ控訴ハ判決ノ一部ニ限り之ヲ爲スコトヲ得トアリ其之  
ヲ應用スルハ一判決中分割スルコトヲ得ヘキ部分ニ對スル場合ニアルヘキ  
モノナリ而シテ本案ノ如キ全部ノ事實ノ理由ニ齟齬アリシヨリ擬律ノ錯誤  
ヲ來シタリトシテ一審裁判ノ取消ヲ請求スル控訴ハ即チ全部ニ對スルモノ

ニシテ分割スルコトヲ得ヘキモノニアラス二十四年三月四日大  
審院判決同年二月五號 官吏侮辱ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百五十一條 控訴ハ判決ノ一部ニ限り之ヲ爲スコトヲ得  
若シ之ヲ限ラサルトキハ判決ノ全部ニ對シ控訴ヲ爲シタルモノト看做ス可シ

一審ニ於テ共  
犯者ノ一人ト  
シテ處刑セラ  
レタルモノノ  
審ニ於テ無罪  
ノ宣告ヲ受ケ  
タルトキ

○一審ニ於テ共犯者ノ一人トシテ判決セラレタル者カ二審ニ於テ無罪トナリ  
タルトキハ唯其部分ヲ取消スニ止マリ全部ヲ取消スヘキモノニアラス二十六  
年四月二日大審院判決  
同年三月一號 詐欺取財ノ件

二審カ事實ノ  
本案ニ立チ入  
リ審判セサル  
トキ

○刑訴二百六十條ニヨリテ控訴裁判所ニ於テ事實ノ本案ニ立入審判ヲ爲スニ  
非サル時ハ同法百九十八條ヲ適用スルヲ要セス二十六  
年六月一日大審  
院判決同年四月七號 強盜ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百六十條 控訴裁判所ニ於テハ控訴ノ期間内ニ於テ申立  
ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査シ期間ノ經過後ニ係ルモノト認ムルトキハ判決ヲ以テ  
控訴ヲ棄却ス可シ

刑訴第二百六  
十二條ノ適用  
(不當管轄違  
ノ旨渡)

○刑訴二百六十二條ハ不當ニ管轄違ヲ言渡シタルトキノ處分法ニシテ控訴ヲ  
理由アリトシテ原判決ヲ取消ス場合ニ適用スヘキ法條ニ非ス二十六  
年五月十五日  
大審院判決同年四  
月二號 詐欺取財ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百六十二條 控訴裁判所ニ於テハ原裁判所ノ管轄違ナル  
コトヲ認メタルトキハ原判決ヲ取消ス可シ此場合ニ於テ拘留ヲ要スルモノト認  
第五編 上訴 控訴



メタルトキハ前拘留状ヲ存シ又ハ新ニ拘留状ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ交付ス可シ  
裁判所ニ於テ不當ニ管轄違テ言渡シタルトキハ其判決ヲ取消シ事件ヲ其裁判所  
ニ差戻ス可シ

刑罰二百六十四條及ヒ同二百三十八條ノ場合ニ非スシテ計算書ノ如キ場合  
ニ於テ控訴院カ公判開廷ノ上其公判ヲ止メ受命判事ヲシテ被告及參考人等  
ヲ訊問シテ調書ヲ作り報告ヲ爲サシメタルハ違法ナリ  
取調判事ヲシテ受命判事ニシテメタルトキ  
監守

○刑罰二百六十四條及ヒ同二百三十八條ノ場合ニ非スシテ計算書ノ如キ場合  
ニ於テ控訴院カ公判開廷ノ上其公判ヲ止メ受命判事ヲシテ被告及參考人等  
ヲ訊問シテ調書ヲ作り報告ヲ爲サシメタルハ違法ナリ  
監守

盜ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百六十四條 控訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪ナリト判決  
シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ其事件ヲ重罪ナリトシテ主タル控訴又ハ  
附帶控訴アリタルトキハ其公判ヲ止メ更ニ重罪事件トシテ裁判ス可キ旨ノ決定  
ヲ爲シ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム可シ  
受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得  
本條ノ場合ニ於テ被告入辯護人ヲ選任セザルトキハ第三百三十七條第二項ノ規定  
ニ從ヒ裁判長ノ職權ヲ以テ辯護人ヲ選任ス可シ

二所爲ニ對シ  
各別ニ判決シ  
共ニ控訴シ  
方場合ノ審理

○第一審裁判所ニ於テハ二個ノ所爲ヲ各別ニ判決シタルニ際シ共ニ控訴シタ  
ルトキハ第二審裁判所ハ之ヲ併合審理シ數罪俱發例ヲ適用シテ處斷スヘキ

モノトス 三十二年六月七日大審  
院判決同年五一四號 詐欺取財未遂ノ件

○第一審裁判所ニ於テ被告人ニ對シ裁判費用ノ平分負擔ヲ命シタルヲ不當ト  
シテ連帶負擔ヲ命シナカラ控訴ヲ棄却シタル第二審判決ハ不當ナリ  
三十二年  
六月二十  
一日大審院判決  
同年六三五號 詐欺取財ノ件

○二個ノ裁判所ニ於テ各罪ニ付各別ニ處斷シ同一ニ控訴ヲ受理シタルトキハ  
判決ニ瑕疵ナキモ結局各刑ヲ科スヘキ判決ヲ取消シ更ニ刑法百條ニヨリ處  
斷スヘキモノトス 二十七年六月十一日大  
審院判決同年三七六號 詐欺取財ノ件

○被告ヨリノ控訴ニ係ルトキハ被告ヨリ先ッ控訴ノ趣意ヲ申立ッヘキモノナ  
ルヲ以テ刑罰二百十八條二項檢事ノ陳述ヲ適用スヘキモノニアラス 二十七年十  
一月五日大  
審院判決同  
年七九一號 強盜ノ件

被告ノ控訴ニ  
係ルトキハ先  
シテ其趣意ヲ陳  
述セシムヘキ  
モノナリ

【參照】 刑事訴訟法 第二百十八條 判事ハ先ッ被告人ノ氏名年齢身分職業住所出  
生ノ地ヲ問フ可シ  
檢事ハ被告事件ヲ陳述ス可シ

○裁判長カ控訴期間經過シタルモノト認ムル場合ニハ被告ノ辯論ヲ要セス職  
權ヲ以テ控訴ヲ棄却ス可キモノニシテ刑罰百九十八條ノ規定ニ依リ其利益

裁判長ハ控訴  
期間經過シタ  
ルモノト認ム  
ルトキハ職權  
ヲ以テ棄却ス  
可シ

第五編 上訴 控訴  
刑 五百五十一



ト爲ルヘキ證據ヲ差出スヲ得ヘキコトノ告知ヲ爲スヘキモノニ非ラス  
月八日大審院判 貨幣偽造ノ件  
決同年八六七號

【參照】 刑事訴訟法 第九十八條 裁判長ハ各證據ノ取調終リタル毎ニ被告人ニ  
意見アリヤ否ヤヲ問ヒ且其利益ト爲ル可キ證據ヲ差出スヲ得ヘキコトヲ告知ス  
可シ

又證據物件ハ被告人ニ示シテ解釋ヲ爲サシム可シ

○一審廷ノ陳述ヲ二審ニテ證據トセンニハ其記錄ヲ讀聞ケ意見ヲ聽カサルヘ  
カラス 二十七年十一月二十九日 大審院判決同年九八三號 賭博ノ件

○期限後ニ係ル控訴ノ處分ニ付テハ刑訴二百六十條ノ規定アリ此處分ニ於テ  
公訴受理スヘカラサル事項ニ係ル規定ヲ適用スヘキモノニ非ス 二十七年十二月十  
四日大審院判決同  
年一三號 詐欺取財ノ件

○六號 詐欺取財ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百六十條 控訴裁判所ニ於テハ控訴ノ期間内ニ於テ申立  
テ爲シタルヤ否ヤヲ調査シ期間ノ經過後ニ係ルモノト認ムルトキハ判決ヲ以テ  
控訴ヲ棄却ス可シ

○或點ニ於テ一審判決ノ違法ヲ認メ之ガ取消ノ理由ヲ明示シタル以上ハ其他

或點ノ違法ナ  
ル理由ヲ明示

スレバ他ノ點  
ヲ明示スルノ  
要ナシ

檢事ノ附帶控  
訴ノ趣意陳述

刑訴二百六十  
三條ノ法意

原判決ノ違法ナル點ヲ悉ク列舉スルヲ要セス 二十九年十月二十日大審  
院判決二十九年九四二號 私印盜用ノ件  
○檢事ノ附帶控訴ノ趣旨ヲ法律適用辯論ノ際ニ之ヲ闡クモ不法ニ非ス 二十七年十  
年一三〇七號 官文書偽造ノ件

○刑訴二百六十三條ニ更ニ其事件ニ付判決ヲ爲ス可シトアルハ原判決ヲ取消  
スニ止マラス直チニ本案ノ判決ヲ爲スヘシトノ意ニシテ原判決取消ノ判決  
ト本案ノ判決ト二通ノ判決書ヲ作ルヘシトノ意ニ非ス 二十八年一月二十五日大審院  
大審院判決同  
年一三〇七號 官印偽造行使ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百六十三條 前條第一項ノ場合ニ於テ控訴ヲ受ケタル地  
方裁判所自ラ其事件ニ付第一審トシテ裁判權ヲ有スルトキハ更ニ其事件ニ付キ  
判決ヲ爲ス可シ但事件重罪ナルトキハ第二百四十一條ノ規定ニ從ヒ處分ス可シ

○控訴ノ趣意ハ判決書ニ記載スルヲ要セス 二十九年一月三十一日大審院  
大審院判決同年八二號 誣告ノ件

○被告人控訴ノ申立後ト雖モ裁判所書記ハ其判決即チ一審判決謄本ノ訂正ヲ  
爲スコトヲ得又謄本ノ訂正ニ相當ノ手續ヲ履行セサルモノトスルモ原判決  
ノ瑕瑾トナラス 二十九年二月十三日大審院  
判決二十八年一四九九號 官印偽造行使ノ件

○二審裁判所ニ於テ一審カ輕罪ト判決シタル事件ヲ檢事カ重罪トシテ控訴ヲ

判決書申立後  
控訴申立後ト  
雖モ書記ハ  
一審判決謄本  
ヲ訂正スルコ  
トヲ得

一審ノ輕罪ト  
シタル事件ヲ







一審廷訟手續ノ瑕疵ハ二審判決ノ當否ニ影響ヲ及サス  
二審判決ニ於ケル訴訟手續ノ瑕疵ハ二審判決ノ當否ニ影響ヲ及サス  
三審判決ニ於ケル訴訟手續ノ瑕疵ハ三審判決ノ當否ニ影響ヲ及サス  
四審判決ニ於ケル訴訟手續ノ瑕疵ハ四審判決ノ當否ニ影響ヲ及サス  
五審判決ニ於ケル訴訟手續ノ瑕疵ハ五審判決ノ當否ニ影響ヲ及サス  
六審判決ニ於ケル訴訟手續ノ瑕疵ハ六審判決ノ當否ニ影響ヲ及サス  
七審判決ニ於ケル訴訟手續ノ瑕疵ハ七審判決ノ當否ニ影響ヲ及サス  
八審判決ニ於ケル訴訟手續ノ瑕疵ハ八審判決ノ當否ニ影響ヲ及サス  
九審判決ニ於ケル訴訟手續ノ瑕疵ハ九審判決ノ當否ニ影響ヲ及サス  
十審判決ニ於ケル訴訟手續ノ瑕疵ハ十審判決ノ當否ニ影響ヲ及サス

- 一審廷訟ニ於ケル訴訟手續ノ瑕疵ハ二審判決ノ當否ニ影響ヲ及サス  
判決同年八六七號  
 盜贓故買ノ件
- 控訴申立書ニ不服ノ程度ヲ限リテ記載スルモ公判始末書ニ依リ罪ヲ犯シタルコトナシトノ申立ヲナシタルコト明カナルトキハ其申立ハ一審判決ノ全部ニ對スル控訴ノ申立ナリトス  
二十八年九月六日大審院判決同年八八二號  
 私書偽造ノ件
- 控訴申立書ニ主刑ノミヲ不服トスル旨ノ記載アルモ審判ニ際シ全部不服ノ申立アリタルトキハ其申立ヲ參酌シ全部ニ對スル控訴アリタルモノト解釋ス  
二十八年九月十六日大審院判決同年九一四號  
 詐欺取財ノ件
- 被告人ヨリ控訴ノ申立ヲ爲シタル場合ハ控訴者タル被告人ヨリ控訴ノ理由ヲ申立ツルハ審理上當然ノ手續ニシテ又斯クセサルヲ得サル事柄ナリトス故ニ刑罰二百五十八條ノ規定ハ控訴院ノ審理手續ニシテ一審ノ審理手續ト牴觸セサルモノニ付テ一審ニ關スル規定ヲ適用スヘシトノ律意ト解釋セサルヲ得ス  
二十八年十月十四日大審院判決同年一〇六〇號  
 私印盜用ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百五十八條 控訴ノ裁判ニ付テハ地方裁判所ノ第一審ニ

關スル規定ヲ適用ス

第一審ニ於テ訊問シタル證人又ハ鑑定ヲ爲シタル鑑定人ハ控訴裁判所ニ於テ其再度ノ訊問鑑定ヲ必要ナリトセサルトキハ之ヲ呼出サトルコトヲ得

辯護人ヨリ控訴申立タル場合ニ於テハ先ツ辯護人ニ對シ其趣意ヲ訊問スヘキモノトス  
刑ノ輕重權衡ヲ得サルモノトス從テ之ヲ以テ控訴ノ理由ニシテ完全ナル上ハ一審ヲ取消スノ必要ナシ  
一審ニ於テ沒收スヘカラサル物件ヲ沒收シタルコト不法ナルコトヲ證明セザルニテ一審判決ニ對シテ控訴アリタルトキハ二審裁判所ハ合併シテ審理スルコトヲ得ヘシト雖モ

- 辯護人ヨリ控訴ヲ申立タル場合ニ於テハ先ツ辯護人ニ對シ其趣意ヲ訊問スヘキモノトス  
二十八年十月二十五日大審院判決同年一二八四號  
 毆打創傷ノ件
- 刑ノ輕重權衡ヲ得サルハ判決其當ヲ得サルモノトス從テ之ヲ以テ控訴ノ理由トシ一審判決ノ變更ヲ訴求スルヲ得  
二十八年十一月四日大審院判決同年九八八號  
 贓物故買ノ件
- 一審二回ノ開廷ニ判事ノ變更アリ更ニ取調ヲ爲サルハ欠漏アルモノ一審手續ノ不法ハ二審ニ於テ履行シタルモノナレハ判決ニシテ完全ナル上ハ一審ヲ取消スノ必要ナシ  
二十九年二月四日大審院判決二十八年二四七〇號  
 私文書毀棄ノ件
- 一審ニ於テ沒收スヘカラサル物件ヲ沒收シタル不法ヲ看過シ判決ノ取消ヲ爲サス反テ被告ノ控訴ヲ棄却シタル裁判ハ不法ナリトス  
二十八年三月二日大審院判決同年一五一號  
 強盜教唆ノ件
- 二個ノ被告事件ニ付一審裁判所ニ於テ各別ニ判決ヲ受ケ其二個ノ判決ニ對シ控訴アリタルトキハ二審裁判所ハ合併シテ審理スルコトヲ得ヘシト雖モ



此場合ニアリテ數罪俱發例ニ照シ一ノ重キニ從テ處斷スヘク各罪各自ニ本刑ヲ科スルヲ得ス二十九年五月二十一日大審院判決同年四四九號 詐欺取財ノ件

共犯事件ノ控訴ニ對シ甲者ノ控訴ヲ理由アリトシテ一審判決ヲ取消シ無罪ノ判決ヲ言渡スモ其認定ノ事實ニ異同ヲ生セサル以上ハ乙者ノ控訴ヲ理由ナシトシテ棄却スルハ當然ナリ二十九年九月四日大審院判決同年七四號 詐欺取財罪ノ件

○ 控訴裁判所ハ控訴ノ範圍不明ナルトキハ被告人ヲ審問シテ其範圍ヲ定ムルノ職權ヲ有ス二十九年十一月十日大審院判決同年一〇九二號 窃盜ノ件

甲控訴院ノ判決ヲ破毀シテ乙控訴院ニ移送シタル場合ニアリテハ乙控訴院ハ恰モ始メテ一審ノ控訴ヲ受ケタルト同一ノ地位ニアルモノトス二十九年十二月十五日大審院判決同年一〇九六號 酒精稅法違犯ノ件

○ 大審院ニ於テ甲控訴院ノ判決ヲ破毀シテ乙控訴院ニ移送シタル場合ニ於テ甲控訴院カ無罪ヲ言渡シ既ニ確定シタルモノナルトキハ乙控訴院ハ其無罪ノ部分ニ對シ裁判スヘキモノニ非ス三十年十月二十二日大審院判決同年八二五號 私印盜用ノ件

移送ヲ受ケタル控訴院ハ前シテ於テ爲シタル爲ヘカラスヘカラストス三十年十一月九日大審院判決同年八四五號 詐欺取財ノ件

○ 全部控訴ノ場合ニ於テ其一部ニ對シテ理由アリ他ノ部ニ對シテ理由ナキトキハ當然二個ノ判決ヲナスモノトス三十年十一月九日大審院判決同年八四五號 詐欺取財ノ件

期間外附帶控訴ノ効力

○ 期間外ノ附帶控訴ハ附帶スヘキ控訴ノ有効ニ成立シタルトキニアラサレハ成立セス二十四年六月十九日大審院判決同年一二七號 強盜ノ件

刑訴二百五十九條二項ノ律意

○ 刑訴二百五十九條二項ニ控訴裁判所檢事モ亦附帶控訴ヲ爲スコトヲ得トハ其一項ニ控訴ノ相手方ニ附帶控訴ヲ爲スコトヲ許スノミナラス相手方ニ非サル控訴裁判所ノ檢事ニモ此上訴ヲ許シタルモノトス故ニ一審裁判所檢事ノ控訴アル場合ト雖モ控訴裁判所檢事ハ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ二十二年大審院判決同年四七五號 委託物費消ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百五十九條 控訴ノ相手方ハ其判決アルマテ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

控訴裁判所ノ檢事モ亦附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

附帶控訴ノ要件

○ 附帶控訴ハ某事件ニ對スル主タル控訴アル場合ニ於テ之ニ附帶シテ提起スヘキモノナレハ其對手人及ヒ其事件ハ必ス同一ナラサルヘカラス若シ其一ヲ異ニスルニ於テハ附帶控訴トシテ提起スルヲ得サルモノトス二十六年十二月十日大審院判決同年九六號 放火ノ件

一審判決ノ全部ニ對スル被告ノ控訴

○ 一審判決ノ全部ニ對スル被告ノ控訴ニ於テ苟モ其判決ニ不當ノ處アル上ハ

第五編 上訴 控訴



被告ノ不利益ニ歸セサルモノハ總テ其控訴中ニ包含シタルモノト看做スカ  
故特ニ被告ノ申立ナキモ檢事ノ附帶控訴ニ依リ一審判決ニ違法アリト認ム  
ルトキハ被告ノ控訴ハ理由アリト判決スヘキモノトス 二十七年一月二十五日大審  
院判決同年二月二十六日大審院 竊盜ノ  
件

檢事ニ於テ刑  
期輕キニ失セ  
リトノ附帶控  
訴ヲ爲シタル  
場合

○檢事ニ於テ刑期輕キニ失セリトノ附帶控訴ヲ爲スハ職權上法律適用ノ不當  
ヲ訴フルモノナレハ違法ニ非ス 二十八年七月二日大審  
院判決同年七月九日大審 詐欺取財ノ件

檢事ヨリ情狀  
酌量ノ請求ヲ  
爲スモ特ニ附  
帶控訴タルコ  
トヲ明言セザ  
ルトキ

○檢事ヨリ情狀酌量ノ請求ヲ爲スモ特ニ附帶控訴タルコトヲ明言セザルトキ  
ハ直チニ其請求ヲ以テ附帶控訴ト認ムルヲ得ス 二十八年九月十六日大審院判決同年九月十四日大審院 詐欺取財ノ件  
○檢事公廷内ニ於テ附帶控訴ヲナス場合ニアリテハ特ニ控訴申立書ヲ提出ス  
ルノ要ナク又相手方ニ對シ之カ通知ヲ爲スヲ要セス 二十八年十一月四日大審院判決同年九月八日大審院 贓物故買  
ノ件

附帶控訴申立  
ノ時期

○檢事ハ事實訊問終結後ト雖モ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得 二十八年十一月四日大審院判決同年九月八日大審院 贓物故  
買ノ件

刑罰二百五十  
四條ノ適用

○控訴申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘキ法則即チ刑罰二百五十四條ハ主タル控  
訴ニ適用スヘキモノニシテ附帶控訴ニ適用スヘキモノニアラス 二十八年十一月十日大審院判決同

檢事ハ處刑輕  
キニ失スルト  
キハ情狀匹敵セ  
サルヲ理由トシ  
其判決  
ニ對シ控訴若クハ附帶控訴ニ依リ其變更ヲ求ムルコトヲ得 二十八年十一月二十八日大審院判決同年二月二十六日大審院

八六號 詐欺取財ノ件  
○檢事ハ處刑輕キニ失スト思料スルトキハ情狀匹敵セサルヲ理由トシ其判決  
ニ對シ控訴若クハ附帶控訴ニ依リ其變更ヲ求ムルコトヲ得 二十八年十一月二十八日大審院判決同年二月二十六日大審院  
私印偽造行使ノ件

附帶控訴ニ對  
シ被告ニ反證  
提出ノ告知ヲ  
爲サル場合

○一審ハ通常竊盜ヲ以テ論シ控訴院檢事ハ刑法三百六十八條ノ竊盜ナリト附  
帶控訴シタリ然ルニ此附帶控訴ニ對シ被告ニ反證提出ノ告知ヲ爲サス結審  
シタルハ不法ナリト云フモ刑法三百六十八條ノ門戶牆壁ヲ踰越損壞云々ハ  
竊盜以外ニ成立スル犯罪ニアラス故ニ證據調ノ結果ニヨリ附帶控訴ヲ爲シ  
タルハ相當ノ時機ニシテ裁判所モ反證提出ノ告知ヲ爲スノ要ナシ 二十九年一月  
十六日大審院  
判決二十八  
年一四四號 竊盜ノ件

已ニ審理シタ  
ル事項ニ付其  
取調後附帶控  
訴アリタルト  
キハ更ニ被告  
人ヲ訊問シ證  
據ヲ爲スヘキ  
事ナラズ

○事實并ニ證據ノ取調ヲナスニ當リ己ニ審理シタル事項ニ付其取調結了ノ後  
檢事ノ附帶控訴アルモ更ニ被告人ヲ訊問シ證據調ヲ爲スヲ要セス 二十九年一月  
二十三日大審

法律適用ニ關  
スル檢事ノ辯  
論ノ性質

○法律適用ニ關スル檢事ノ辯論ハ其意見ニシテ附帶控訴ニアラス 二十九年二月三日大審院判決二十八  
年一四四號 強盜ノ件



附帶控訴ノ申立ハ必スシモ其法律語ノ明言ヲ要セス

○附帶控訴ヲ爲スニハ必スシモ附帶控訴ナル法律語ヲ明言スルヲ要セス其趣意ヲ認メ得ヘキ陳述アルヲ以テ足レリトス 大審院判決同年五月二十七日 詐欺取財ノ件

附帶控訴申立ノ時期

○附帶控訴ハ本案ノ判決アルマテ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノナレハ公延ニ於テ直ニ其申立ヲナシ通常控訴ノ手續ヲ履踐スルヲ要セス 二十九年十月十六日大審院判決同年四月二十九日 私印偽造行使ノ件

附帶控訴ノ効力

○甲控訴院檢察事ノ職權ヲ以テ爲シタル附帶控訴ハ大審院ニ於テ甲控訴院ノ判決ヲ破毀シ乙控訴院ニ移送シタル場合ト雖モ依然其効ヲ有シ乙院檢察事ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得ヘキモノニアラス 三十年三月五日大審院判決同年一月八日 證書偽造行使ノ件

附帶控訴ト被訴ノ控訴トノ關係

○一審判決ニ對シ檢察事ノ爲シタル刑期輕キニ失ストノ附帶控訴ト被告ノ控訴トハ其理由ニ於テ一致スヘキ道理ナシ故ニ一審判決ノ刑期輕キニ失ストノ檢察事ノ附帶控訴ヲ理由アリトシ一審判決ヲ取消シタル場合ニ於テ被告ノ控訴モ亦理由アリト説明シタル判決ハ不法ナリ 三十年四月十三日大審院判決同年三月三十日 墮胎ノ件

附帶控訴ニ基キ一審判決ヲ取消シタル場合

○檢察事ノ附帶控訴ニ基キ三犯ヲ初犯ト誤認シタル一審判決ヲ取消シ更ニ加重ノ刑ヲ言渡シタル裁判ニ於テ被告ノ控訴モ亦理由アリト説明シタルハ不法ナリ 三十年四月十六日大審院判決同年二月二十六日 竊盜ノ件

判決主文ノ生シタル原因ニシテ不法ノ點アルトキ之ヲ控訴ノ理由ト爲スチ得ヘシ

○判決主文ノ生シタル原因ニシテ不法ノ點アルトキハ之ヲ攻撃シテ控訴ノ理由トナスコトヲ得故ニ檢察事ノ附帶控訴ヲ採用シテ一審判決ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ト雖モ被告ノ攻撃理由ニシテ正當ノ點アルトキハ其控訴モ亦理由アルモノトス 三十年十二月十日大審院判決同年一月三十日 詐欺取財ノ件

附帶控訴ハ主文ニ於テ立シタル事項ナルヲ以テ成立セシメタル判決

○被告人ヨリ主タル控訴ヲ爲シ檢察事ヨリ刑期重キニ失ストノ附帶控訴ヲ爲シタル場合ニ於テハ兩者ノ控訴適法ナリ然ルニ被告人ヨリ控訴アリタル以上ハ刑ノ輕重ハ自ら審査ヲ受クヘキ事項ニ屬スルヲ以テ檢察事ノ附帶控訴ハ成立セスト説明シタル判決ハ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリ 三十年十二月二十三日大審院判決同年九月四日 詐欺取財ノ件

一旦申立タル附帶控訴取消ノ効力

○檢察事カ一旦附帶控訴ヲ申立タル以上ハ其後其附帶控訴ヲ取消ス旨ヲ陳述スルモ取消シノ効ヲ生スヘキ者ニ非レハ此ノ附帶控訴ニ對シ相當ノ裁判ヲ與ヘサルヘカラス 三十一年四月二十九日大審院判決同年四月六日 官ノ記號盜用ノ件

○原判決ヲ取消更正スルトキハ刑期計算上被告人ニ利益アルヘキ場合ト雖モ現ニ言渡ス可キ刑原裁判ノ科シタル刑ヨリ重カル可キトキハ刑訴二百六十五條ニ所謂被告人ニ不利益ノ場合ナリ 二十四年九月二十四日大審院判決同年六月六日 送金手形偽造行使ノ件

現ニ言渡シタル刑ノ原裁判トキ



控訴ハ相當ノ  
裁判ヲナセハ  
不足ル點理由  
ヲ示スノ要ナ  
シ

罪名變更サル  
ハモ刑罰同一  
ナル場合

【參照】 刑事訴訟法 第二百六十五條 被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ  
爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サス  
被告人ノ利益ノ爲メ檢事ヨリ控訴ヲ爲シタルトキ亦同シ  
○控訴アリタルトキハ之ヲ覆審シテ更ニ相當ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス而シ  
テ爭點ヲ判斷シ其理由ヲ明示スルノ必要ナシ 二十九年六月二十二日大  
審院判決同年六二三號 酒精營業税法  
違犯ノ件

○原院ニ於テ一審裁判所カ被告ノ所爲ヲ證書騙取罪トナシタルヲ不當ナリト  
認メ之ヲ私書偽造ナリトナスモ其刑一審ト同一ナル上ハ寔モ被告ノ不利益  
トナルコトナキヲ以テ一審判決ヲ變更シテ私書偽造罪トナシ處斷スヘキヲ當  
然トス然ルニ原院カ之ヲ刑罰二百六十五條一項ニ依リ被告人ノ不利益ニ變  
更セス云々ト判決セシハ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリ 二十七年十二月十七日大  
審院判決同年一三三四號  
私書偽造行使ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百六十五條 被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ  
ナシタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益トナスコトヲ許サス  
被告人ノ利益ノ爲メ檢事ヨリ控訴ヲ爲シタルトキ亦同シ

○一審裁判所カ被告ノ罪ヲ一箇ノ罪トナシタルトキ被告人ノミナシタル控訴

一審判決ヲ變

更シテ二罪ト  
爲シテ法百條  
ヲ適用シタル  
ニ對シテ

ニ對シ二審裁判所ハ之ヲ二箇ノ罪トナシ刑法百條ヲ適用シテ處斷シタルハ  
原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益トナシタルモノニテ刑罰二百六十五條ノ  
法則ヲ適用セザル違法ノ裁判ナリ 二十八年一月二十二日私印盜用ノ件  
大審院判決同年一四號

【參照】 刑事訴訟法 第二百六十五條 被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ  
ナシタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益トナスコトヲ許サス  
被告人ノ利益ノ爲メ檢事ヨリ控訴ヲナシタルトキ亦同シ

○一審ハ謀殺ニ問擬シ二審ハ強盜殺人ニ問擬シタリ而シテ被告ノ控訴ナルニ  
強盜罪ヲ附加シタルハ不利益ノ變更ナリト論告スルモ一審判決ト事實ノ認  
定ヲ異ニシタルノミ新ニ事實ヲ増加シタルニ非ス其科シタル刑ハ彼此同一  
ナレハ不利益ノ變更ト云フヘカラス 二十八年二月二十二日大  
審院判決同年二四〇號 謀殺ノ件

○被告人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲ス  
ヲ許サス然ルニ印願沒收ノ附加刑ヲ科シタルハ刑罰二百六十五條ニ違背ス  
ル不法ノ判決ナリ 二十八年九月三十日大  
審院判決同年八二五號 公文書變造行使ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百六十五條 被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ  
ナシタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益トナスコトヲ許サス

科刑同一ニ  
スルニ於テハ  
不利益ヲ變更  
シタルモノニ  
非ス

被告人ノミ控  
訴ヲ爲シタル  
トキハ之ヲ不  
利益ニ變更ス  
ヘカラス











一審認定  
ニシタルハ

二審ハ一審  
判決ノ認  
メタル  
ル罪名ニ  
拘束セ  
ラレシ

前科ニ付  
前審ニ  
シタルハ

無罪ノ理由  
付前審ト  
見テ異  
ニシタル  
トキ

二審ハ事實  
認定ヲ異  
ニシタル  
モ不法  
ニアラ  
ズ

前審ト認定  
テ異  
ニシタル  
ハ判決  
ヲ破棄  
スヘシ

同年一  
二號 官文書偽造ノ件

刑 五百七十

○二審ハ覆審ヲナス裁判所ナルヲ以テ一審裁判所ノ認メタル罪名ニ拘束セラ  
ル、コトナク被告事件ノ事實中犯罪ヲ構成スヘシト認定シタル點ニ對シ事  
實及ヒ法律ニ依リ理由ヲ付シテ刑ヲ適用スヘク一審裁判所ノ認定シタル犯  
罪ノ有無ヲ斷定スルニ止マルヘキ者ニアラス又一審ト意見ヲ異ニスル場合  
ニ於テモ特ニ一審判決ノ不當ナル理由ヲ明示スルヲ要セス 二十八年四月九日大審  
院判決同年三八八號 詐  
欺取財ノ件

○前科ニ付一審二審ト認定ヲ異ニスルモ本案ノ裁判ニ影響セサルヲ以テ一審  
ヲ取消スニ及ハス 二十八年四月十六日大  
審院判決同年四二二號 盜贓故買ノ件

○二審ニ於テ一審ノ判決ト無罪ノ理由ヲ異ニスルトキハ其一審判決ヲ取消シ  
更ニ判決セサル可カラズ 二十八年九月二十日大審  
院判決同年一〇六七號 約束手形偽造ノ件

○二審ハ一審判決ヲ變更シ被告人ノ不利益トナスコトヲ得サルニ止マリ事實  
ノ認定ヲ異ニスルハ其自由ニ任ヌ 二十九年三月六日大  
審院判決同年九一號 詐欺取財ノ件

○一審二審判決互ニ認定ヲ異ニシタルハ一審判決ヲ破毀スヘキモノトス 二十  
九年三月十七日大審院判決  
院判決同年二五八號 冒認ノ件

事實認定  
ニシタル  
ハ構成等  
ノ影響  
ヲ及ボサ  
ル

證據力ノ輕重  
ニ付一審ト  
其  
意見ヲ異  
ニシ  
タルトキ

罪名變更ハ各  
審ノ職權ナリ

二審カ一審ト  
事實認定ヲ異  
ニシタル場合

一審判決ト犯  
罪ノ認定  
ト異  
ニシタルハ

二審ニ於テ一  
審ノ事實認定  
ヲ訂正スルニ  
ハ附帶控訴ヲ  
要セス  
事實ノ變更ハ  
其職權也

○一、二審ノ判決互ニ事實ノ認定ヲ異ニスルモ犯罪ノ構成并ニ時効等ニ關係ヲ  
及ボサ、ル以上ハ一審判決ヲ取消スヲ要セス 二十九年四月二十三日大  
審院判決同年二八三號 監守犯ノ件

○證據力ノ輕重ニ付兩審級ノ判決互ニ其意見ヲ異ニスルモ一審判決ヲ取消ス  
ノ理由トナスニ足ラス 二十九年六月十五日大  
審院判決同年五九二號 詐欺取財ノ件

○同一ノ事實ニ對シ罪名ヲ變更スルハ裁判所ノ職權ニ屬ス從テ二審ニ於テ一  
審ト罪名ヲ異ニスル裁判ヲ爲スハ不法ニアラス 三十年四月十六日大審  
院判決同年三二三號 詐欺取財ノ件

○一審ノ認メタル二所爲ノ中一所爲ヲ事後ノ所爲トナシ犯罪成立セサルモノ  
ト認メナカラ一審判決ヲ取消サ、ルハ不法ナリ 三十年五月三十一日大  
審院判決同年四〇七號 監守盜ノ件

○豫審終結決定書ト一審判決ト犯罪ノ日時ヲ異ニスルモ公訴時効等ニ關係ヲ  
及ボサ、ル場合ニアリテハ一審判決ヲ取消スノ必要ナシ 三十年七月二十三日大  
審院判決同年六六七號 詐  
欺取財ノ件

○控訴審ニ於テ一審裁判ノ事實認定ヲ訂正スルハ被告人ノ控訴ニ依リテ爲ス  
コトヲ得ヘシ檢事ノ附帶控訴アルヲ要セス 三十年十二月二十三日大  
審院判決同年九五七號 竊盜ノ件

○一審裁判所ノナシタル判決ノ罪質ヲ變更スルト否トハ二審裁判所ノ職權ナ  
リトス 三十年十二月二十三日大  
審院判決同年九五七號 竊盜ノ件

第五編 上訴 控訴

刑 五百七十一







控訴申立書ノ差出方

○控訴申立書ハ監獄署長又ハ第一審裁判所へ差出スヘキモノニシテ第二審裁判所へ差出スヘキモノニ非ス從テ其申立書ヲ第二審裁判所へ差出シタルニ依リ二審裁判所ヨリ一審裁判所へ廻送シタル場合ニ於テ五日ノ期間經過後ニ係ルトキハ其控訴ハ無効ナリ三十二年十一月十四日大審院判決同年一〇四四號詐欺取財ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百五十四條(第一項) 控訴ヲ爲スニハ其申立書ヲ原裁判所ニ差出ス可シ

俱發一ノ重キニ從テ其場合ニ於テ其申立書ヲ第二審裁判所へ差出シタル場合ト雖モ第二審裁判所ハ全部ニ付審理スヘキモノトス三十二年十二月五日大審院判決同年七六九號私印私書偽造行使ノ件

擬律ニ錯誤アルコトヲ認メタルニ拘ラス被告人ノミノ控訴ニ係ルヲ以テ刑事訴訟法第二百六十五條ノ法則ニ基キ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益トナスコトヲ得サルヲ理由トシテ控訴ヲ棄却シタル判決ハ不法ナリ三十二年十二月十三日大審院判決同年一〇六號私印盜用私書偽造行使ノ件

○第一審裁判所ニ於テ數罪俱發一ノ重キニ從テ處斷シタル場合ニ於テハ俱發シタル數罪全部ニ對シ單一刑ヲ言渡シタルモノニシテ其言渡シハ不可分ナリ從テ其中ノ一罪ニ對シテノミ控訴シタル場合ト雖モ第二審裁判所ハ全部ニ付審理スヘキモノトス三十二年十二月五日大審院判決同年七六九號私印私書偽造行使ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百六十五條 (一項) 被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ得ス

主ナル控訴附帶控訴共ニ對スル場合ニ於テ第一審判決ヲ取消ストキハ被告ノ控訴共ニ理由アルモノトス三十二年二月六日大審院判決三十二年一月一四〇號

附帶控訴カ一更正ヲ求ムルニシテ第一審判決全部ノ更正ヲ求ムル趣旨ナルトキハ其附帶控訴モ亦理由アルモノトス三十二年二月七日大審院判決三十二年一月一四〇號

所爲ニ對スル認定ヲ異ニスル場合

前審判決ヲ不取消シタルトキ其取消ノ理由ト異ナルトキ

○罪トシテ論スヘキ所爲ニ關シ第一審ト第二審ト其認定ヲ異ニスルトキハ被告ノ控訴ハ理由アルモノトス三十二年二月九日大審院判決同年二二號盜贓牙保ノ件

○第二審ニ於テ第一審判決ノ不當ヲ認メ之ヲ取消シタル以上ハ假令其取消ノ理由ニシテ被告ノ主張セシ判決ト異ナル場合ト雖モ判決全部ニ對スル控訴ナルトキハ其控訴ハ理由アルモノトス三十二年二月十日大審院判決同年第五號私書偽造行使ノ件

○被告ノ控訴ノ理由アルコトヲ認メナカラ原判決ヲ被告人ノ不利益ニ變更ス







ト爲ス  
輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最モ重キ者ニ從テ處斷ス

檢事ノ附帶控訴ニ基キ第一審判決ノ瑕疵ヲ認メテ之ヲ取消ス以上ハ其瑕疵  
テノ取消シタル  
判決

控訴ノ趣意

輕罪ノ控訴成立  
條件ナリ  
刑訴二百六十  
五條ノ法則ノ  
趣意

○檢事ノ附帶控訴ニ基キ第一審判決ノ瑕疵ヲ認メテ之ヲ取消ス以上ハ其瑕疵  
ト認ムヘキ點ニ付被告ノ主張アリタルト否トニ拘ラス第一審判決ノ全部ニ  
對スル控訴モ亦理由アルモノトス三十二年五月二十五日大盜盜ノ件  
審院判決同年五十五號

○控訴ハ第一審判決ノ更正ヲ求ムルモノナレハ被告ノ爲シタル控訴ヲ理由ア  
リトシテ第一審判決ヲ取消ス以上ハ檢事ノ附帶控訴モ亦理由アルモノトス  
三十二年六月十五日  
判決同年第六五九號 私書偽造行使等ノ件

○輕罪ノ控訴豫納ハ控訴成立ノ條件ナリ三十二年六月十二日  
判決同年第六六五號 商標條例違犯ノ件

○刑事訴訟法第二百六十五條ニ所謂原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲ス  
コトヲ許サストノ法則ハ判決主文ノ刑ヲ重キニ變更スルコトヲ許サ、レノ  
趣旨ナリ三十二年十月十六日  
宣旨同年第八三六號 官文書變造ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百六十五條第一項 被告人辯護人又ハ法律上代理人ノ控  
訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サス

○私訴ニ關スル控訴ノ理由アルヤ否ヲ審理スルハ刑事訴訟法第二百六十一條

控訴ノ審理

ニ據ルヘキモノトス三十二年十月二十日  
判決同年第九四九號 謀殺ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百六十一條 控訴裁判所ニ於テハ控訴ノ理由ナシトスル  
トキハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却スヘシ控訴ヲ理由アリトスルトキハ原判決ヲ取消  
シ更ニ判決ヲ爲スヘシ

二審ニ於テ共  
犯ノ事實ナシ  
トシテ無罪ト  
言ハシテ他ノ  
一人ニ對シテ  
控訴ノ理由ナ  
キトキ

刑訴二百六十  
五條ノ法意

○第一審ニ於テ甲者ヲ乙者ノ共犯トシテ處罰シタル場合ニ於テ第二審ニ於テ  
甲者ニ共犯ノ事實ナシトシテ無罪ヲ言渡スモ乙者ノ控訴ニシテ理由ナキハ  
ハ之ヲ棄却スヘキモノトス三十二年十月二十日  
判決同年第一〇三五號 森林竊盜等ノ件

○刑事訴訟法第二百六十五條ニ所謂原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲ス  
コトノ法則ハ判決主文ノ刑ヲ重キニ變更スルコトヲ許サ、ルノ趣旨ナリ從  
テ第一審ニ於テ一罪ト認メタル事件ヲ第二審ニ於テ數罪ト認定スルコトア  
ルモ判決主文ノ刑ヲ重ク變更セサル以上ハ被告人ノ不利益ニ變更シタルモ  
ノト謂フヲ得ス三十二年十月二十三日  
判決同年第八八一號 私印私書偽造行使等ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百六十五條(第一項) 被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ  
控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サス

○控訴棄却ヲ爲スニ付キ法條ヲ明示スヘキ規定ナキヲ以テ之ヲ示サル、モ適  
法ニアラス三十二年十月二十四日  
判決同年第一〇六六號 竊盜等ノ件

第五編 上訴 控訴

控訴棄却ノ法  
條ヲ明示スル  
ヲ要セス







一審判決中數多ノ環璣アルヲ認メ之ヲ取消ス場合ニ於テハ其一ヲ摘示スルヲ以テ足レリトス  
三十三年度五月三日判決  
三十三年度五月五日判決  
三十三年度五月九日判決  
三十三年度五月十一日判決  
三十三年度五月十三日判決  
三十三年度五月十五日判決  
三十三年度五月十七日判決  
三十三年度五月十九日判決  
三十三年度五月二十一日判決  
三十三年度五月二十三日判決  
三十三年度五月二十五日判決  
三十三年度五月二十七日判決  
三十三年度五月二十九日判決  
三十三年度五月三十一日判決

控訴申立書中被告ノ署名捺印シキトキハ縦合控訴豫納金ヲ被告人ヨリ納付シタル事實アリトスルモ該控訴ハ被告人ノ自ヲ爲シタルモノト謂フヲ得ス(同斷)

辯護人ノ上訴

私訴請求ノ原因アリトシタル私訴ノ請求ノ性質

公訴不受理ノ判決ニ對シテ控訴權ヲ有スル者

刑罰第二百十八條第二項ノ不適用

附帶控訴カ期シ場合

一審カ缺席判決ヲ爲スヘカ決テ爲シタルニ其判決ヨリ三日以内ニ申立テタル控訴ノ效力

控訴申立人ノ缺席及其事實

○控訴裁判所ニ於テ第一審判決ニ數多ノ環璣アルヲ認メ之ヲ取消ス場合ニ於テハ其一ヲ摘示スルヲ以テ足レリトス  
三十三年度五月三日判決  
三十三年度五月五日判決  
三十三年度五月九日判決  
三十三年度五月十一日判決  
三十三年度五月十三日判決  
三十三年度五月十五日判決  
三十三年度五月十七日判決  
三十三年度五月十九日判決  
三十三年度五月二十一日判決  
三十三年度五月二十三日判決  
三十三年度五月二十五日判決  
三十三年度五月二十七日判決  
三十三年度五月二十九日判決  
三十三年度五月三十一日判決

○控訴申立書ニ被告人ノ署名捺印ナキトキハ縦合控訴豫納金ヲ被告人ヨリ納付シタル事實アリトスルモ該控訴ハ被告人ノ自ヲ爲シタルモノト謂フヲ得ス(同斷)

○第一審裁判所ニ於テ辯護人タリシ者ニ非サレハ被告人ニ代リテ控訴ヲ爲スコトヲ得ス  
三十三年度五月五日判決  
三十三年度五月九日判決  
三十三年度五月十一日判決  
三十三年度五月十三日判決  
三十三年度五月十五日判決  
三十三年度五月十七日判決  
三十三年度五月十九日判決  
三十三年度五月二十一日判決  
三十三年度五月二十三日判決  
三十三年度五月二十五日判決  
三十三年度五月二十七日判決  
三十三年度五月二十九日判決  
三十三年度五月三十一日判決

○私訴ノ請求ノ原因ノミニ付キ裁判ヲ爲シ其原因アリトシタル裁判ハ刑事訴訟法第二百五十條ニ所謂本案ノ判決ニ非ス  
三十三年度五月三日判決  
三十三年度五月五日判決  
三十三年度五月九日判決  
三十三年度五月十一日判決  
三十三年度五月十三日判決  
三十三年度五月十五日判決  
三十三年度五月十七日判決  
三十三年度五月十九日判決  
三十三年度五月二十一日判決  
三十三年度五月二十三日判決  
三十三年度五月二十五日判決  
三十三年度五月二十七日判決  
三十三年度五月二十九日判決  
三十三年度五月三十一日判決

【參照】 控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ第百八十七條ニ規定シタル本案前ノ判決ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得

○公訴不受理ノ判決ハ本案ノ判決ナリ從テ檢事ハ公訴不受理ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲スコトヲ得  
三十三年度五月二十一日判決  
三十三年度五月二十三日判決  
三十三年度五月二十五日判決  
三十三年度五月二十七日判決  
三十三年度五月二十九日判決  
三十三年度五月三十一日判決

○檢事ハ被告事件ニ陳述スヘシトノ法則刑事訴訟法第二百十八條第二項ハ第一審公判ニ適用スヘキモノニシテ第二審公判ニ適用スヘキニアラス  
三十三年度五月廿八日宣告  
三十三年度五月九日宣告

○數個ノ所爲中幾部ハ無罪幾部ハ有罪ノ言渡ヲ爲シタル判決ニ對シ被告人有罪ノ部分ニ付キ檢事ハ全部ニ付キ各控訴申立ヲ爲シタル場合ニ於テ檢事ノ控訴申立ハ法定ノ期間經過後ナルニモ拘ハラズ之ヲ受理シ被告ノ控訴ト共ニ審判シタル處措ハ不法ナリ  
三十四年一月十八日宣告  
三十二年九月一六號

○第一審ニ於テ缺席判決ヲ言渡スヘカラサルニ場合缺席判決ヲ言渡シタルトキト雖モ形式上缺席判決ナレハ其判決ノ送達ヨリ三日以内ニ申立タル控訴ハ有効ナリ從テ第一審判決ハ對席判決ナルヲ以テ其言渡ヨリ五日以内ニ控訴ノ申立ヲ爲サ、ルハ不法ナリトシテ控訴ヲ棄却シタル第二審判決ハ不法ナリ  
三十四年二月二十一日宣告  
三十四年三月十九日宣告  
三十四年三月廿七日宣告

○控訴裁判所ニ於テ控訴申立人出頭セサルトキハ直チニ關席判決ヲ以テ控訴ヲ棄却スヘキモノトス而シテ事實ノ審理ハ勿論公訴消滅ノ關係ノ如キモ一切之ヲ審理スヘキモノニ非ス  
三十四年三月十九日宣告  
三十四年三月廿七日宣告



一審又ハ檢事  
ノ下シタル罪  
名ニ羈束セラ  
レヌ

二個ノ行爲中  
其無罪ノ行爲  
ニ付檢事ノ控  
訴申立ニ對シ  
有罪ノ判決ヲ  
爲ストキ適用  
スル法律

一審ノ訴訟行  
爲ノミヲ委任  
セラレタル代  
人ノ權限

刑罰ニ於テ代  
入ヲ以テ上訴  
スルヲ許サレ  
ルヲ定期トス

重懲役十二年  
ヲ有期徒刑十  
二年トシタル  
裁判

刑ノ比較ニ付  
一審トシタル  
異ニシタルト  
キニ審判決ヲ  
取消サルハ場  
合

犯罪ノ構成ニ  
影響ヲ及ボサ  
ル取返

刑罰二百六十  
六條ノ注意

○控訴裁判所ハ第一審裁判所又ハ檢事ノ下シタル罪名ニ羈束セラレハキモノ  
ニアラス從テ第一審裁判所カ幼者誘拐罪トシテ處斷シタル所爲ヲ以テ移民  
保護法ノ罪ナリトシ其法則ヲ擬スルハ不法ニ非ス三十四年六月二十一日宣  
告三十四年九月二十五號 幼者誘  
拐ノ件

○二個ノ犯罪行爲中無罪ノ判決ヲ爲シタル一行爲ニ付キ檢事ノ控訴アリテ控  
訴裁判所ニ於テ此點ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲ストキハ刑法第百條ヲ適用スヘ  
キモノニ非スシテ同法第百二條ヲ適用スヘキモノナルヲ以テ檢事ノ控訴ノ  
目的ハ一部控訴ニシテ全部控訴ニ非ス三十四年九月九日宣  
告三十四年六月二十八日宣  
告 恐喝取財ノ件

○第一審ノ訴訟行爲ノミヲ委任セラレタル代人ハ上訴提起ノ權限ヲ有セス從  
テ其代人ノ提出シタル控訴申立書ハ無効ナリ三十四年九月九日宣  
告三十四年六月二十八日宣  
告 酒造稅法違犯  
ノ件

○刑事訴訟法ハ代人ヲ以テ上訴ヲ爲スコトヲ許サ、ルヲ以テ定期トス故ニ例  
令罰金刑ニ處セラレタル場合ト雖モ上訴ノ申立ハ特ニ之ヲ許スノ明文ナキ  
ヲ以テ代理人ニ依リテ爲サレタル控訴ノ申立ハ不適法ナリ三十四年九月九日宣  
告三十四年八月一日宣  
告 酒  
造稅法違犯ノ件

○重懲役十二年ニ處スト言渡シタル第一審判決ヲ取消シ更ニ有期徒刑十二年  
ニ處スト言渡シタル裁判ハ刑期ニ差異ナシト雖モ一審判決ヲ變更シテ被告  
ノ不利益ニ歸シタルモノトス三十四年九月九日宣  
告三十四年九月二十日宣  
告 放火ノ件

○第一審判決ニ於テ文書偽造罪ト詐欺取財罪トヲ比較シ詐欺取財ノ點ヲ重シ  
トシタルニ對シ第二審判決ニ於テ之ヲ變更シ文書偽造ノ點ヲ重シトシタル  
ニ拘ハラス一審判決ヲ取消サ、ルハ不法ナリ三十四年九月九日宣  
告三十四年十月三日宣  
告 私書偽造行使ノ  
云々ノ件

○第一審判決カ共犯者ノ氏名ヲ明記シタルヲ第二審判決ニ於テ氏名不詳者ト  
シタルモ二名共犯タル事實ニ異同ナキ以上ハ犯罪ノ構成ニ影響ナキヲ以テ  
第一審判決ヲ取消スノ要ナシ三十四年九月九日宣  
告三十四年十月十四日宣  
告 強盜ノ件

○刑事訴訟法第二百六十六條ニ所謂申立人ノ意見ヲ聽クトハ申立人カ請求ス  
ル所即チ事實上及ヒ法律上ノ意見ヲ聽クヘシトノ意義ナリトス三十四年九月九日宣  
告三十四年十一月三  
日宣  
告 詐欺取財附帶私訴ノ件

【參照】 刑事訴訟法

第二百六十六條 控訴申立人出頭セサルトキハ欠席判決ヲ以  
テ控訴ヲ棄却シ相手方出頭セサルトキハ申立人ノ意見ヲ聽キ欠席判決ヲ爲ス可  
第五編 上訴 控訴



第一審判決ノ不當ヲ認メタルニ拘ハラヌ之ヲ取  
消サ、ルハ不法ナリ  
三十四年九月四日第一四八號  
同年十一月二十一日宣言

【參照】 刑訴 第二百六十一條第二項

公訴費用ノ分

- 第一審判決ノ不當ニシテ控訴ノ理由アルコトヲ認メタルニ拘ハラヌ之ヲ取消サ、ルハ不法ナリ  
三十四年九月四日第一四八號  
同年十一月二十一日宣言
- 控訴セサル相被告ハ一審判決確定ト共ニ該判決ニ基キ當然一審ニ於テ生シタル裁判費用ヲ負擔ス故ニ二審判決カ一審ノ相被告ニ對シ裁判費用ノ負擔ヲ定メタルモ控訴被告ニ何等ノ利害ヲ生スルコトナシ從テ控訴判決ニ於テ控訴被告ニ對シ公訴裁判費用全部ノ負擔ヲ言渡スモ不法ニ非ス  
三十四年九月四日第一四八號  
同年十一月二十一日宣言

### 第三章 上告

判文ノ誤記タル疑ヒナキモノハ上告ノ理由ト爲スニ足ラス  
二十四年七月二十三日大審院判決同年六四號

法律上ノ所謂擬律ノ件

- 判文ノ誤記ニシテ疑ヒナキモノハ上告ノ理由ト爲スニ足ラス  
二十四年七月二十三日大審院判決同年六四號
- 法律上ニ所謂擬律ノ錯誤トハ裁判官カ認定シタル事實ト其事實ニ該當スルモノトシ適用シタル法律ト相符合セサル場合ヲ指スナリ  
二十四年二月十八日大審院判決同年三七號 竊盜

共同被告一人ノ利益ノ効果

前審ノ判決破點ニ止マル

上告ハ自己ノ利益ニ關スルカラス

附帶上告ハ對  
手人ノ上告ヲ  
換テ存ス

刑訴二百七條  
ノ告知ナキト  
キ

ノ件

- 共同被告ノ一人上告ニヨリ利益ノ判決ヲ受クレハ上告ヲナササル被告人ニモ亦其利益ヲ及ホス
- 控訴院ノ判決ニ於テ破毀セラレタル時ハ單ニ上告點ノ判決ニ止マリ上告アラサル部分ニ影響セス  
二十六年六月一日大審院判決同年四七七號 強盜ノ件
- 凡ソ被告人ノ上告ハ必ス被告人自己ノ利益ノ爲メニ關スル事ナラサル可ラス其不利益若クハ犯罪構成又ハ處刑上影響ヲ生セサル事項ニ對シテ上告ハ成立セス  
二十六年七月十日大審院判決同年六七四號 證書偽造ノ件
- 凡ソ附帶上告ハ對手人ノ上告ニ係ラサル事件ニ付テハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス  
二十七年一月十八日大審院判決廿六年一三七三號 私書偽造行使ノ件
- 刑訴二百七條ノ告知ナキ時ハ上告期間ノ經過ヲ停止スルニ止マリ上告ノ理由トナラス  
二十七年十月二十三日大審院判決同年八六六號 私書變造ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百七條 對席判決ニ因リ刑ノ言渡アリタルトキハ裁判長

ヨリ其言渡ヲ受ケタル者ニ前條ノ請求及ヒ其判決ニ對シ上訴ヲ爲スヲ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ告知シ又欠席判決ニ因リ刑ノ言渡アリタルトキハ其判決ニ對シ



刑 五百八十八  
故障ヲ爲スヲ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ記載スヘシ若シ其告知又ハ記載ナキトキ  
ハ更ニ其通知アルマテ上訴及ヒ故障期間ノ經過ヲ停止ス

豫審終結ノ送達カ正當ノ手續ニヨラサルニモセヨ公判ノ際何等ノ申立ヲ爲  
サス且抗告モナサハレハ既ニ豫審終結ノ決定ハ確定シタルモノト  
ス故ニ之ヲ以テ抗告ノ理由トナスヲ得ス 二十七年十一月五日大審院判決同年七月九日大審院判決  
○無罪ト爲タル點ニ付テノ證人調書ヲ有罪ノ證據トシタリトノ上告論旨ハ裁判  
官ノ認定ニ屬スルヲ以テ上告ノ理由トナラス 廿七年十一月三日大審院判決同年十二月四日大審院判決  
○相被告ノ判決ニ對シ上告スルヲ許サス 二十八年七月一日大審院判決同年七月二三日大審院判決  
○上告ノ申立ヲナスモ期間内ニ趣意書ヲ提出セザレハ其上告ハ成立セス 廿八年九月六日大審院判決  
自己ノ不利益ナル申立  
豫審手續違法  
沒收ノ言渡ナキヲ論難スル  
上告  
大審院ノ判決ニ對スル批難  
大審院ノ判決ニ對スル批難

- 豫審終結ノ送達カ正當ノ手續ニヨラサルニモセヨ公判ノ際何等ノ申立ヲ爲  
サス且抗告モナサハレハ既ニ豫審終結ノ決定ハ確定シタルモノト  
ス故ニ之ヲ以テ抗告ノ理由トナスヲ得ス 二十七年十一月五日大審院判決同年七月九日大審院判決
- 無罪ト爲タル點ニ付テノ證人調書ヲ有罪ノ證據トシタリトノ上告論旨ハ裁判  
官ノ認定ニ屬スルヲ以テ上告ノ理由トナラス 廿七年十一月三日大審院判決同年十二月四日大審院判決
- 相被告ノ判決ニ對シ上告スルヲ許サス 二十八年七月一日大審院判決同年七月二三日大審院判決
- 上告ノ申立ヲナスモ期間内ニ趣意書ヲ提出セザレハ其上告ハ成立セス 廿八年九月六日大審院判決
- 自己ニ不利益ナル申立ハ上告ノ理由トナラス 二十八年九月十七日大審院判決同年九月二十二日大審院判決
- 豫審手續ノ違法ハ上告ノ理由トナラス 二十八年九月二十六日大審院判決同年七月九日大審院判決
- 沒收ノ言渡ナキヲ論難スル上告ハ被告ニ不利益ナルヲ以テ上告ノ理由トナ  
ラス 二十八年九月二十六日大審院判決同年七月九日大審院判決
- 大審院ノ判決ニ對スル批難ハ上告ノ理由トナラス 二十八年九月三十日大審院判決同年七月四日大審院判決

上告申立書ハ大審院ニ提出スヘキモノニアラス 二十八年九月三十日大審院判決同年八月三〇日大審院判決  
公訴不受理ノ判決ニ對シ上告スルヲ許ス 二十八年九月三十日大審院判決  
一罪ノ判決ニ對シテ上告スルヲ許ス 二十八年九月三十日大審院判決  
借用證書ヲ禁制品ニ非スルヲ論難スルハ擬律  
審判ノ誤ナキハ破毀シテ沒收ノ言渡ヲナストキ  
シテ之ヲ破毀シテ沒收スルハ擬律  
上告申立書ハ大審院ニ提出スヘキモノニアラス 二十八年九月三十日大審院判決  
既ニ被告本人ノ上告ナルハ其代理ノ權消滅ス

- 上告申告書ハ大審院ニ提出スヘキモノニアラス 二十八年九月三十日大審院判決同年八月三〇日大審院判決
- 公訴不受理ノ判決ニ對シ受理審判ノ申立ヲ爲スヘキ被告人ノ不利益ニ歸ス  
ル論旨ナルヲ以テ上告ノ理由トナラス 二十八年十月二日大審院判決同年十一月二日大審院判決
- 一罪ノ一判決ニ對シ二罪ノ主張ヲナスハ被告人ノ不利益ニ歸スル論旨ナル  
ヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス 二十八年十一月四日大審院判決同年九月八日大審院判決
- 偽造ノ借用證書ヲ禁制品ニアラストシテ還付ノ言渡ヲナシタル裁判ハ擬律  
錯誤ノ不法アルモノトス然レトモ其判決ヲ破毀シテ沒收ノ言渡ヲナストキ  
ハ被告人ノ不利益ニ歸スルヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス 二十八年十二月十二日大審院判決同年十二月三十一日大審院判決
- 辯護人ハ被告人ニ代リ上訴ヲナスコトヲ得ルト雖モ既ニ被告本人ニ於テ上  
告申立ヲナシタル上ハ辯護人ノ代理資格消滅スルモノナレハ被告人ハ定期  
内ニ趣意書ヲ差出サ、ルヘカラス故ニ其代理資格ナキ辯護人ヨリ趣意書ヲ  
差出スモ其效ナキモノトス 二十八年十二月二十四日大審院判決同年十二月三十一日大審院判決



訴訟記録ノ燒失ニ因リ上告論旨ノ當否ヲ鑑査スルニ由ナキトキハ原判決ハ破毀ヲ免カレヌ  
二十九年二月十四日大審院判決同年一月七號詐欺取財ノ件

辯護人ヨリ上告申立ヲ爲スタル後被告人ヨリ同ク上告申立ヲナシタルトキハ辯護人ノ上告申立ハ無効ニ屬ス  
於テ定期内趣意書ヲ差出サ  
ハルトキハ縱令辯護人ヨリ趣意書ノ差出ヲナスモ其上告ハ成立セス  
三十年十月十八日大審院判決同年七月七號強盜殺人ノ件

器物毀棄罪ニ付重禁錮及ヒ罰金ノ制裁ヲ併科シタル裁判ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルモノニシテ非常上告ノ原由トナスコトヲ得  
二十八年三月二日大審院判決同年非常上告一七八九號

二審ノ缺席判決ニ對シテハ故障ヲ爲サスシテ直ニ上告スルヲ得ス  
三十年五月二十八日大審院判決同年非常上告一五五號  
公文書偽造行使ノ件

混成酒稅法違犯事件ニ付罰金言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ被告人ニ代リテ上告スル辯護人ハ罰金額十分ノ一ノ金額ヲ豫納セサルヘカラス然ラサレハ其上告ハ成立セス  
三十一年十月十三日大審院判決同年九月九號混成酒稅法違犯ノ件

被告及ヒ辯護人双方ヨリ上告申立ヲナスモ辯護人ノ申立ニシテ被告人ノ

○訴訟記録ノ燒失ニヨリ上告論旨ノ當否ヲ鑑査スルニ由ナキトキハ原判決ハ破毀ヲ免カレヌ

○辯護人ヨリ上告申立ヲ爲スタル後被告人ヨリ同ク上告申立ヲナシタルトキハ辯護人ノ上告申立ハ無効ニ屬ス

○器物毀棄罪ニ付重禁錮及ヒ罰金ノ制裁ヲ併科シタル裁判ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルモノニシテ非常上告ノ原由トナスコトヲ得

○二審ノ缺席判決ニ對シテハ故障ヲ爲サスシテ直ニ上告スルヲ得ス

○混成酒稅法違犯事件ニ付罰金言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ被告人ニ代リテ上告スル辯護人ハ罰金額十分ノ一ノ金額ヲ豫納セサルヘカラス然ラサレハ其上告ハ成立セス

○被告人及ヒ辯護人双方ヨリ上告申立ヲナスモ辯護人ノ申立ニシテ被告人ノ

明言シタル意思ニ反セサル限りハ二者毫モ抵觸スル所ナキヲ以テ共ニ有効ナリトス從テ其申立ノ一ニシテ法定期間内ニ提出セラレ而テ被告人又ハ辯護人ヨリ上告趣意書ヲ差出シタルトキハ其上告ハ適法ニ成立シルタモノトス  
三十一年十二月五日大審院判決同年六月三九號私書偽造行使ノ件

上告申立ヲ爲シタルトキ

【參照】 刑事訴訟法 第二百三十四條 辯護人ハ被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス  
刑事訴訟法 第二百七十三條(一項) 上告ヲ爲スニハ其申立書ヲ裁判所ニ差出シ且其申立ヲ爲シタル日ヨリ五日內ニ趣意書ヲ差出スヘシ

○偽造證書ヲ沒收セサルヲ非難スル論旨ハ自己ノ不利益ニ歸スルヲ以テ上告ノ理由トナラス  
三十二年一月十七日大審院判決卅一年一〇三〇號 公文書偽造ノ件

【參照】 刑法 第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及犯罪ニ依リテ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキトキノ外之ヲ沒收スルコトヲ得ス

○事實ノ判斷ニ於テ前段ニハ犯罪ノ意思ナシトシ後段ニハ犯罪ノ意思アリトナシタル認定ハ理由ニ齟齬アル不法ノ裁判ナリ  
三十二年十月三十日 判決同第一二二號 不敬及ヒ出版法違犯ノ件

偽造證書ノ沒收セサルヲ非難スル上告論

理由ノ齟齬



判決書記ノ氏名ニ誤記アルトキ

犯罪行為ナシトスル上告趣意

大審院ノ審理手續ニ瑕疵アリトキ

法條掲記ノ位置其當ヲ得サルトキ

本案前ノ判決ト雖トモ上告スルヲ得可シ

○判決書ニ掲載アル氏名ニ誤記アルモ之ヲ以テ上告ノ理由トナスコトヲ得ス  
三十二年三月二日大審院判決同年一六二號 謀殺ノ件

○公訴判決ニ基キテ私訴判決ヲ言渡シタル判決ヲ不法トシテ上告シタル場合ニ於テ犯罪行為ナシト主張スル上告趣意書ハ公訴判決ヲ攻撃スルト共ニ私訴判決ヲ攻撃シタルモノトス  
三十二年三月十日大審院判決同年抗告五號 稼場毀損ノ件

○大審院ノ審理手續ニ瑕疵アルモ上告ノ理由トナスヲ得ス  
三十二年四月七日大審院判決同年三三四號 故殺ノ件

○法條掲記ノ位置其當ヲ得サルモ法律ノ適用ヲ誤リタルニ非サル以上ハ破毀ノ原由トナラス  
三十二年十月九日判決同年第八六九號 官吏抗拒ノ件

○公訴不受理ヲ申立テ第一審ニ於テ公訴不受理ヲ言渡シ檢事ヨリ控訴ヲ爲シ第二審ニ於テ公訴ハ受理スト言渡シタル判決ハ刑事訴訟法第二百六十七條ノ上告ヲ許シタル本案前ノ判決ニシテ之ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得  
三十二年五月二十日判決 詐欺取財未遂ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百六十七條 上告ハ地方裁判所又ハ控訴院ノ第二審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ第百八十七條ニ規定シタル本案前ノ判決ニ對シ之ヲ

爲スコトヲ得

記録ノ燒失ニ依リ上告論旨タル公訴提起ノ手續ノ徵スヘキ書類存在セサルトキ

私訴上告申立期間

○訴訟記録ノ燒失ニヨリ上告論旨タル公訴提起ノ手續ヲ徵スヘキ書類存在セサルトキハ原判決ヲ破毀シテ公訴不受理ノ裁判ヲナスヘキモノトス  
三十二年三月六日大審院判決同 詐欺取財未遂ノ件

○私訴上告申立ノ期間ハ判決言渡ノ日ヨリ三日ニシテ民事訴訟法第五十條ノ如キ特別規定ナク且之ヲ準用スヘキ規定ナシ從テ右ノ期間經過後ノ上告加入申立ハ不適當ナリ  
三十三年四月九日判決同年三月三十一號

【參照】 民事訴訟法 第五十條 然レトモ總テ共同訴訟人ニ對シ訴訟ニ係ル權利關係カ合一ニノミ確定ス可キトキニ限り左ノ規定ヲ適用ス

共同訴訟人中ノ或ル人ノ攻撃及ヒ防禦ノ方法證據方法ヲ包含ス他ノ共同訴訟人ノ利益ニ於テ效生ス  
共同訴訟人中ノ或ル人カ等ヒ又ハ認諾セサルトキト雖モ總テノ共同訴訟人カ悉ク争ヒ又ハ認諾セサルモノト看做ス  
共同訴訟人中ノ或ル人ノミカ期日又ハ期間ヲ懈怠シタル者ハ其懈怠シタル者ハ懈怠セサル者ニ代理ヲ任シタルモノト看做ス  
然レトモ懈怠シタル共同訴訟人ニ其懈怠セサリシ場合ニ於テ爲スコトヲ得



原判決取消ノ理由ナラザリトモ其後ノ訴由ト爲スナ得

刑訴三百一一條ノ所謂訴訟記録ノ錯誤

再起訴ヲ許ス決定書ニ不法アルモ豫審決定ニシテ既ニ確定シタルトキ

一罪ト判決シタル事件ヲ數ニテ論争スル上告

罰金以下ノ刑ニ當ル事件ト雖トモ上告審ナラザリトモ代理人ノ許サス

前審ノ判決取消理由ハ不當トシテ上告スルヲ得

私文書偽造罪ニ問擬シタル事件ト雖トモ上告審ナラザリトモ代理人ノ許サス

公文書偽造ト併シテ公印偽造ト併シテ適用シタル場合

○被告ノ控訴ニ依リ第一審判決ヲ取消シタル以上ハ其理由ノ當否ニ關セス被告ハ控訴ノ一段ノ目的ヲ達シタルモノナレハ從テ其取消理由ヲ不當トシテ上告スルヲ得ス三十三年七月三日宣告詐欺取財ノ件

○前科ノ刑期ニ錯誤アルモ之カ爲メ原裁判所ノ認定シタル事實及ヒ適用シタル法律ニ何等ノ異動ヲ生スルコトナシ從テ刑事訴訟法第三百一一條第五號ニ所謂訴訟記録ニ錯誤アリト謂フヲ得ス三十三年五月一日宣告詐欺取財ノ件

○再起訴ヲ許ス決定書ニ不法ノ點アリトスルモ檢事ノ起訴ニ依リ事件ヲ公判ニ付シタル豫審終結決定ニシテ既ニ確定シタル以上ハ其點ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス三十三年四月九日判決同年七月三日宣告私印盗用私書偽造行使等ノ件

○一罪ト判決シタル事件ニ對シ數罪ナリト論争スルハ被告ノ不利益ニ歸スルヲ以テ上告理由トナラス三十三年四月二十四日判決同年七月三日宣告盗贓故買ノ件

○罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ト雖トモ上告審ニ於テハ代人ヲ差出スコトヲ許サス三十三年六月七日判決同年六月三日宣告混成酒稅法違犯ノ件

○被告ノ控訴ニ依リ第一審判決ヲ消取シタル以上ハ其理由ノ當否ニ關セス被告ハ控訴ノ一段ノ目的ヲ達シタルモノトス從テ其取消理由ヲ不當トシテ上告スルヲ得ス三十三年七月三日判決同年七月三日宣告詐欺取財ノ件

○郵便爲替證書ヲ偽造行使シタル所爲ヲ私文書偽造行使罪ニ問擬シタル場合ニ於テ官文偽造行使罪ニ問擬スヘキモノナリト主張スル被告人ノ上告ハ結局被告ノ不利益ニ歸着スルヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス三十三年二月五日判決同年七月四日宣告監守盜ノ件

○公證文書偽造行使罪ト公印偽造罪ト併發シタル場合ニ於テ刑法第二百六條ヲ適用セスシテ同法第三百九十條第二項ヲ適用シタル判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ

【參照】 刑法 第二百六條 官ノ文書ヲ偽造スルニ因リテ官印ヲ偽造シ又ハ盗用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

刑法 第三百九十條 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪トナシ二月以上四ヶ年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因リテ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス



一審ニハ餘罪ト云フヘカラフニシテ第二審ヘキ場合ト云フ

費用各自負擔ノ判決ニ對シト爲スノ論旨  
上告裁判所ノ書類ノ取調

勝寫版ヲ以テ檢事長ノ氏名ヲ印刷シタル趣意書ノ効力如何ナル不利ヲ成シタルヤヲ説明セサル論旨

原判決ノ効力ニ影響セザル記載

電報ニ依ル上告申立

民事原告人ノ抗告ハ之ヲ許サス

從テ處斷ス

刑 五百九十六

○第一審判決ノトキハ餘罪ト云フヘカラサルモ第二審判決ノトキニ至リテハ餘罪ト云フヘキ場合ニ在リテハ第二審裁判所ハ第一審判決ヲ取消シ更ニ刑法第百條ヲ適用シテ處斷スヘキモノトス  
三十二年三月三日大審院判決同年一九五號 詐欺取財ノ件

【參照】 刑法 第百條第一項 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發シタルトキハ重キニ從テ處斷ス

○裁判費用各自負擔ノ判決ニ對シ連帶負擔ト爲スヘシトノ論旨ハ被告人ノ不利益ニ歸着ス從テ上告ノ理由ト爲ラス  
三十四年三月二十五日宣告 三十四年三月二十五日宣告 三十四年三月二十五日宣告

○上告裁判所ハ記録以外ノ書類ニツキ取調ヲ爲スヘキ審査スルヲ得ス  
三十四年五月七日宣告 同年四月八二號

○勝寫版ヲ以テ檢事長ノ氏名ヲ印刷シタル上告趣意書ハ無効ナリ  
三十四年六月十八日宣告 同年八月七號

○裁判費用負擔ニ關スル判決ノ變更力被告ニ不利益ヲ成シタルヤモ知ルヘカラストノミ論シ果シテ如何ナル不利益ヲ成シタルヤヲ説明セサル論旨ハ上告ノ理由トナラス  
三十四年七月一日宣告 同年八月八號 毆打致死云々ノ件

○判決ニ但被告ハ此關席判決ニ對シ判決送達アリタルヨリ三日内ニ上告ヲ爲スコトヲ得スト記載シタルハ違法ナリト雖モ原判決ノ効力ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ  
三十四年十二月廿日宣告 三十四年十二月廿日宣告 三十四年十二月廿日宣告

【參照】 刑事訴訟法 第二百七十一條 上告申立ノ期間ハ判決言渡アリタル日ヨリ三日トス

○上告申立書ハ相手方ニ送達スヘキモノナレバ其書面ハ上告人ノ作成シタルモノナルヲ要ス從テ電報ニ依ル上告申立書ハ不合法ナリトス  
三十四年十二月十三日 同年十一月八三號

【參照】 刑事訴訟法 第二百七十三條 上告ヲ爲スニハ其申立ヲ裁判所ヘ差出シ且其中立ヲ爲シタル日ヨリ五日内ニ趣意書ヲ差出ス可シ  
裁判所ハ上告申立書及趣意書ヲ受取りタルヨリ二十四時間内ニ之ヲ相手方ニ送達ス可シ

### 第四章 抗告

○刑訴中民事原告人ニ抗告ヲ許スノ明文ナキヲ以テ其ノ抗告ハ同法二百九十九條ニ則リテ棄却スヘキモノトス  
二十四年一月二十七日大審院判決同年二七號 私印偽造ノ件

第五編 上訴 抗告

刑 五百九十七



上告許否ノ決  
定ハ大審院ニ  
屬ス

【參照】 刑事訴訟法 第二百九十九條 抗告ノ裁判所ニ於テハ抗告ヲ許スヘキヤ否  
キハ其ノ抗告ヲ棄却ス可シ  
又抗告ノ期間内ニ於テ申立テナシタルヤ否ヤテ調査シ此ノ要件ノ一ヲ缺クト

刑 五百九十八

○上告人カ刑訴二百四十七條ニヨリ期間ノ經過ヲ疏明シ上告申立ヲ爲シタ  
場合ニ於テ其ノ上告許否ノ決定ハ刑訴二百七十八條二項ニ依リ大審院之レ  
ヲ爲スヘシ原裁判所ハ決定ノ權ナシ 二十五年一月四日大  
審院判決同年四六號 委託物費消ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百四十七條 訴訟關係人天災其ノ他避クヘカラサル事變

ノ爲メ上告期間ヲ經過シタル場合ニ於テ其ノ旨ヲ疏明シタルトキハ期間ヲ經過  
シタルニ因リ失ヒタル權利ヲ回復スルコトヲ得但障礙ノ止ミタル日ヨリ通常ノ  
期間内ニ其ノ疏明方法ヲ申立書ニ記載シ上訴ヲナスヘシ  
同上 刑事訴訟法 第二百四十八條 前條ノ申立アリタルトキハ裁判所書記速ニ  
其ノ申立書ヲ相手方ニ送達スヘシ相手方ハ三日内ニ答辯書ヲ差出スコトヲ得  
上訴ヲ裁判スヘキ裁判所ニ於テハ檢察ノ意見ヲ聽キ先ツ其ノ申立ヲ許スヘキヤ  
否ヤテ決定スヘシ

○抗告ハ法律ニ於テ特ニ許シタル場合ニアラサレハ之レヲ爲スコトヲ得本  
件預金免除ニ關スル決定ニ附テハ抗告ヲナスコトヲ許シタル法律ナシ故ニ

抗告ヲ許スヘ  
キ場合ト許サ  
サル場合

刑訴二百九十九條ニ則リ之ヲ棄却ス 二十七年十一月十九日大  
審院判決同年二〇七號 監守盜ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第二百九十九條 抗告裁判所ニ於テハ抗告ヲ許スヘキヤ否ヤ  
又抗告ノ期間内ニ於テ申立テナシタルヤ否ヤテ調査シ此ノ要件ノ一ヲ缺クトキ  
ハ其抗告ヲ棄却スヘシ

抗告ヲナシ得  
ルコトヲ記載  
セサル豫審決  
定書ノ効力

○送達シタル豫審終結決定書ニ適法ニ抗告ヲナシ得ルコトノ記載ナケレハ該  
決定ハ未確定ノモノナレトモ公判ノ開廷ニ際シ之レカ異議ヲ述ヘタルコト  
ナク任意ニ其ノ審理ヲ受ケタレハ該決定ニ對シ抗告ヲナスヘキ權利ヲ拋棄  
シタルモノト認メサルヲ得ス 二十八年二月二十一日大審  
院判決二十七年一三三四號 強盜殺人ノ件

豫納免除ニ關  
スル決定ニ對  
スル抗告

○重罪控訴豫納金免除ノ請求ニ關スル決定ニ對シ抗告ヲナスハ法律ノ許サ  
ル所ナルヲ以テ其ノ抗告ハ不合法ナリトス 二十八年九月十七日大審  
院判決同年一〇一七號 強竊盜ノ件

再抗告ハ之ヲ  
許サス

○抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ再抗告ヲ許サス 二十九年一月十八日大  
審院判決同年抗告三號 判事忌避ノ件

再度ノ決定

○同一事件ニ附キ再度決定ヲ與フヘキモノニアラス 二十九年二月十八日大  
審院判決同年抗告四號 刑ノ執行ニ  
關スル異議

### 第六編 再審

刑訴三百一  
條各號ニ適  
セザル再審

○刑訴三百一條ノ各號ニ適合スル原由ナキモノハ再審ノ訴ヲ起スヲ得ス 二十四  
年五月

第六編 再審

刑 五百九十九



四日大審院判決同 件名不詳  
年二部一三三號

刑六百

【參照】 刑事訴訟法 第三百一條 再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡

ニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之ヲ爲スコトヲ得ス

第一 人ヲ殺シタル罪ニ付刑ノ言渡アリタルモ其ノ殺サレタリト認メラレシ者  
犯罪後生存シ又ハ犯罪前既ニ死却シタル確證アリタルトキ

第二 同一ノ事件ニ付キ共犯ニアラスシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノアリタ  
ルトキ

第三 犯罪アル以前ニ作リタル公正證書ヲ以テ當時其ノ場所ニ在ラサルコトヲ  
證明シタルトキ

第四 被告人テ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタルトキ

第五 公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ

第六 判決ノ證據ト爲リタル民事上ノ判決他ノ確定ト爲リタル判決ヲ以テ廢棄  
若シクハ破毀セラレタルトキ

刑訴三百一條  
ノ規定及三百  
七條ノ不適用

○刑訴三百一條ハ公訴判決ニ對スル再審ノ訴ニ關スル規定ナリ同三百七條ハ  
再審ヲ許スヘキヤ否ヤヲ判決スル場合ニ適用スヘキモノニアラス 二十七年一月  
院判決同 詐欺取財ノ件 年六二號

【參照】 刑事訴訟法 第三百七條 上告裁判所ニ於テ再審ノ原由アルコトヲ認メタ

ルトキハ原判決ヲ破毀シ公訴及ヒ私訴ニ付キ再審ヲナスヘキコトヲ言渡シ其ノ  
事件ヲ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移スヘシ

其ノ送附ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲スヘシ

刑法三百一條  
五號ノ法意

○刑訴三百一條第五ニ公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證  
明シタルトアル訴訟記録中ニハ其ノ事件ノ判決書ヲ包含スル法意ニアラス  
其ノ他再審ノ原由トナスヲ得ヘキ同法三百一條各項中ニ判決ニ錯誤アル場  
合ヲ規定セス故ニ判決説明ノ錯誤ハ以テ再審ノ理由トナスヲ得ス 二十八年一月  
一〇號 竊盜ノ件 十八日大審院

判決同年

【參照】 刑事訴訟法 第三百一條 再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡

ニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之ヲナスコトヲ得但シ判決確定ノ後ニアラサレバ之  
レヲ爲スコトヲ得ス

第一 人ヲ殺シタル罪ニ附キ刑ノ言渡アリタルモ其ノ殺サレタリト認メラレシ  
者犯罪後生存シ又ハ犯罪前既ニ死亡シタル確證アリタルトキ

第二 同一ノ事件ニ付キ共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノアリタル  
トキ

第三 犯罪アル以前ニ作リタル公正證書ヲ以テ當時其ノ場所ニアラサルコトヲ  
證明シタルトキ

第六編 再審

六百一



第四 被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノアリタルトキ  
 第五 公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ  
 第六 判決ノ根據トナリタル民事上ノ判決他ノ確定トナリタル判決ヲ以テ廢棄  
 若クハ破毀セラレタルトキ

再審ノ原由アリタル判決

記録ノ錯誤トシテ

私證書ノ證明力

記録ノ錯誤

- 變ニ本院ニ於テ再審ノ原由アリトシテ原判決ヲ破毀シタルハ其ノ判決全部ヲ破毀シタルモノナレハ移送ヲ受ケタル裁判所カ其ノ二三ノ部分ノミヲ審理判決シタルハ失當ナリ 二十八日大審院判決 同一年一〇五〇號 再審ノ件
- 訴訟記録ノ錯誤トハ判決ノ資料トナリタル一件書類ノ錯誤ニシテ判決其ノモノノ錯誤ニアラス從テ判決ノ錯誤ヲ原由トシテ再審ヲ求ムルヲ得ス 二十日大審院判決 同一年一〇五〇號 欺詐取財ノ件
- 私證書ヲ以テ訴訟記録ノ錯誤ヲ證明スルモ再審ノ訴ヲナスコトヲ得ス 二十六日大審院判決 同一年一〇五〇號 詐欺取財ノ件
- 再審ノ原由タルヘキ訴訟記録ノ錯誤トハ記録其ノ物ニ錯誤アル場合ニシテ豫審又ハ公判ニ際シ法律規則ニ違背シテ作りタル記録ヲ指スニアラス 二十六日大審院判決 同一年一〇五〇號 私印盗用ノ件

再審ノ理由

公正證書ノ證明力

再審ノ理由

公正證書ノ證明力

再審ノ訴ニ附帶スル檢事ノ控訴

再審ノ訴ハ前確定判決ヨリ重キ刑ヲ言渡ヲ得ス  
再審ハ代人ヲ許サス  
再審ノ原由ヲサルモノ

- 同一ノ被告事件ニ付キ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノアルトキハ再審ノ訴ヲナスコトヲ得 二十八日大審院判決 同一年一〇六九號 窃盜ノ件
- 公正證書ヲ以テ原判決ニ認メタル前科ノ刑期ニ錯誤アルコトヲ證明シタルトキハ再審ノ訴ヲナスコトヲ得 二十八日大審院判決 同一年一〇四九號 持兇器窃盜ノ件
- 同一ノ事件ニ附キ共犯ニアラスシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノアルトキハ再審ノ訴ヲナスコトヲ得 二十九日大審院判決 同一年一〇二〇號 窃盜ノ件
- 公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ錯誤アルコトヲ證明シタルトキハ再審ノ訴ヲナスコトヲ得 二十九日大審院判決 同一年一〇二〇號 貨幣偽造ノ件
- 再審ノ訴ハ被告人ノ利益ノタメニナスヘキモノナレハ其ノ訴ニ付テハ檢事ヨリ前ノ確定判決ニ照ラシ不利益ナル附帶控訴ヲナスヲ許サス 二十九日大審院判決 同一年一〇二〇號 持兇器窃盜ノ件
- 再審ノ訴ニ付テハ裁判所ハ前ノ確定判決ヨリ重キ刑ヲ言渡スヲ得ス 二十九日大審院判決 同一年一〇二〇號 持兇器窃盜ノ件
- 再審ノ訴ハ代人ヲ以テナスコトヲ得ス 二十九日大審院判決 同一年一〇二〇號 詐欺取財ノ件
- 幼年ノ爲メ不論罪ノ言渡ヲ受クルトキハ其ノ後同一ノ事件ニ付キ共犯ニア



ラスシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノアルモ幼者ハ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノニアラサルヲ以テ再審ノ原由トナラス 三十年十月十九日大審院判決同年五〇號 贓物寄贖ノ件

記録ノ錯誤ヲ理由トスルニハ如何ナル點ナルヤチ指示スヘシ

○公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シテ再審ノ訴ヲナスニハ如何ナル訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルヤノ事實ヲ證明セサルヘカラス 三十年十月二十九日大審院判決同年四九號 官印盗用ノ件

公正證書ノ證明力

○公正證書ヲ以テ犯罪ノ當時二十歳未満ノモノニ對シ減等セスシテ判決シタルコトヲ證明シタルトキハ再審ノ訴ヲナスコトヲ得 三十年十一月八日大審院判決同年五九號 強盜ノ件

刑訴三百一條ノ所謂訴訟記録

○刑法三百一條五項ニ所謂訴訟記録トハ判決ノ憑據トナリタル書類ニシテ其ノ判決書ヲ包含セス故ニ判決書ニ錯誤アリトスルモ再審ノ理由トナラス 三十一年四月二十一日大審院判決同年二五號 賄賂收受ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第三百一條 再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之レヲナスコトヲ得但シ判決確定ノ後ニアラサレハ之レヲナスコトヲ得ス

第一 人ヲ殺シタル罪ニ付キ刑ノ言渡シアリタルモ其ノ殺サレタリト認めラレシ者犯罪後生存シ又ハ犯罪前既ニ死亡シタル確證アリタルトキ

第二 犯罪アル以前ニ作リタル公正證書ヲ以テ當時其ノ場所ニアラサルコトヲ證明シタルトキ

第三 同一ノ事件ニ附キ共犯ニアラスシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノアリタルトキ

第四 被告人ヲ陷害シタル罪ニ依リ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノアリタルトキ

第五 公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ

第六 判決ノ憑據トナリタル民事上ノ判決他ノ確定トナリタル判決ヲ以テ廢棄若シクハ破棄セラレタルトキ

犯罪後作成シタル公正證書ノ證明力

○犯罪後作成シタル公正證書ヲ以テ犯罪ノ當時其ノ場所ニアラサルコトヲ證明スルモ再審ノ原由ナシトス 三十一年九月二十九日大審院判決再審第四五號 竊盜再審ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第三百一條 再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之レヲナスコトヲ得但シ判決確定ノ後ニアラサレハ之レヲナスコトヲ得ス  
同條第三號 犯罪アル以前ニ作リタル公正證書ヲ以テ當時其ノ場所ニ在ラサルコトヲ證明シタルトキ

刑訴三百一條第五ノ意味

○刑事訴訟法第三百一條第五號ノ規定ハ訴訟記録ニ錯誤アリタルタメ罪ノ有



無輕重ニ影響ヲ及ホスヘキ場合ニシテ原判決ノ事實認定ニ依リ錯誤アリタル場合ニ非ス 三十一年十月七日大審院判決同年再審五一號 詐欺取財再審ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第三百一條 再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ニ言渡シニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之レヲナスコトヲ得但シ判決確定ノ後ニアラサレハ之レヲナスコトヲ得ス

同條五號 公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ  
○前科ヲ言渡シタル裁判所ニ相違アルモ其ノ前科ニシテ明ラカナル以上ハ刑事訴訟法第三百一條第五號ニ該當スル再審ノ原由ナキモノトス 三十二年二月六日大審院判決三十一號 恐喝取財再審ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第三百一條 再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡シニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之レヲナスコトヲ得但シ判決確定ノ後ニアラサレハ之レヲナスコトヲ得ス

同條第五號 公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ  
○犯罪後ニ作成シタル公正證書ヲ以テ犯罪ノ當時其ノ場所ニアラサルコトヲ證明スルモ再審ノ原由トナラス 三十二年四月二十日大審院判決同年一號 竊盜再審ノ件

○第一審ニ於テ甲乙共犯ナリトシテ處斷セラレタルニ甲ハ控訴ヲナシ乙ハ控

再審ノ原因タル事實

犯罪後ニ作成シタル公正證書ノ證明力

刑訴三百一條ニ該當ス

原因タル事實

訴ヲナサ、リシニ第二審於テ犯罪人ハ甲一名ニシテ他ニ共犯アルコトナキ旨ノ判決アリタルトキハ乙ハ刑事訴訟法第三百一條第二號ノ原由アリトシテ再審ノ訴ヲナスコトヲ得 三十二年五月十六日大審院判決同年再審二二號 竊盜再審ノ件

【參照】 刑事訴訟法 第三百一條 再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡シニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之レヲナスコトヲ得但シ判決確定ノ後ニアラサレハ之レヲナスコトヲ得ス

同條第二號 同一ノ事件ニ付キ共犯ニアラスシテ則ニ刑ノ言渡シヲ受ケタルモノアリタルトキ

○再審ノ訴ハ他人ニ委任シテ之レヲナスコトヲ得ス 三十二年五月二十六日大審院判決同年再審二三號 不動産買認ノ件

○同一事件ニ付キ同一人ニ對シテ二個ノ判決アルモ再審ノ理由トナラス 三十三年三月十三日大審院判決三十二年再審第七六號 竊盜ノ件

○再審ノ訴ノ目的ハ事實ノ誤認ニ依リ刑ヲ言渡シタル判決ノ破毀ヲ求ムルニアルヲ以テ上告審ノ判決ニ對シテハ之レヲ許スヘキモノニアラス 三十四年四月二十日大審院判決三十四年再審五號

再審ノ訴ハ委任ヲ許サス

二個ノ判決アルモ再審ノ理由ニアラス

再審ノ訴ノ目的







没收物件ノ具  
致テ示サレ  
モ記録ニヨ  
リ加テ得ヘキ  
場所

裁判確定前ハ  
疑議申立ヲ許  
サス

上告取下書ニ  
誤記アルモ之  
ヲ受理シタル  
トキハ確定ス  
ルニテ疑議ヲ  
生  
セス

疑議申立ヲ爲  
ス裁判所

トス 二十八年三月十五日大私文書變造ノ件  
審院判決同年三二四號

○賭具賭錢ヲ沒收スルニ當リ其ノ物品員數ヲ判文ニ明示セサルモ訴訟記録ニ  
徴シテ知悉シ得ヘキ場合ニアリテハ判決ヲ執行スルニ妨ケナシ故ニ執行異  
議ノ理由トナラス 三十年四月十九日大審 賭博ノ件  
院判決同年三〇四號

○裁判確定以前ニアリテハ疑議ノ申立ヲナスヲ得ス 三十年十月二十八日大審  
疑議申立  
却下ノ抗告ノ件  
院判決同年抗告一四號

○上告取下願書ニ宛名誤記アルモ意思ノ表白ヲ妨ケサルヲ以テ之レヲ受理ス  
ルト同時ニ裁判確定スルガ故ニ刑ノ執行異議ハ理由ナシ 三十一年二月二十五日私印  
偽造ノ件  
大審院判決同年二〇號

○刑ノ言渡ニ對スル疑議ノ申立ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ之レヲナスモ  
ノトス而シテ上告ヲ棄却シタル大審院ハ刑ノ言渡ヲナシタル裁判所ニアラ  
サルヲ以テ該院ニ其ノ申立ヲ爲スモ之レヲ受理スヘキモノニアラス 三十四年  
三十四年六月  
二十五日決定 恐喝取財ノ件  
三十四年  
三十四年

### 刑事訴訟法 大尾

刑  
事  
訴  
訟  
法  
大  
尾



取敢物件ノ員  
モ記シテヨリ  
知悉シ得ヘキ  
場所

裁判確定前ハ  
審判申立ヲ許  
サス

上告取下書ニ  
誤記アルモ之  
ヲ受理シタル  
トキハ確定ス  
ルモ疑議ヲ生  
セス

疑議申立ヲ爲  
ス裁判所

トス 二十八年三月十五日大  
審院判決同年三三四號 私文書變造ノ件

刑 六百十

○賭具賭錢ヲ沒收スルニ當リ其ノ物品員數ヲ判文ニ明示セサルモ訴訟記録ニ  
散シテ知悉シ得ヘキ場合ニアリテハ判決ヲ執行スルニ妨ケナシ故ニ執行異  
議ノ理由トナラス 三十年四月十九日大審  
院判決同年三〇四號 賭博ノ件

○裁判確定以前ニアリテハ疑議ノ申立ヲナスヲ得ス 三十年十月二十八日大審  
院判決同年抗告一四號 疑議申立  
却下ノ抗告ノ件

○上告取下願書ニ宛名誤記アルモ意思ノ表白ヲ妨ケサルヲ以テ之レヲ受理ス  
ルト同時ニ裁判確定スルカ故ニ刑ノ執行異議ハ理由ナシ 三十一年二月二十五日私  
大審院判決同年二〇號 印  
偽造ノ件

○刑ノ言渡ニ對スル疑議ノ申立ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ之レヲナスモ  
ノトス而シテ上告ヲ棄却シタル大審院ハ刑ノ言渡ヲナシタル裁判所ニアラ  
サルヲ以テ該院ニ其ノ申立ヲ爲スモ之レヲ受理スヘキモノニアラス 三十四年  
三十五日決定 恐喝取財ノ件

### 刑事訴訟法 大尾

# 附屬諸法今之部



# 刑法附屬法令

## 一 刑法附則

無記名公債證券  
書ト雖モ明瞭  
ナルコト明確  
ナル場合

○無記名公債證券ハ其性質轉スヘキモノナレトモ贖物タルコト明確ニシテ  
現存スル以上ハ刑法附則第五十五條又ハ五十六條ニ依リ處分スヘキモノト  
ス三十二年五月二十七日大  
審院判決同年四十六號 監守盜私訴ノ件

【參照】 系法附則 第五十五條 贖物轉シテ他人ノ手ニ在ルトキ公商ニ依リ買取  
シタル物品ハ其公商若クハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直ニ還給セシ  
ムルコトヲ得ス若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムコトヲ得  
ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉價ヲ求ムルコトヲ得  
刑法附則 第五十六條 贖物ヲ受ケ又ハ與物トシテ受取タル者其贖物現在スル  
トキハ還給ヲ拒ムコトヲ得ス但與物トシテ受取タル者ハ與主ニ對シ轉價ヲ求ム  
ルコトヲ得

公商ヨリ知情  
贖物ヲ買受ケ  
タル場合

○公商ニ由ル場合ト雖モ贖物タルコトヲ知テ買取シタル物品ハ刑法附則第五  
十五條第一項ニ依リ無償還給ヲ拒ムコトヲ得ス三十二年五月二十七日大  
審院判決同年四十六號 監守盜私訴



ノ件

刑 六百十二

贖物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者ハ公商ヲ經タルト否トヲ問ハス贖物  
ハ典物トシテ受取タル者ハ公商ヲ經タルト否トヲ問ハス贖物

刑法附則第五  
十五條第一項  
ノ趣意

○贖物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者ハ公商ヲ經タルト否トヲ問ハス贖物  
現存スル以上ハ之カ還給ヲ拒ムコトヲ得ス三十二年五月二十七日大  
審院判決同年四六六號 監守盜私訴ノ件

○刑法附則第五十五條第一項ハ善意ノ買得者ヲ保護スルノ趣旨ナルヲ以テ一  
且公商ヲ經テ買取シタル以上ハ其直接間接ヲ問ハス當然同條ノ保護ヲ受ク  
ヘキ權利ヲ有ス三十二年五月二十七日大  
審院判決同年四六六號 監守盜私訴ノ件

刑法附則第五  
十五條所謂公  
商ノ意義

○刑法附則第五十五條ニ所謂公商トハ商事ヲ營業トスル權能ヲ有スル者ニシ  
テ事實上公然商業ヲ營ム者ヲ指稱シ必スシモ官許ヲ得タル商業者ノミヲ謂  
ニアラス從テ公署又ハ官署ニ對シ營業屈ヲナシ若クハ營業稅ヲ納メサルモ  
ノト雖モ尙公商ト稱スルコトヲ得ヘシ三十二年四月九日大  
審院判決同年一號 贖物還給請求ノ件

兩替店ハ公債  
證券ノ賣買店  
ニ非ス

刑事上ノ制裁  
ト民事上ノ制裁  
ト異ナルモノ  
トス

○兩替店ハ公債證券ヲ賣買スル營業者ニ非ス三十二年五月二十七日大  
審院判決同年四六六號 監守盜私訴ノ件

○刑事上ノ制裁ト民事上ノ制裁トハ至ク其性質ヲ異ニスルニ依リ刑法第四百  
十四條ノ規定アレハトテ民事上ノ制裁モ失火ト同一ナラサルヲヘカラスト  
ノ論理ヲ生セス又刑法附則第五十九條但書ハ一ノ例外法ナルニ依リ之ヲ比  
附援引シテ明文以外ノ事實ニ適用スルコトヲ得ス三十二年五月二十七日大  
審院判決同年九二號 損害要償ノ

件

【參照】 刑法 第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處  
斷ス

同附則 第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪ノタメ現ニ  
生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得但失火ハ此限ヲニアラス

### 二 富籤處分法

○富籤購買ノ所爲再犯ニ係ル時ハ明治十五年二十五號布告二條ニ定メタル二  
十日以上四月以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰金ノ二倍ノ範圍内ニ於  
テ處分スヘキモノトス云々二十六年十二月二十五日大  
審院判決同年一三八八號 富籤購買ノ件

富籤購買ノ所  
爲再犯ニ係ル  
場合

【參照】 明治十五年布告二十五號 第二條 凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタ  
ルト未タ拂ハサルトテ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十  
圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他人ノ名ヲ借リテ購買  
シタル者及他人ヨリ譲リ受タルモノ亦同シ

○又同布告二條ニ二倍トアルヲ前キニ被告ニ科シタル刑期金額ノ二倍ニ處ス  
ヘキモノト解釋スルハ誤解ナリ二十六年十二月二十五日大  
審院判決同年一三八八號 富籤購買ノ件

明治二十五年  
布告二十五號  
第二條ノ正誤



帝國臣民ノ眼

○凡一國ノ臣民ニシテ其國民タルノ分限ヲ有スルモノハ實ニ其本國ニ居住スル年月日ニ止マラス假令外國へ居住シ若クハ滯在中ト雖モ其本國ノ法律ニ服從スヘキ義務アルコトハ言フ俟タス故ニ明治十五年布告二十五條二條ヲ適用スヘキ者トス 二十八年三月十一日大審院 判決二十七年一三八五號 富籤購買ノ件

富籤興行ノ罪

○富籤興行ノ罪ハ財物ヲ醜集シ抽籤ノ方法ヲ以テ利益ヲ僥倖スル興行ヲ爲スノ行爲ニシテ其醜出金ノ効力カ一回ノ抽籤ニ限ルト數回ノ抽籤ニ及フトハ犯罪ノ構成ニ影響ナシ 三十三年一月二十六號三十三一年一月二十二日大審院 判決

富籤興行ニ要スル籤ノ性質

○富籤興行ニ使用スル籤ハ一定ノ物躰タルヲ要セサレハ罪躰ト云フヘキモノニ非ス 三十四年四月四日大審院 判決

### 三 移民保護法

移民保護法改正事件ニ於テ正社ノ社長ヲ以テ其資格ニ當リ其資格ヲ明決ニセサルヲ判

○移民保護法違反事件ニ付株式会社ノ社長ヲ處罰スルニ當リ其社長ノ資格ハ業務擔當社員ニ相當スルヤ又ハ取締役ニ相當スルヤ否ノ事實ヲ明示セサル判決ハ理由不備ノ不法アリ 三十年六月十五日大審院 判決 同前年四月九日大審院 判決

【參照】 移民保護法二十九條四月法律七十號ヲ以テ制定ス其ノ法文三十一條長キニ

注ルヲ以テ之ヲ略ス

移民保護法第二十四條ノ代理人ノ意

○移民保護法第二十四條ノ代理人ニハ官許ヲ得サル代理人ヲ包含セス 三十年六月十日大審院 判決

決同年四月九日

【參照】 移民保護法 第二十四條 移民取扱人行政廳ノ許可ヲ受ケサル代理人ヲシテ其行爲ヲ爲サシメタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス其行爲ヲ爲シタル代理人亦同シ

同第五條ニ所謂渡航ノ周旋ノ意

○移民保護法第五條ニ所謂渡航ノ周旋トハ渡航ノ爲メ助力ヲ與フルノ意義ナリ 三十年十月八日大審院 判決 同前年八月八日大審院 判決

院判決同年八月八日

【參照】 前同上 第五條 本法ニ於テ移民取扱人ト稱スルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス移民ヲ募集シ又ハ其ノ渡航ヲ周旋スルヲ以テ營業トナス者ヲ謂フ

同法施行細則第一條第二號ノ意

○移民保護法施行細則第一條第二號中ニハ雜貨店手傳ヲ包含スルモノトス 三十四年一月二十五日大審院 判決

同法第五條ニ所謂移民取扱人トノ意

○移民保護法第五條ノ移民取扱人トハ移民ヲ募集シ又ハ其渡航ヲ周旋スルヲ營業トスル者ヲ云フ從テ同法第二十三條ヲ適用スルニハ被告カ移民取扱人ノ行爲則チ募集又ハ渡航ノ周旋ヲ營業トシタルノ事實アルヲ必要トス 三十四年八月八日大審院 判決 同前年六月二十一日大審院 判決

刑法附屬法令

移民保護法

通貨及ヒ證券模造取締法

刑 六百十五

刑 六百十四



### 四 通貨及ヒ證券模造取締法

玩弄紙幣ノ性

○玩弄紙幣ハ明治二十八年法律二十八號ニ係リ禁制物トナリタルモノ故刑法四十三條一號ニ依リ沒收スヘク二號ニ依ルヘキモノニ非ス  
二十九年四月三十日大審院判決同年四一六號詐欺取財ノ件

【參照】 刑法 第四十三條一號 法律ニ於テ禁制シタル物件

刑法 第四十三條二號 犯罪ノ用ニ供シタル物件

兌換銀券類似ノ印刷物ノ沒收方

○兌換銀券類似ノ印刷物ヲ沒收スルニ當リ既ニ廢止セラレタル警察令ヲ援用シ明治二十八年法律二十八號ヲ適用セサル判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ  
二十九年六月十五日大審院判決同年五九二號 詐欺取財ノ件

通貨及ヒ證券模造取締法第一條ノ趣旨

○通貨及ヒ證券模造取締法第一條ハ其目的ノ如何ヲ問ハス恰モ兌換銀行券ニ紛ラハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シタル以上ハ之ヲ處罰スル趣旨ナリトス  
三十四年九月第一三二五號三十四年十月二十五日宣告 紙幣模造取締違反ノ件

### 五 酒造税法、酒精營業税法、混成酒税法

酒造稅則附則第六條ニ所謂其住居セル一家外云々トアルハ現ニ住居スル宅地外ヲ云フモノニシテ單ニ本家ト棟ヲ異ニスル納屋倉庫等ヲ指稱スルモノニ非ス  
二十四年二月二日大審院判決二十三年二七八號

明治十九年勅令第六十號ノ違反

○酒造稅則附則第六條ノ所謂其住居セル一家外云々トアルハ現ニ住居スル宅地外ヲ云フモノニシテ單ニ本家ト棟ヲ異ニスル納屋倉庫等ヲ指稱スルモノニ非ス  
二十四年二月二日大審院判決二十三年二七八號

○明治十九年勅令第六十號酒造稅則附則ニ違反シ清酒製造及制限高超過釀造ノ二所爲三期間ニ涉リ併發スル片ハ連續犯ヲ以テ論シ各一罪トシ科罰スヘキモノトス三期間ニ六罪ヲ組織シタルモノトナシ處斷シタルハ擬律錯誤ナリ  
二十五年六月二十日大審院判決同年五四九號

【參照】 十九年六十號酒造稅則附則二十九條三月法律第二十九號ニ依リ廢止ス依テ參照不記載

生酸モ亦酒類也

○生酸モ釀造ニ係ルヲ以テ酒類ニ非スト云フヲ得ス  
二十五年六月二十日大審院判決同年五四九號

酒類隱蔽ノ所爲

○酒類隱蔽ノ所爲ハ繼續犯ナリ從テ之ヲ發見シタル時ハ現行犯トシテ處分スルコトヲ得  
二十八年十月二十九日大審院判決同年一〇五四號

酒造稅則第十八條ノ適用

○酒造稅則第十八條ニ葡萄酒及麥酒ノ類ヲ製造スル者ニハ造石稅ヲ免除ス故ニ免許鑑札ヲ受ケスシテ是等ノ酒類ヲ賣捌クモ同則二十九條ノ制裁ヲ受クヘ

刑法附屬法令

酒造税法酒精營業税法混成酒税法

刑 六百十七



キモノニ非ス而シテ白葡萄酒ベルモット酒利久酒旭香露葡萄酒ノ四種ハ十  
八條ノ葡萄酒ノ類ニ相當スルヲ以テ二十九條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナ  
リ又雞卵酒ハ葡萄酒若クハ麥酒ノ類ニ非サルヲ以テ二十九條ヲ適用シタル  
ハ相當ナリ 二十七年十二月二十八日大  
審院判決同年二三五二號 酒造稅則違犯ノ件

【參照】 酒造稅則ハ二十九年三月法律二十九號ヨリ廢止依テ參照不記載

同稅則第三十  
一條ノ適用

○酒造稅則三十一條ニ依リ造石稅三倍ノ罰金ヲ科スルニハ清酒ノ石數ニ基キ  
其額ヲ算定スヘキモノトス是故ニ清酒ノ石數ニ依ラスシテ醪ノ石數ニ對シ  
罰金額ヲ算定シタル判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ 三十年三月二十三日大審院  
判決二十九年一八八六號 酒造稅則  
違反ノ件

追徵金ノ性質

○追徵金ハ財産刑ナリ 三十年三月二十三日大審院  
判決二十九年一八八六號 酒造稅則違犯ノ件

免許ヲ受ケス  
ルシテ製造シタ  
ル種類ノ性質

○免許ヲ受ケスシテ製造シタル酒類ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ニ非ス 三十年  
三月三十日大審院判決  
同年一九〇號 酒造稅則違犯ノ件

免許ヲ受ケス  
ルシテ製造シタ  
ル種類ノ性質

○酒類請賣營業人甲者ノ代理人乙者ニシテ其業務擔當中免許ヲ得スシテ酒類  
ヲ製造シタル時ハ乙者ハ酒造稅則第二條二十二條ノ制裁ヲ受クヘク甲者ハ  
處罰ヲ受クヘキモノニ非ス 三十年十一月十六日大  
審院判決同年九八五號 酒造稅則違犯ノ件

酒精營業稅法  
細則ノ適用

【參照】 第二條酒類ヲ製造セントスル者ハ製造物一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ  
其製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

○酒精營業稅法細則ハ正當ニ免許ヲ得營業スヘキ者ニ定メタルモノニシテ其  
無免許ニテ營業ヲナシタルモノ、如キハ該細則ニ依ルヘキモノニアラス故  
ニ無免許ニテ營業ヲナシタルニ於テハ總石高三倍ノ罰金ヲ科スヘキハ酒精  
營業稅法十條ノ法意ニ依リ明カナレハ未タ賣上サル現在ノ酒精ヲモ算入處  
罰スヘキハ當然ナリ 二十八年十月二十四日大  
審院判決同年一〇四七號 營業稅法違犯ノ件

【參照】 酒精營業稅法十條 無免許ニテ營業シタルモノハ其ノ現在酒類及營業用ノ  
物品器械ヲ沒收シ營業稅三倍ノ罰金ニ處ス但シ既ニ賣却キタルモノハ其ノ代價  
ヲ追徵ス 此ノ法律ハ三十二年十二  
月法律第二六號ヲ廢止

○密賣ノ目的ヲ以テ酒精ヲ買入レ販賣ノ準備ヲナシタル所爲ハ酒精營業稅法  
十條ニ所謂無免許營業者トシテ處分スヘキモノトス 二十八年十一月四日大審  
院判決同年一二八四號 酒精營  
業稅法違犯ノ件

○營業ノ免許ヲ受ケスシテ酒精ヲ販賣シタル場合ニアリテハ其製造又ハ買入  
ハ酒精營業稅法發布以前ニ係ルモ仍ホ同法ノ制裁ヲ受クヘキモノトス 二十九  
年四月  
二十二日大審院判  
決同年六二三號

免許ヲ受ケス  
ルシテ酒類ヲ販  
賣シタル場合

營業ノ目的ヲ  
以テ酒類ヲ買  
入レ販賣ノ準  
備ニ着手シタ  
ル所爲



販賣ノ意思ヲ以テ酒精ヲ貯蓄シ得ル程度ニ達シ居ル場合

無免許ニテ酒類ヲ販賣シ且利益ヲ得ル目的ヲ以テ酒類ヲ買入レ貯蓄シタル所

販賣ノ目的ヲ以テ酒類ヲ買入レ貯蓄シタル場合

酒類製造一箇毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘキモノトス

免稅處分ノ腐敗酒ヲ原料トシテ清酒ヲ製造シタル場合納稅ノ擔保ニ當タル抵當

○販賣ノ意思ヲ以テ酒精ヲ貯蓄シ販賣シ得ル程度ニ達シ居レハ其手段方法ノ如キ明示ニ及ハス何トナレハ犯罪ノ手段方法ハ犯罪成立ノ要素ニ非スシテ事實認定ノ理由ニ過キス 二十九年十二月十五日大審院判決同年一九六號

○無免許ニテ酒類ヲ販賣シ利益ヲ得ルノ目的ヲ以テ酒精ヲ買入レ儲造シ置キタル場合ニアリテハ未タ其酒類ハ販賣セサルモ其無免許ニテ酒精營業ヲナシタルモノトス 三十年三月二日大審院判決二十九年九月九日〇號 酒精營業税法違犯ノ件

○販賣スル目的ヲ以テ酒精ヲ買入レタル時ハ未タ之ヲ他ヘ販賣スルニ至ラサルモ其所爲ハ酒精營業税法十條ニ所謂無免許營業ナリ 三十一年四月二十一日大審院判決同年三七〇號 酒精營業税法違犯ノ件

○酒類ヲ製造セントスルモノハ製造所一個毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘキモノトス從テ免許ヲ受ケタル製造場以外ニ於テ酒類ヲ製造シタルトキハ免許ヲ受ケスシテ製造シタルモノトス 三十四年八月四日第七號三十四年六月十四日宣告 酒造税法違犯ノ件

○免稅處分濟ノ腐敗酒ヲ原料トシ更ニ清酒ヲ製造シタル所爲ハ免許ヲ受ケスシテ清酒ヲ製造シタルモノトス 三十四年八月五號三十四年六月十四日宣告 酒造税法違犯ノ件

○酒造税法第十三條ニ依リ納稅ノ擔保ニ供シタル抵當ノ設定行爲ハ行政法ニ

ノ設定行爲

基キタル徵收手續上ノ關係ニシテ民事上ノ關係ニ非ス故ニ其抵當ノ拒絕ニ起因スル爭訟ノ如キハ行政上ノ處置ノ當否ヲ争フコトニ原因スルヲ以テ司法裁判所ニ於テ受理スヘカラサルモノトス 三十三年第二百三十四號三十三 納稅保證物地所抵當件云々ノ件

酒精營業税法第一條ノ自用者ニ非サル場合

○酒精營業ナルト其他ノ營業ナルトヲ問ハス苟モ營業ニ從事スル目的ヲ以テ酒精ヲ買入レタル者ハ酒精營業税法第一條ニ所謂自用者ニ非ス

【參照】酒精營業税法 第一條 酒精(アルコール)又ハ他物ト混和シタル酒精ヲ販賣スル營業者ヲ分テ左ノ二種トス(甲種營業人)本條ノ物品ヲ製造シ又ハ買入レ之ヲ自用者ニ非サル者ニ販賣スル者(乙種營業人)本條ノ物品ヲ製造シ又ハ甲種營業人ヲ經由セスシテ買入レ之ヲ自用者ニ販賣スル者

收稅官吏ノ職權

○收稅官吏ハ犯罪事件ノ調査ヲ終リタル後證據湮滅ノ虞アルトキハ直チニ之レヲ告發スルノ職權ヲ有ス而シテ證據湮滅ノ虞アルヤ否ヤハ當時ノ情況ニ徴シ當該官吏ノ査定スヘキモノトス 三十四年十一月二〇號 酒造税法違犯ノ件

酒精ニ水ヲ混和シタル所爲

○酒精ニ水ヲ混和シ一種ノ飲料酒類ヲ製造シテ販賣シタル所爲ハ混成酒税法ニ違反シタルモノトス 三十三年三月二日判決三十三年七月七號 混成酒税法違犯ノ件



### 六 新聞紙條例

朝憲ヲ紊亂セ  
ントスルノ文  
章ヲ新聞紙ニ  
掲載シタル所  
爲

○朝憲ヲ紊亂セントスルノ文章ヲ新聞紙ニ掲載發賣シタルノ事實ニシテ明示セル上ハ特別ノ理由ヲ示スヲ要セスシテ新聞紙條例三十二條ノ違犯者トナスヲ得 二十四年二月十八日大審院判決同年二二號 新聞紙條例違犯ノ件

【參照】新聞紙條例三十二條 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政体ヲ變壞シ又ハ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタルトキハ發行人編輯人印刷人ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○新聞紙條例違反ハ被告人ノ惡意ノ有無ヲ論セス禁止ノ文章ヲ新聞紙ニ掲載發賣スルト同時ニ犯罪ヲ構成ス 二十四年二月十八日大審院判決同年二二號 新聞紙條例違犯ノ件

○新聞紙條例三十三條ニ該當スル文章ヲ記載セハ發行人編輯人印刷人云々トアリテ其ノ論說ヲ新聞記者自ラ起草シタルト他人ノ起草セシト否トヲ問フ所ニアラス 二十四年三月二十三日大審院判決同年二二號六七號 新聞紙條例違犯ノ件

○新聞紙條例二十五條ニ誹毀ノ訴アル場合ニ於テ云々事實ヲ説明スルコトヲ得トアルモ官吏侮辱ノ公訴ニ係ルモノニシテ誹毀ノ訴アリタルニアラサレ

新聞紙條例違  
反ハ被告人ノ  
惡意ノ有無ヲ  
論セス

新聞紙條例三  
十二條ニ該當  
スル文章ノ起  
草者

新聞紙條例二  
十五條ノ誹毀  
ノ訴ノ意

一事實ノ證明ヲ許スノ限ニアラス已ニ官吏ノ職務上ニ對シ嘲弄ノ文詞ヲ以テ侮辱ヲ加ヘタリト認定シタル上ハ其ノ事實ノ有無ヲ陳辯スルモ之ヲ以テ犯罪ヲ消滅セシムルコトヲ得ス 二十四年七月十六日大審院判決同年無號 官吏侮辱ノ件

【參照】同條例二十五條新聞紙ニ記載シタル事項ニ付誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其ノ人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノためニスルモノト認ムルトキハ云々

○新聞紙ニ記載シタル事實ニシテ苟モ現時豫審中ニ係ル秘密ノ手續ニ關スル上ハ其ノ記載スル所多少實際ノ手續ト異ナルモ又名ヲ道路風説等ニ籍ルモ新聞紙條例十六條ノ制裁ヲ免レス 二十五年九月廿九日大審院判決同年六四號 新聞紙條例ノ件

【參照】

○教唆罪ハ教唆者カ或ル手段方法ヲ用ヒ他人ヲ教唆シ犯罪決行ヲナサシメタルノ所爲アルヲ要ス而シテ被告兩名共謀シテ新聞原稿ヲ製シ之レヲ新聞社ニ投書シタルニ過キス抑投書ノ取捨ハ新聞社編輯人ノ隨意ニ屬スヘキモノナレハ他人ノ惡事ヲ新聞紙ニ投書シタル事ヲ以テ犯罪教唆ノ手段方法トナスヲ得ス 二十六年六月十二日大審院判決同年五三五號 官吏侮辱ノ件

刑法附屬法令 新聞紙條例

新聞紙ニ記載  
シタル事實カ  
豫審中ニ係ル  
秘密ノ手續ト  
異ナルト多  
少異ナルトキ

他人ノ惡事ヲ  
新聞紙ニ投書  
シタル事ヲ以  
テ犯罪教唆ノ  
手段方法トナ  
スヲ得ス



新聞紙ノ發行人  
ニシテ其編輯人  
ト共ニ人ト共ニ  
謀及侮辱シタル  
ハ其ノ編輯人ト  
共ニ謀及侮辱シ  
タルトキハ共ニ  
謀及侮辱ノカ  
ラシキハ明ニ  
セサルノカ  
ラ

右同斷

新聞紙上ノ官  
吏侮辱罪ニハ  
編輯人發行人  
ト共ニ謀及侮  
辱シタルトキ  
ハ其ノ編輯人  
ト共ニ謀及侮  
辱ノカラスル  
トモハ其ノ編  
輯人ト共ニ謀  
及侮辱ノカ  
ラシキハ明ニ  
セサルノカ  
ラ

秘密ニ屬シテ  
官ノ文書ヲ裁  
判所ノ證據ト  
シテ提出セラ  
レタルトキハ  
雖モ當該官廳  
ノ許可ヲ得ス  
ルニテモ其  
紙ニ掲載スル  
コトヲ得ス

○誹毀罪構成ハ故意アルヲ要ス故ニ新聞紙ノ發行人或ハ印刷人ニシテツノ編輯人ト共ニ新聞紙上ニ人ヲ誹毀シタルモノトナスニハ其ノ編輯人ト共ニ謀ニ出タルヤ否ヤヲ審究明示セサルヘカラス判文之レカ明示ヲ缺クハ理由不備ナリ二十七年一月十八日大審院判決同年四六號 誹毀ノ件

○新聞紙記者カ官吏ノ職務ニ對シ刊行ノ文書ヲ以テ侮辱シタルモ發行人編輯人ニ在テハ常ニ其新聞紙記載ノ文詞ヲ了知スルモノナリト謂フヘカラス故ニ彼等共謀ノ上此ノ文字ヲ掲載シ特ニ侮辱意思アリタルコトヲ明示セサル裁判ハ事實理由不備タルヲ免レス二十七年二月八日大審院判決同年二二號 官吏侮辱ノ件

○新聞紙上ノ官吏侮辱罪ノ構成ニ就テハ編輯人發行人等カ惡意アリテ侮辱シタルコトヲ說示スレハ足ルモノニシテ被告等ノ共謀シタルコトハ此犯罪ノ構成ニ必要ナル條件ニアラス二十八年四月二十六日大審院判決同年三五〇號 官吏侮辱ノ件

○秘密ニ屬シ公ニセサル官ノ文書カ裁判所ノ公廷ニ於テ證據トシテ提出セラレ其證據調ヲ經サルニモセヨ裁判所ハ裁判ヲ公行シタルニアリテ其文書ヲ公ニスルカタメノ目的ニ非ルヲ以テ尙ホ之レカ秘密ヲ保ツノ要アルニ於テハ當然該官廳ハ之ヲ秘密ニスルノ責任ヲ有ス故ニ當該官廳ノ許可ヲ得スシテ私專ニ之ヲ新聞紙ニ掲載スルヲ得ス二十八年五月二十三日大審院判決同年五六八號 新聞紙條例違犯ノ件

新聞紙條例第十  
七條ニ所謂刑  
律ニ觸レタル  
犯罪人ノ意義

○新聞紙條例第十七條ニ所謂刑律ニ觸レタル犯罪人トアルハ一旦刑律ニ觸レタル以上ハ其刑ノ執行ヲ終了シタルト否ト又其者ノ既ニ死亡シタルト否トヲ問ハス總テ包含スヘキモノトス二十九年八月十八日大審院判決同年七二五號 新聞紙條例違犯ノ件

○新聞紙條例第十六條第一項ニ所謂豫審ニ關スル事項トハ豫審ニ繫リタル被告事件ノ内容ニ屬スル事項ヲ云フ從テ其ノ外形ニ顯レタル加害者若クハ被害者ノ氏名及ヒ殺害前後ノ模様ニ付別ニ新聞社カ聞知シタル事柄ヲ新聞紙ニ掲載スルハ右ノ條項ニ牴觸スルモノニアラス三十二年六月二十三日第六六七號 新聞紙條例違犯ノ件

前同斷

新聞紙條例第十  
六條第一項  
ニ所謂豫審ニ  
關スル事項ニ  
意義

【參照】新聞紙條例 第十六條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス

○新聞紙條例第十六條ニ所謂豫審ニ關スル事項トハ豫審ニ係ル被告事件ノ内容ヲ謂フ拘留ニ關シ違法ノ處分アリトスルモ上告ノ理由トナラス

刑法附屬法令 新聞紙條例



新聞紙條例違反  
ト他ノ犯罪  
ト俱發シタル  
場合

○新聞紙條例違反罪ト他ノ犯罪ト俱發シタルトキハ他ノ犯罪カ刑法上ノ犯罪ナルト否ト問ハス總テ刑法ノ數罪俱發例ヲ適用セス  
三十三年五月二十八日大審院判決  
三十三年九月八日大審院判決  
三十三年九月八日大審院判決  
新聞紙條例違反及官吏侮辱ノ件

【参照】新聞紙條例 第十六條 第一項 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス  
○同條例第三十五條此ノ條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減刑再犯加害數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

### 七 徵兵令

徵兵例ニ於ケル失跡ト逃亡トノ意義及區別ヲ爲シタル裁判

○失跡トハ忌避ノ情アル證據ノ認ムヘキモノナクシテ其行方ノ分明ナラサルモノヲ云ヒ逃亡トハ忌避スル所爲アリテ殊更ニ行方ヲ晦マスモノヲ云フ故ニ失跡ト逃亡トノ區別ヲ明ラカニセサル裁判ハ破毀ヲ免カレス  
二十三年十二月二十五日大審院判決

徵兵忌避罪ニ關シテハ事實ヲ明示セザルニ要ス

○徵兵忌避ノ罪アリトテ罰セントセハ須ラク被告人カ如何ナル所爲ヲ用ヒテ兵役ヲ免カレタルカノ事實ヲ明示セサルヘカラス  
二十四年三月十一日大審院判決  
二十三年二月四日大審院判決  
徵兵令違反ノ件

數年兵役ヲ免カレ行爲ハ連續犯ナリ

○兵役ヲ免カル、爲メ逃亡シ數年徵兵検査ニ出頭セサル者ハ連續犯ナリ  
二十五年四月四日大審院判決  
二十四年四月二〇日大審院判決  
徵兵忌避ノ件

連續犯及繼續犯ハ其犯行終了前切斷シタルトキノ罪責

○連續犯ハ繼續犯ト同シク前後ノ所爲ヲ通シテ一罪トナシ處斷スヘキモノナレハ其犯罪未タ終了ヲ告ケサルニ其幾分ヲ切斷シテ一罪ト爲シ處斷スルコトヲ得ス  
二十五年二月四日大審院判決  
二十四年四月二〇日大審院判決  
徵兵忌避ノ件

徵兵忌避ノ爲メ通例前處爲メ入籍届ヲ爲シタル場合

○廿三年法律一號徵兵令三條ノ犯罪ハ徵兵適齡ニ達シテ始メテ成立スルモノナレハ忌避ノ手段トシテ虛偽ノ入籍届ヲナシタリトスルモ其事實ハ適齡以前ノ所爲ニシテ適齡以後ノ事實ニ對シテ忌避ノ事實分明ナラサルニ付キ之ヲ鑑査スルニ由ナシ  
三十一年三月四日大審院判決  
同年三月三號大審院判決  
徵兵忌避ノ件

【參照】徵兵令第三條 常備兵役ヲ分テ現役及豫備役トス現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年四ヶ月海軍ハ三箇年ニシテ現役及豫備役トス

○徵兵適齡以前ニ於テ兵役ヲ免カル、爲メニ用ヒタル詐欺ノ所爲ハ徵兵忌避罪ノ豫備ニ止マリ滿二十歳ニ達シテ始メテ其犯罪ヲ構成ス  
三十一年五月二十四日大審院判決  
五二二號  
徵兵忌避ノ件

徵兵適例前處爲メ詐欺ノ行爲ヲ爲シタル場合



【參照】 改及令 第三條第二項 現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服ス  
同 第三十一條 兵役ヲ免カレンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身軀ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐欺ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

### 八 豫戒令

豫戒令二條一號ニ依リ其期間ニ生業ニ就カサルトキハ命令期間ノ經過ニ依リ其罪ヲ構成ス而シテ一度處罰ヲ受ケタル以上ハ其後尙ホ生業ニ就カサルモ之ヲ處罰スルヲ得ス  
三十二年二月二十八日詐欺取財ノ件  
大審院判決同年六月五號

【參照】 豫戒令 第二條第一號 一定ノ期限内ニ適法ノ生業ヲ求メテ之ニ從事スヘキコトヲ命ス

### 九 郵便條例

郵便物タルト否トノ區域

○ 郵便條例二百三十四條ニ已レニ屬セサル郵便物ヲ開封セシトハ郵便物ノ未タ受取人ニ交付セラレサル間ニ受取ルヘキ資格ナキ者カ之レヲ開封シタル

所爲ヲ云フ故ニ裁判所ノ雇吏カ宿直ノ際書留郵便ヲ受取り開封シタルハ其受取ノ資格アリテ之ヲ受取りタルヲ以テ既ニ郵便物タルノ區域ヲ離脱シタルカ故ニ其後之ヲ開封スルモ同上ノ制裁ヲ受ケス而シテ此所爲ハ罰スヘキ法律ナキヲ以テ無罪トス  
二十六年三月二十三日大審院判決同年二月一號 官文書毀棄ノ件

【參照】 二百三十四條 已レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ又ハ毀損汚穢シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラサルモノニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄附放買シ若クハ牙保ヲナシタルモノハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○ 郵便局雇員等總テ官署ニ雇傭セラレテ公務ニ從事スルモノハ刑法上官吏トシテ論スヘキモノナリ  
二十八年六月二十七日大審院判決同年六月三十一號 官文書偽造ノ件

○ 郵便爲替證書及爲替報知書ハ郵便局ニ於テ作製スヘキモノナレハ即チ官ノ文書ナルヲ以テ之ヲ偽造行使シタル時ハ刑法二百三條ニ依リ處斷スヘク郵便條例第二百四十二條ニ據テ處分スヘキモノニ非ス  
二十八年六月二十七日大審院判決同年六月三十一號 官文書偽造ノ件

【參照】 郵便條例 第二百四十二條 郵便爲替事務ヲ奉スルモノ郵便爲替及爲替料ヲ領收セスシテ爲替證書ヲ振出シ又ハ爲替證書ヲ受取ラスシテ爲替金ヲ渡シタ

刑法附屬法令 豫戒令 郵便條例

郵便爲替證書及爲替報知書ヲ偽造行使シタルトキ問擬スヘキ法律

郵便局雇員ノ資格



郵便條例ニ所  
謂郵便物隠匿  
ノ場合ニ問フ  
ヘキ法規

刑 六百三十

ルトキハ二月以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
○郵便條例ニ所謂郵便物隠匿ト竊取トハ其間自カラ區別アルモノナレハ原院  
カ認定シタル隠藏ノ事實ニ對シ郵便條例ノミヲ適用シ刑法三百六十六條三  
百七十六條ヲ適當セザリシハ相當ナリトス 二十八年十月五日大審院判決同年一六六號 郵便物竊盜ノ件

【參照】 刑法 三百六十六條 人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二圓以

上四圓以下ノ重禁錮ニ處ス

刑法 第三百七十六條 此ノ節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモノハ  
六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

郵便局ノ集配  
人ノ資格

○郵便局ノ集配人ハ其局ノ雇員ニシテ局長ノ雇人ニ非ス 二十九年三月十九日大審院判決同年二一〇號 監守盜

ノ件

使用済ノ郵便  
端書ヲ使用シ  
タル所爲

○郵便稅ヲ免カル、目的ヲ以テ使用済ノ郵便端書ヲ使用シタル所爲ハ刑法第  
百九十九條ノ犯罪ニ非スシテ郵便條例二百三十七條ノ犯罪ナリ 三十年二月九日 郵  
便條例違犯ノ件

【參照】 同條例 二百三十七條 有稅ヲ以テ免稅トシ其他詐欺ヲ以テ郵便稅ヲ免カ

レタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附  
加ス

再使用郵便端  
書ノ性質

○郵便稅ヲ免カル、目的ヲ以テ使用済ノ郵便端書ヲ再ヒ使用シタルトキハ其  
端書ハ犯罪物件トシテ沒收セラル 三十年二月九日大審院判決同年五〇號 郵便條例違犯ノ件

爲替報知書ト爲  
替者ヲ偽造シタ  
ル所爲

○爲替證書ト爲替報知書トハ其効用ヲ異ニス從テ二者ヲ偽造行使シタル所爲  
ハ二罪ヲ構成ス 三十年三月二十六日大審院判決同年二二九號 官印盜用ノ件

郵便貯金預納簿  
同爲替出納帳  
同貯金通帳ノ  
性質

○郵便貯金預納簿郵便爲替出納簿郵便貯金通帳ハ官文書ナリ 三十年四月十九日大審院判決同年抗告三號 官文  
書偽造ノ件

三等郵便局及  
局長ノ資格

○三等郵便局ハ官署ニシテ其局長ハ官吏ナリ 三十年六月十日大審院判決同年五一八號 竊盜ノ件

郵便條例二百  
三十四條ニ所  
謂受取人ニ意  
付ストノ意義

○郵便條例二百三十四條ニ已レニ屬セサル郵便物ヲ云々受取人ニ非サルモノ  
ニ交付シタルハ受取人ニ交付セサル意思ヲ以テ第三者ニ交付シタル者ヲ  
處斷スルノ律意ニシテ受取人ニ交付スル意思ヲ以テ第三者ニ送致方ヲ委託  
シタル所爲ハ之ヲ罰スル正條ナシ 三十一年一月二十一日大審院判決三十年二號 郵便條例違犯ノ件

編者曰本件ハ非常上告ニシテ受託者即チ三者カ更ラニ又他人即チ四者  
ニ託シ送致シタル事實アリシモ共ニ破毀ノ利益ヲ受ケ無罪トナレリ

郵便局ノ雇員  
受信者ヨリ未  
納稅者ヲ收シ  
テ切手ヲ貼用  
セサル場合ニ  
同擬スヘキ刑  
律

○郵便局ノ雇員不足未納稅若シクハ未納ノ郵便物アルニ當タリ受信者ヨリ之  
ニ對スル金錢ヲ收受シナカラ郵便切手ヲ貼用セスシテ其金額ヲ騙取シタル

刑法附屬法令 郵便條例

刑 六百三十一



所爲ハ詐欺取財ヲ構成ス若シ其不足税未納税ヲ徵收シタル後惡意ヲ生シ費消セハ委託金費消罪又ハ監守盜罪ヲ構成ス 三十二年一月二十五日大審院判決同年六號 詐欺取財ノ件

郵便條例第二  
百三十四條ニ  
所謂己レニ屬  
セサル郵便物  
ヲ開封シタル  
ハ信書ノ秘密ヲ  
侵ス意思ヲ以  
テ開封シタル  
場合ヲ謂フニ  
止マリ竊盜ノ目  
的ヲ遂行スルノ  
意思ヲ以テ開封  
シタル場合ヲ包  
含セス 三十二年十二月八日大審院判決同年一二八號 竊盜及  
郵便條例違犯ノ件

○郵便條例第二十三十四條ニ所謂己レニ屬セサル郵便物ヲ開封シタル場合ヲ謂フニ止マリ竊盜ノ目的ヲ遂行スルノ意思ヲ以テ開封シタル場合ヲ包含セス 三十二年十二月八日大審院判決同年一二八號 竊盜及郵便條例違犯ノ件

【參照】 郵便條例 第二十三十四條第一項 己レニ屬セサル郵便物ヲ開封シタル場合ハ毀損汚穢シ或ハ私用資却抑留隱匿拋棄シ若シクハ之レヲ受取人ニアラザル者ニ交附シ及其情ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄託故買シ若シクハ牙保ヲナシタルモノハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

### 十 取引所法

營業場以外  
於テ數次ニ爲  
シタル空米賣  
買ノ犯罪ニシ  
テ意思ノ繼續  
シタル連續犯  
ハ之ヲ一罪ト  
シテ處罰スヘ  
キモノナルニ  
各罪トシテ併  
科シタルハ擬  
律錯誤ナリ 二十六年九月二十一日大審院判決同年七二〇號 米商條例違犯ノ件

○營業場以外ニ於テ數次ニ爲シタル空米賣買ノ犯罪ニシテ意思ノ繼續シタル連續犯ハ之ヲ一罪トシテ處罰スヘキモノナルニ各罪トシテ併科シタルハ擬律錯誤ナリ 二十六年九月二十一日大審院判決同年七二〇號 米商條例違犯ノ件

自己所有ノ家  
屋ヲ不正ノ取  
引ニ供シタル  
場合ニ供シタル  
店舖取

○自己所有ノ家屋ヲ不正ノ取引即チ空米賣買ヲナス店舖ニ供シタルトテ空米賣買ノ犯罪アルノ外別ニ家屋給與ノ罪ヲ組成スヘキモノニ非ラス然ルニ家屋給與ノ所爲ヲ刑法百九條ニ照ラシ從犯トナシ處斷スヘキモノトシ犯則ノ所爲ヲ罪スルノ外別ニ罰金ヲ言渡シ一個ノ被告人ニシテ正犯從犯ヲ兼ネタル者ト斷定シ二個ノ罰金ヲ併科シタルハ擬律錯誤ナリ 二十七年一月二十二日大審院判決同年一三八二號 米商會所條例違犯ノ件

【參照】 刑法 第九十九條 重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知テ器具ヲ給用シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタルモノハ從犯トナシ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但シ正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止マ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

仲買人取引所  
以外ニ於テ取  
引ヲ爲シタル  
場合

○仲買人ト雖モ取引所外ニ於テ賣買取引ヲ爲シタルトキハ當然取引所法二十五條ノ違犯者トシテ制裁ヲ科セラルヘキモノトス 三十年五月二十一日大審院判決同年四三四號 取引所法違犯ノ件

取引所法ニ係  
ルニシテ共犯  
ニ係ル場合

○取引所法ニヨリ處斷スヘキ犯罪ニシテ二人共犯ニ係ル時ハ刑法總則ニ從フヘキモノナレハ同法五條二項ヲ適用スヘキモノトス 三十一年五月二十一日大審院判決同年四三四號 取引所



法違犯ノ件

【參照】 刑法 第五條二項 若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑  
法ノ總則ニ從フ

取引所ニ於テ  
取引所ニ代ル  
ヘキ中間者ナ  
キ賣買

○取引所ニ於テ取引所ノ取引ト同一ノ方法ニ依リ賣買ヲナシタル以上ハ賣買  
主ノ外取引所ニ代ルヘキ中間者ナキモ之ヲ以テ取引所ノ取引ト同一ノ方法  
ニ非スト云フヲ得ス 三十年六月二十九日大  
審院判決同年五五九號 取引所法違犯ノ件

十一 國稅徵收法

國稅徵收法第  
三十一條第一  
項ノ法意

○國稅徵收法第三十一條第一項ハ納稅者カ其財產ヲ藏匿脫漏シ又ハ虛偽ノ契  
約ヲ爲シ以テ國庫ニ損害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスル者ヲ罰スルモノトス從テ  
滯納者トナリタル後ノ行爲ヲ罰スルノ法意ニ非ス 三十四年九月五〇四號三  
十四年四月二十三日宣告

酒類製造業者  
ノ妻カ共謀シ  
テ營業者ノ財  
產ヲ隱匿シタ  
ル所爲

○酒類製造業者ノ妻カ共謀シテ營業者ノ財產ヲ隱匿シタル所爲ハ犯罪ヲ幫  
助シタルニ過キサルヲ以テ國稅徵收法第三十二條第一項ヲ以テ論スヘキモ  
ノニ非スシテ同條第三項ヲ以テ論スヘキモノトス 三十四年九月四七號  
三十四年七月二日宣告 國稅徵收法  
違犯ノ件

十二 國稅滯納處分法

國稅滯納處分  
法五十一條ノ  
法意

○國稅滯納處分法五十一條ノ制裁ハ財產ノ差押ヲ免脱セントスルノ意思ニ出  
テタル行爲ハ即チ滯納處分ニ對スルノ行爲ニシテ法文ニ滯納處分ニ對シ云  
々トアルハ其處分開始ノ前後ヲ問フヘキモノニ非ス 二十八年三月五日大審  
院判決同年二四八號 滯納處分  
違犯ノ件

【參照】 國稅滯納處分法 第五十一條 滯納處分ニ對シ財產ヲ藏匿脫漏シ又ハ虛偽  
ノ契約ヲ爲シタルモノハ一ヶ月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

十三 商標條例

類似ノ登錄商  
標貼付ノ商品  
販賣者ノ責任

○商標條例二十三條一項ハ苟クモ他人ノ登錄商標ナルコトヲ知リナカラ之ト  
同一又ハ類似ノ商標ヲ貼付シアル同一ノ商品ヲ販賣シタル者ハ其貼付者ノ  
何タルヲ問ハス即チ使用シテ販賣シタルモノナリ 二十九年七月六日大審  
院判決同年六五二號 商標條例違  
犯ノ件

【參照】

同條例ハ三十二年三月廢止セラレ更ラニ三十二年三月法律三十八號ヲ以テ  
刑法附屬法令 國稅徵收法 國稅滯納處分法 商標條例  
刑 六百三十五



商標法ヲ制定セラレタリ依テ參照セス

他人ノ登録商標  
表示シテ買集  
ルモノヲ製造  
シテ賣出スル  
者ハ自己ノ製  
造品ナルヲ認  
識シタル所爲  
ニシテ販賣シ  
タル者ト爲ス

○他人ノ商標登録ヲ受ケ居ル事實ヲ知リナカラ其商標ノ表示アル空函ヲ買集  
メ之ニ自己ノ製造シタル物品ヲ容レテ販賣シタル所爲ハ商標條例第二十三  
條第一項ニ違背シタルモノトス 三十三年七月判決三  
十三年七月九號 商標條例違犯ノ件

〔參照〕 商標條例 第二十三條(第一項) 他人ノ登録商標ナルコトヲ知リ之ト同一又  
ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其商品ヲ受  
託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ  
處ス

商標條例第二  
條第三號ノ登  
録以前ヨリ他  
人ノ使用スル  
云々ノ意義及  
ハ類似ノ解

○商標條例第二條第三號ニ「登録出願以前ヨリ他人ノ使用スル云々」トアルハ登  
録出願前曾テ同一又ハ類似ノ商標ヲ使用シタル者アリシコトヲ謂フニ非ス  
シテ出願前ヨリ引續キ出願ノ當時迄之ヲ使用シタル者アルコトヲ意味スル  
モノトス ○商標ノ稱呼彼是同一ナルニ依リ其商標ヲ同一又ハ類似ノモノト  
爲スニハ其商標ヨリ生スル自然ノ稱呼タラサルヘカラサルヲ以テ其圓形及  
ヒ字跡等ヲ審査セサルヘカラス 三十三年五月二十八日判決  
三十三年七月九號 登録商標無効請求ノ件

舊商標條例第  
二條第三項ニ

○舊商標條例第二條第三項ニ所謂他人トハ帝國ノ法權ニ服シ又ハ外國トノ條

所謂他人ノ意

約ニ依リ同條例ノ保護ヲ受タル者ヲ指シタルニ外ナラス 三十三年(才)第二百五十七號三十  
三年十一月七日第二民事部判決  
登録商標無効請求ノ件

〔參照〕 商標條例 第二條左ニ掲ケル商標ハ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノトス  
一、(畧之) 二、(畧之) 三、他人ノ登録商標又ハ登録出願以前ヨリ他人ノ使用ス  
ル商標同一若クハ類似ニシテ同一商品ニ使用セントスルモノ

### 十三 議員選舉ニ關スル罰則

○拐引其他ノ手段ヲ以テ選舉權ノ施行ヲ妨害シタルトキハ其目的ヲ達スルト  
否トニ拘ハラヌ明治三十三年法律第三十九號市町村會議員選舉罰則第七條  
ノ犯罪ヲ構成ス

〔參照〕 市町村會議員選舉罰則 第七條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ  
脅迫シ拐引シ若シクハ其往來ノ便ヲ妨ケ若シクハ詐欺ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ  
施行ヲ妨害シタル者ハ第六條暴行ノ例ニ依テ處斷ス

市町村會議員選舉罰則 第二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票セシメ若クハ他人、  
爲メニ投票チナスコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若  
シクハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ三圓以  
上ノ罰金ニ處ス

刑法附屬法令 議員選舉ニ關スル罰則

拐引其他ノ手  
段ヲ以テ選舉  
權ノ施行ヲ妨  
害シタル所爲



上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

議會保護律ニ  
基キ村會ノ爲  
メニ告訴スル  
人

村會議場ニ他  
人ノ居ラサル  
時議員ヲ侮辱  
シタル所爲

議員ノ公務上  
ノ言論ヲ爲ス  
ニ付公然誹  
毀シタル所爲

○議會保護律ニ基キ村會ノ爲メニ告訴スル場合ニハ議長ヨリナスヘク村長ヨ  
リナスヘキモノニ非ス二十七年十二月六日大審  
院判決同年二月五日議員保護律違犯ノ件

○村會議場ニ他人ノ居ラサルモ議員ヲ侮辱セハ公然ノ侮辱罪ヲ構成ス二十八年二  
月廿六日大  
審院判決同  
年二月二號議員保護律違犯ノ件

○議員ノ公務上ノ言論行爲ニ付公然誹毀シタルトキハ其議席ニアルト控席ニ  
アルトト問ハス總テ明治二十二年法律二十八號二條ノ制裁ヲ受クヘキモノ  
トス

〔參照〕議會並議員保護法 第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ  
付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁  
錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

町村長カ町村  
長ノ名義ヲ以  
テ議員ヲ召集  
シタル場合

○町村長ハ町村制三十九條ニ依リ當然町村會ノ議長トナルコトヲ得ヘシ是故  
ニ町村會ヲ開クノ必要アル場合ニ當リ議長ノ名義ヲ用ヒス町村長ノ名義ヲ  
以テ議員ヲ召集スルモ權限外ノ處置トナスヲ得ス從テ其召集ニ應シタル議  
員ハ不適法ノ議員ニアラス三十年三月二日大審  
院判決同年一月四號誹毀ノ件

三十一年七月  
勅令百七十七  
號ハ衆議院選  
舉法第九十一  
條ノ補助タル  
コト

○明治三十一年七月勅令第七十七號衆議院議員選舉取締法ニ關スル罰則ハ衆  
議院議員選舉法第九十條第九十一條ノ補助タルニ過キス三十三年五月四日大審  
院判決同年四月七號衆議  
院議員選舉取締罰則違犯ノ件

〔參照〕衆議院議員選舉法 第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若シク  
ハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物  
品手形若シクハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者  
ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

衆議院議員選舉法 第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職  
務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲナスコトヲ抑止シタル  
者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

刑法 第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲナサシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲナ  
シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加  
ス

○衆議院議員選舉取締罰則明治三十一年勅令第七十七號ハ選舉權ノ實行ヲ完  
全ナラシムルコトヲ目的トスルモノナリ三十二年五月四日大審  
院判決同年四月七號衆議院議員選舉取締  
罰則違犯ノ件

衆議院議員選  
取取締罰則  
第三十號勅令  
第七十七號ノ  
目的



市町村會議員選舉罰則第五條ニ依リ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ處斷スル場合ニハ特ニ同則第二條ヲ引用スルヲ要セス  
三十四年九月三〇日三三三號三  
十四年十月二十五日宣告

○市町村會議員選舉罰則第五條ニ依リ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ處斷スル場合ニハ特ニ同則第二條ヲ引用スルヲ要セス  
議員選舉罰則違反ノ件

衆議院議員選舉法罰則第二條ニ所謂選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者トハ其妨害ノタメ全然選舉ヲ施行スルヲ能ハサリシ場合並ニ選舉權ヲ施行スルモ其施行ヲ妨害セシ場合ヲ包含ス  
三十四年十一月一日大審院判決同年六月九日三三三號

○衆議院議員選舉法罰則第二條ニ所謂選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者トハ其妨害ノタメ全然選舉ヲ施行スルヲ能ハサリシ場合並ニ選舉權ヲ施行スルモ其施行ヲ妨害セシ場合ヲ包含ス  
議員選舉罰則違反ノ件

衆議院議員選舉法罰則第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅迫シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐欺ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル衆議院議員選舉法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス

【參照】衆議院議員選舉法罰則第二條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅迫シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐欺ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル衆議院議員選舉法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス

衆議院議員選舉法罰則第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅迫シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐欺ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル衆議院議員選舉法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス

○衆議院議員選舉法罰則補則ハ選舉人ノ自由任意ノ選舉權ノ施行ヲ妨害スル者ヲ罰スルノ趣旨ニシテ其投票セントスル者ノ被選舉權ヲ有スルト否トハ問フ所ニ非ス  
三十四年十一月一日大審院判決同年六月九日三三三號

罰則違反ト刑場合

○罰則違反ト刑法犯トハ數罪俱發例ヲ適用ス可ラサルモノニ非ス即チ法律規則ニ刑法ノ數罪俱發例ヲ適用セストノ明文ナキ以上ハ刑法ノ總則ヲ適用シ數罪俱發ヲ以テ論スルハ不當ニ非ス  
二十四年二月二十八日大審院判決同年四月四日三三三號

件

選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ人名簿ニ記載セラレ而シテ投票ヲ爲シタル者ハ刑法二百三十三條ノ投票偽造罪ニ問フヘキモノニ非スシテ衆議院議員選舉法八十九條ヲ以テ處斷スヘキモノトス  
三十四年二月二十八日大審院判決同年四月四日三三三號

○選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ人名簿ニ記載セラレ而シテ投票ヲ爲シタル者ハ刑法二百三十三條ノ投票偽造罪ニ問フヘキモノニ非スシテ衆議院議員選舉法八十九條ヲ以テ處斷スヘキモノトス  
違犯ノ件

【參照】刑法 第二百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕重罰ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

他人ニ府縣會議員ノ投票ヲ授與シタル罪ノ要件

○他人ニ府縣會議員ノ投票ヲ授與シタル罪ノ要件  
シタル罪アリト判定センニハ其得セシメントシタル人ノ資格ハ果シテ府縣會議員トナルノ被選舉權ヲ有スルヤ否ヤ此事實理由ハ必ス明示セサルヘカラス何トナレハ假令他人ニ投票ヲ得セシメントシタル人ニ金錢物品ヲ授與シタル罪アリト判定センニハ其得セシメントシタル人ノ資格ハ果シテ府縣人ニ金錢物品ヲ授與シタルニモセヨ其主タル府縣會議員トナルヘキ人ニシテ其資格ヲ有セサルニ於テハ到底其目的ヲ成就スルコト能ハサルニ付被選舉權ノ有無ハ犯罪組成上必要ノ事實理由ナレハナリ  
二十四年四月六日大審院判決同年二月二日三三三號



衆議院議員選舉法百一條ニ前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選舉權及被選舉權ヲ停止スルトアルハ附加刑ヲ定メタルモノトス故ニ同法九十一條二項刑法二百三十四條ニ該當スル所爲ハ其刑期範圍内ニ於テ處分シ仍ホ選舉法百一條ニ依リ三年以上七年以下選舉權ヲ停止セサルヘカラス然ルニ之ヲ停止セザリシハ失當ナリ  
【參照】 衆議院議員選舉法 第九十一條二項 其授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲ササル者亦同シ

○衆議院議員選舉法百一條ニ前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選舉權及被選舉權ヲ停止スルトアルハ附加刑ヲ定メタルモノトス故ニ同法九十一條二項刑法二百三十四條ニ該當スル所爲ハ其刑期範圍内ニ於テ處分シ仍ホ選舉法百一條ニ依リ三年以上七年以下選舉權ヲ停止セサルヘカラス然ルニ之ヲ停止セザリシハ失當ナリ  
【參照】 衆議院議員選舉法 第九十一條二項 其授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲ササル者亦同シ

罰金ノミヲ科スヘキ法則ヲ適用シタル判決ハ擬律錯誤アリ  
二十九日四月十四日大府縣會議員選舉規則違犯ノ件  
審院判決同年三六三號

○罰金ノミヲ科スヘキ法則ヲ適用シタル判決ハ擬律錯誤アリ  
二十九日四月十四日大府縣會議員選舉規則違犯ノ件  
審院判決同年三六三號

町村制ノ規定ニ基キ組織シタル組合會議員ノ選舉ハ公ノ選舉ナリ從テ其投票ヲ偽造シタル所爲ハ公選投票偽造罪ヲ構成ス  
三十年十月十八日大府縣判決同年七七一號

○町村制ノ規定ニ基キ組織シタル組合會議員ノ選舉ハ公ノ選舉ナリ從テ其投票ヲ偽造シタル所爲ハ公選投票偽造罪ヲ構成ス  
三十年十月十八日大府縣判決同年七七一號

### 公選投票詐欺報告ノ件

## 十四 狩獵法

狩獵ノ意義  
禁制ノ場所ニ於テ狩獵ニ用ヒタル銃及網等ハ罪ノ性質  
於テ禁制ノ場所ニ於テ狩獵ニ用ヒタル銃及網等ハ罪ノ性質

○狩獵トハ銃及網等ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ云フ  
三十年十月十九日大府縣判決同年九〇五號

○狩獵禁制ノ場所ニ於テ狩獵ヲナシタルトキハ狩獵ニ用ヒタル銃及網等ハ罪ノ性質  
於テ禁制ノ場所ニ於テ狩獵ニ用ヒタル銃及網等ハ罪ノ性質

## 十五 遺失物法

家宅内ニ於テ拾得シタル物件ノ不正ニ處分シタル所爲ハ遺失物法第十六條ノ犯罪ヲ構成ス  
三十二年一月二十五日大府縣判決三十二年一月二十五日大府縣判決

○家宅内ニ於テ拾得シタル物件ノ不正ニ處分シタル所爲ハ遺失物法第十六條ノ犯罪ヲ構成ス  
三十二年一月二十五日大府縣判決三十二年一月二十五日大府縣判決

【參照】 遺失物法 第十六條第一項 拾得物又其他ノ規定ヲ準用スル物件ヲ隱匿シ若クハ不正ニ處分シタル者ハ三月以下ノ重禁錮又ハ二十日以下ノ罰金ニ處ス

遺失物法第十二條ノ所謂誤テ所有シタル物件

○遺失物法第十二條ノ所謂誤テ占有シタル物件ニハ受領者ノ錯誤ニ非スシテ交付者ノ錯誤ニ依テ之ヲ占有シタルモノヲモ包含ス  
三十四年十一月廿八日大府縣判決同年十月廿八日大府縣判決



### 第六 貯蓄銀行條例

貯蓄銀行條例  
第九條第二項  
ノ法意

○貯蓄銀行ニアラサル一社ニ於テ復利ノ方法ヲ以テ預金業務ヲ營ミタルトキハ貯蓄銀行條例九條二項ノ違犯タルヲ免レヌ而シテ同項ニ所謂其營業主又ハ會社ノ業務擔當社員トハ右ノ如キ會社ニアリテ業務ヲ擔當シタル者ハ悉ク之ヲ處分スルノ法意ナリトス  
二十七年五月二十五日大審院判決同年四九九號 貯蓄銀行條例違犯ノ件

【參照】 同條九條二項

貯蓄銀行ニアラスシテ貯蓄銀行ノ業ヲ營ミタルトキハ營業主又ハ會社ノ業務擔當社員若クハ取締役前項ニ同シ

○貯蓄銀行條例一條及九條ニ依リ處斷シタル判決ニ於ケル事實ノ認定ニシテ實際如何ナル計算ニシテ如何ナル部分ハ復利ニ相當スルヤ其方法分明ナラサルトキハ事實理由ノ不備ナルモノトス  
二十七年六月十五日大審院判決同年五七八號 貯蓄銀行條例違犯ノ件

【參照】 同條例一條 復利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲メニ預金ノ事業ヲ營ム者ヲ貯蓄銀行トス

○貯蓄銀行條例違犯ニ關シ復利方法ヲ用ヒタルト否トハ主要ナル爭點ナリ故

復利ノ方法ヲ用ヒタルト否

トニ付キ理由ヲ付セサル判例  
貯蓄銀行條例九條第二項所屬ノ業務擔當社員ノ法意

ニ此點ニ付理由ヲ付セサルハ違法ノ判決ナリ  
二十七年六月二十六日大審院判決同年六一一號 欺詐取財ノ件  
○貯蓄銀行條例九條二項ニ所謂業務擔當社員トハ必スシモ其名義ヲ有スル業務擔當社員タルヲ要セス事實會社ノ業務ニ從事スル者ヲ謂フ  
二十七年六月二十九日大審院判決同年六五八號 貯蓄銀行條例違犯ノ件

【參照】 前掲

○原院カ引用セシ法律ハ貯蓄銀行條例九條末項ナリ即チ其罰スヘキ行為ハ其營業ニアリテ銀行其者ニアラス故ニ其營業ノタメ一旦判決ヲ受ケタル上ハ其營業ニ屬シタル幾多ノ取引アリテ且其場所ヲ異ニスルト雖トモ之カ爲メ重テ公訴ヲ受クヘキモノニ非ス然ルニ原院ハ單ニ場所ヲ異ニスルトノ點ニ依リ別ニ處罰ヲナシタルハ不法ヲ免レヌ  
二十八年一月十八日大審院判決二十七年一四〇七號 貯蓄銀行營業ノ件

### 十七 國立銀行條例

國立銀行條例  
違犯ニ付キ理由ヲ付セサル判例  
合ノ明文アル場

○國立銀行條例違犯ノ刑法ニ明文アルモノハ明治十四年七十二號布告六條ニ基キ刑法ニ從テ處斷シ同條例ノ規定ヲ適用セヌ  
二十九年六月十五日大審院判決同年五五一號 竊盜ノ件

刑法附屬法令

貯蓄銀行條例 國立銀行條例

刑 六百四十五



【參照】十四年七十二號布告六條法律規則中罪例アリト雖トモ刑法ニ正條アルモノ  
ハ刑法ニ依テ處斷ス

國立銀行ニ使  
用スル傳票ノ  
性質

○國立銀行ニ於テ使用スル傳票ハ金錢ノ出納ニ關スル證明書ニシテ銀行條例  
八十五條ニ所謂證書ニ包含スヘキモノトス二十九年六月十五日大審院判決同年五五一號竊盜ノ件

【參照】銀行條例ハ廢止セラレ更ニ二十三年法律七十二號ヲ以テ銀行條例ヲ制定セ  
ラレタリ依テ八十五條ノ參照ハ不記

國立銀行條例  
第一百十條ハ刑  
法ニ明文アル  
犯罪ニ適用ス  
ヘキ乎

○國立銀行條例第一百十條ハ同條例中罰金ヲ以テ處罰スヘキ犯罪又ハ罰金ノ明  
文ナキ箇條ノ犯罪ニ適用スヘキ法條ニシテ刑法ニ明文アル犯罪ニ適用スヘ  
キ明文ナシ三十四年九月二十四日  
號同年十月八日宣告國立銀行條例違犯ノ件

### 十八 火藥取締規則

官廳ノ委任ヲ  
受ケテ製造シ  
タル火藥ヲ  
所爲

○官廳ノ委任ヲ受ケテ製造シタルモノハ明治十七年第三十一號布  
告火藥取締規則第二十五條ノ私ニ製造シタルナルヲ以テ同規則ノ時代於テ  
犯シタルトキハ同條項ノ制裁ヲ免レサルモノトス三十二年十一月七日判  
決同年第一一四八號火藥取締規  
則違犯ノ件

【參照】火藥取締規則第二十五條 私ニ火藥ヲ製造シ若クハ販賣シタル者ハ軍用品  
ニアラスト雖トモ刑法第五百七十七條ヲ適用シ私ニ之ヲ所有シタル者ハ刑法第百  
六十條ヲ適用ス

### 十九 賣藥規則

賣藥請買者又  
ハ藥種商カ需  
用者ノ病ニ功  
能アル藥ヲ販  
賣シタル所爲

○賣藥請買者又ハ藥種商ニシテ需用者ノ病肺等ヲ尋問シ其病ニ功能アル藥種  
ヲ販賣スルハ賣藥規則及藥品營業并ニ藥品取扱規則ノ禁セサル所ナリ三十三  
年十一月二十日大審院判  
決同年第一八八號私營營業ノ件

甲者乙者ノ調  
製販賣シケル  
場合ニ於ケル  
判決

○甲者カ乙者ノ允許ヲ受ケテ調製販賣スル賣藥ヲ調製販賣シタル場合ニ於テ  
果シテ乙者ノ許諾ヲ得テ調製シタルモノナルヤ否ヲ説明セサル判決ハ理由  
不備ノ不法ナリ三十三年四月六日判  
決同年第一八八號賣藥規則違犯ノ件

製藥違反者ノ  
製收セラレル  
製藥ノ範圍

○賣藥規則二十三條ノ規定ニ依リ製藥ヲ沒收スルハ其製藥力違犯者ノ手ニ現  
在スル場合ニ爲スヘキモノニシテ他人ノ所有ニ移轉シタルモノマテ沒收ス  
ヘキモノニ非ス二十四年二月十九日大審院  
判決二十三年二月一四號賣藥規則違犯ノ件

【參照】賣藥規則二十三條 無醫札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請買者ニ  
刑 附屬法令 火藥取締規則 賣藥規則 刑 六百四十七



藥種商業者單  
純ノ藥種ヲ出  
賣シタル所爲

詐欺取財ノ藥  
品取扱規則ト  
ノ範圍

免許ヲ受ケタ  
ル賣藥ニ配伍  
シタル所爲

藥劑ヲ調製セシムルモノ又ハ請賣者自カラ之ヲ調製スルモノ其製藥及賣得金ヲ  
没入シ藥劑一方ニ付二十五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

○藥種商業者單純ノ藥種ヲ出賣シ又ハ出賣セシムルモ配伍調製ヲナサズ又分  
量ヲ定メ効能書ヲ附セサル時ハ假令小瓶又ハ小包ニ分テテ賣却スルモ賣藥  
ノ販賣ニ非ス 二十四年五月八日大審院  
判決同年二月一〇七號 賣藥規則違犯ノ件

○廉價ナル龍膽製劑ヲ以テ高價ナル吐根丁幾ナリト欺キ之ヲ販賣シテ金圓ヲ  
騙取センコトヲ企テタルカ如キ詐欺取財ノ事實存スル上ハ刑法ヲ以テ處斷  
スルヲ相當トシ藥品取扱規則ニ依リ罰金ヲ科スヘキモノニ非ス 二十六年七月十日  
大審院判決同年七  
五七 詐欺取財ノ件

○免許ヲ受ケタル賣藥ニ劇藥ヲ私ニ配伍シタル所爲ハ明治十年七號布告賣藥  
規則二十二條ニ所謂免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味ヲ改更シタルモノナルヲ以  
テ同條ニ依リ處斷スヘキ等ナルニ之ヲ毒藥ヲ私ニ賣藥ニ配合シテ販賣シタ  
ルモノト斷定シ同則二十五條ニ依リ罰シタルハ擬律錯誤ナリ 二十八年二月八日大審  
院判決同年一四四號  
賣藥規則違犯ノ件

【參照】 同規則二十二條免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又

ハ許可ヲ經スシテ無糖ノ安説ヲ記載シ世人ヲ誘惑スルモノハ其鑑定札取上ケ製  
藥ヲ没入シ藥劑ニ方ニ付十圓以上二十五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

賣藥規則違反  
ノ前科ニ關係  
ナシ

賣藥規則二十  
五條ニ所謂有  
毒藥ノ意義

沒收スヘキ製  
藥ノ範圍

賣藥規則第一  
條ニ所謂賣藥  
ノ意義

○賣藥規則違犯ヲ一審ハ前科ニ滿ケ二審ハ示サ、ルモ該規則違犯ノ前科ハ本  
案ノ擬律ニ關係ナシ 二十八年三月二十六日大  
審院判決同年三三三號 詐欺取財ノ件

○賣藥規則二十五條ニ所謂有毒藥トハ毒藥ノミヲ指シタルモノニシテ劇藥ヲ  
包含セス 二十八年十月一日大審  
院判決同年九一三號 賣藥規則違犯ノ件

【參照】 二十五條私ニ有毒藥ヲ配伍スルモノハ其鑑定札取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ  
没入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

○賣藥規則ニ違犯シタル製藥没入ノ判決ハ單ニ其現在高ヲ明示スルヲ以テ足  
レリ必スシモ製造高ヲ確定スルヲ要セス 二十八年十月一日大審  
院判決同年九一三號 賣藥規則違犯ノ件

○賣藥規則一條ニ所謂賣藥トハ其効能ヲ付シタルモノノミヲ意味スルニ非ス  
假令之ヲ附セサルモ効能用法ヲ口授シ若クハ又タ他人既ニ効能書ヲ附シテ  
販賣シ來レル賣藥ト同一ナル藥劑ヲ調製シテ販賣スル如キモ亦此法條ニ包  
合スヘキモノトス 二十八年十二月四日大審  
院判決同年一四〇五號 賣藥規則違犯ノ件

【參照】 一條賣藥營業ハ左ノ通税金并ニ鑑定札料ヲ上納スヘシ

附法附屬法令 賣藥規則



効能書ヲ附シタル單純ナル藥品

他人ニ預ケ置キタル毒藥劇藥ト取扱規則

○配伍調製セサル單純ナル藥品ト雖トモ其分量ヲ定メ瓶ニ詰メ又ハ包ミ入レ効能書若クハ之ト全視スヘキ方法ヲ以テ治病ノ効能ヲ知ラシメタルトキハ賣藥規則一條ニ所謂賣藥ナリトス二十九年十一月十三日大審院判決同年一〇三號賣藥規則違犯ノ件

○藥品營業并藥品取扱規則第三十九條ハ毒藥劇藥ハ之ヲ營業ノ監守スヘキ場所ニ貯藏スヘキコトヲ命セラレタルモノトス而シテ之ヲ他人ニ預ケ置キタルトキハ該條ニ違犯シタルモノトス三十二年三月十四日大審院判決同年一七九號竊盜ノ件

【參照】 藥品營業并藥品取扱規則 第二十九條 毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ銀輪ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

### 二十 爆發物取締規則

爆發スヘキ性質ヲ有セル諸原料ヲ所持シタル所爲

○爆發スヘキ性質ヲ有セル諸原料ヲ自己ノ手ニ收集シテ必要アルトキ爆發セシムルコトヲ得ヘキモノト爲シタル以上ハ假令其藥品其他ノ物品ヲ調合シ一物躰トナサ、ルモ爆發物ヲ所持シタルニ外ナラサルヲ以テ爆發物取締規則

爆發物取締規則九條ニ所謂煙滅ノ意義

則三條ニ依リ重懲役ニ處スヘク火藥取締規則ニ依リ罰金ニ處スヘキモノニ非ス二十五年一月十四日大審院判決二十四年三五二號爆發物取締規則違犯ノ件

○爆發物取締規則九條ニ所謂煙滅トハ刑法百五十二條ニ謂フ如キ罪證トナルヘキ物件ナルニ於テハ其物件ノ消滅セサル以上ハ之ヲ煙滅ト云フヲ得サルモ九條ニハ罪證ノ煙滅ト云ヒ物件其モノ、煙滅ニ非サルカ故ニ假令物件ノ形跡ヲ存スルモ其隱レテ罪證トナルヲ得サルニ至ラシメタルニ於テハ即チ罪證ヲ煙滅シタルモノト云ハサルヲ得ス二十八年六月七日大審院判決同年六五八號爆發物取締規則違犯ノ件

【參照】 刑法 第五十二條 他人ノ罪ヲ免レシメンコトヲ圖リ其罪證トナルヘキ物件ヲ隱蔽シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○爆發物ハ特許ヲ得タルモノニ非サレハ之ヲ所持スルヲ得サルヲ以テ法律上禁制物タルハ論ヲ俟タス二十八年六月七日大審院判決同年六五八號爆發物取締規則違犯ノ件

### 二十一 傳染病豫防規則

爆發物ハ法律上禁制品ナリ



傳染病豫防規則二條ノ精神

○傳染病豫防規則二條ノ精神ハ豫防スル便ヲ得ルニ外ナラス故ニ先ニ診察シタル醫師ヨリ届出ヲ爲サハ後ノ診斷書ヨリ届出サルモ反則トナラス  
二十三年十一月二十七日大審院判 決同年一〇七號

傳染病規則違犯ノ件  
【參照】 本規則廢止ニヨリ同二條參照不記載

### 二十二 藥用阿片賣買並ニ製造規則

藥種商ニシテ阿片賣買ニ關スル違犯者ハ明治二十二年法律第十號藥品營業並ニ藥品取扱規則四十五條ニ基キ明治十一年二十一號布告藥用阿片賣買並ニ製造規則九條十六條ヲ適用シテ處斷スヘキモノトス  
三十一年四月十六日大審院判 決同年二九三號

○藥種商ニシテ阿片賣買ニ關スル違犯者ハ明治二十二年法律第十號藥品營業並ニ藥品取扱規則四十五條ニ基キ明治十一年二十一號布告藥用阿片賣買並ニ製造規則九條十六條ヲ適用シテ處斷スヘキモノトス  
片賣買規則違犯ノ件  
【參照】 十一年二十一號布告製造規則九條特許證札ヲ受ケタル店舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣買所ト大書シタル看板ヲ掲ケ置ケヘシ  
十六條此規則ニ違犯スル者ハ百五十圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

### 二十三 會計法

會計法第十條ニ所謂當該官吏トハ廣ク租稅徵收ノ資格ヲ有スルモノト謂ニ吏ノ意義

○會計法第十條ニ所謂當該官吏トハ廣ク租稅徵收ノ資格ヲ有スルモノト謂ニシテ必シモ收入官吏ニ限ルモノニアラス  
三十三年八月三十四號同 年十一月二十七日宣告 監守盜云々ノ件

### 二十四 森林法

森林法第三十八條ノ各號中其一ニ當ル所爲アルトキハ同條第一項ヲ適用スヘキモノトス從テ認定ノ事實ニテ數號ニ涉ル場合ト雖モ其

○森林竊盜ニシテ森林法第三十八條ノ各號中其一ニ當ル所爲アルトキハ同條第一項ヲ適用スヘキモノトス從テ認定ノ事實ニテ數號ニ涉ル場合ト雖モ其一ヲ判示スルヲ以テ足ル  
三十四年九月第一五四號同年三月五日宣告

### 二十五 煙草製造營業法

煙草製造營業者ノ相續人ハ更ニ許可ヲ受ケサルヘカラ

○煙草製造營業ノ許可ハ各營業者ニ對シ與ナルモノニシテ營業者死亡シタルトキハ其相續人ト雖モ許可ヲ受ケスシテ營業ヲ繼續シ得ヘキ法律ノ規定ナシ  
三十四年九月第六〇四號同年五月三日宣告

### 二十六 特別輸出港規則

特別輸出港ハ開港場ニ非ス

○特別輸出港ハ開港場ニ非ス

【參照】 特別輸出港規則 第一條(第一項)

帝國臣民米、麥、粉、石炭、硫黃ノ五品ヲ海外ニ

刑法附屬法令

會計法

森林法

煙草製造營業法

特別輸出港規則

刑 六百五十三



輸出スル爲メ左ノ諸港ヲ特別輸出港トス

### 二十七 度量衡器改定規則

掛ノ釘ノ脱落  
セシテ以テ他  
ノ釘ヲ以テ打  
付ケタル所爲

○度量衡改定規則四條中掛ノ如キハ綠鐵弦鐵破損セシ際之ヲ自儘ニ他ノ綠鐵弦鐵ト打替ルヲ禁セシモノニシテ單ニ釘ノ脱落セシヲ他ノ釘ヲ以テ打付シ爲スヲ禁セシモノニ非ス故ニ無罪ヲ言渡シタルハ當然ナリ  
二十三年十一月二十四日大審院判決同年二二六〇號

### 二十八 古物商取締規則

古物商取締規則  
則違犯ノ裁判

○古物商取締規則違犯ナリトノ裁判ニシテ無免許營業カ將タ免許ヲ受クルモ制限以外ノ場所ニ於テ營業セン爲メカヲ判示セサルハ理由不備ノ不法アリ  
二十三年十一月二十日大審院判決同年二八一號

### 二十九 船舶検査規則

船舶検査規則  
書ヲ受有スル

○明治十七年三十號布告十六條ニハ船舶ノ検査ヲ受ケスシテ航行シ云々トア

ハ船舶検査  
了ノ手續ニ外  
過キス

リテ單ニ検査證書ヲ受ケテ航行シタル者ヲ罰スルノ明文ナシ然ルニ原院ハ検査ヲ受クルコト、證書ヲ受有スルコトノ二者ヲ混合處斷シタルハ不法ナリト論スルモ検査證書ヲ受有スルハ船舶検査終了ノ手續ニ外ナラサレハ證書ヲ受有セサレハ航行スルヲ得サルモノトス  
三十一年三月二十九日大審院判決同年一五七號

【參照】十七年三十號布告十六條ハ廢止セラレタリ依テ參照ニ不記載

### 三十 尋常師範學校官制

尋常師範學校  
教諭ノ資格

○尋常師範學校教諭ハ尋常師範學校官制ニ基ケル官吏ナリ而シテ同制第二條ニ判任官ト同一ノ待遇ヲ受クヘキモノト規定シタルハ官吏トシテノ禮遇ヲ表明シタルニ過キス  
三十一年十月十日大審院判決同年六二八號

【參照】同制 第二條 尋常師範學校ニ左ノ職員ヲ置ク學校長教諭舍監訓導書記(尋常師範學校官) 教諭助教諭舍監訓導及書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但教諭ノ中一人ハ特ニ委任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケシムルコトアルヘシ

### 三十一 沖繩縣間切長ノ資格

府法附屬法令

度量衡器改定規則 古物商取締規則 船舶検査規則 尋常師範 刑 六百五十五  
學校官制 沖繩縣間切長ノ資格



沖繩縣間切長ノ資格

○沖繩縣間切長ハ公吏ニ非スシテ官吏ナリトス三十四年九月三十一日第三一號三十四年五月二十四日宣旨

### 三十二 税關規則

積荷目録ニ記載セシメテ輸入手續ヲ爲スヘキ以外ノ港ニ廻漕シタルモノトス三十二年六月二十七日大審院判決同年九月五七號

○甲港ニ於テ他ノ貨物ト共ニ輸入手續ヲナスヘキ物品ヲ故ラニ積荷目録ニ記載セシメテ乙港ニ廻漕シタル所爲ハ税關規則第十五條ノ法則ニ違背シタルモノトス三十二年六月二十七日大審院判決同年九月五七號 税關規則違犯ノ件

【參照】 税關規則 第十五條 輸入貨物ヲ陸揚セントスル者ハ其申告書ヲ仕入書ニ添ヘ之ヲ税關ニ差出シ陸揚免狀ヲ受ケ其貨物ヲ陸揚シ現品ノ検査ヲ經輸入税目ニ從ヒ納税シ輸入免狀ヲ受ケテ之ヲ引取ルヘシ

間税署長カ告發ヲ爲ス手續

○間税署長カ間税國稅犯則者處分法第十四條第一項第十五條ニ該當スル者ト認ムルトキハ同法第十一條ニ定メタル手續ヲ履踐セシテ直ニ告發ヲ爲スコトヲ得三十二年六月二十日大酒精營業税法違犯ノ件

### 三十三 間税國稅犯則者處分規則

收税屬臨檢ノ際犯則者ヲ發見シタル場合ニアリテハ間接國稅犯則者處分法

○收税屬臨檢ノ際犯則者ヲ發見シタル場合ニアリテハ間接國稅犯則者處分法

六條ノ法規ニ基キ犯則者及證人ヲ訊問スルヲ得而シテ同法ハ其訊問方法ニ制限ヲ設クルコトナシ二十九年六月二十五日大審院判決同年六三一號 酒造税則違犯ノ件

【參照】 法律八十六號間接國稅犯則者處分法六條間税官吏臨檢ヲ爲スニ際シ犯則者及證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ必要トスル場合ニハ之ヲ尋問スルコトヲ得

同斷

○間税官吏カ犯罪者本人其他ノ者ヲ訊問スルニハ刑事訴訟法ニ據ルヘキモノニアラスシテ間接國稅犯則者處分法第六條ニ據ルヘキモノトス而シテ同條ニ據ンハ訊問ニ立會人ヲ要セス三十年十二月二十四日大審院判決同年第一〇五五號 偽證ノ件

【參照】 間接國稅犯則者處分法 第六條 間税官吏臨檢ヲ爲スニ際シ犯罪者及證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ必要トスル場合ハ之ヲ尋問スルコトヲ得

## 刑法附屬法令 大尾

刑法附屬法令 税關規則 間税國稅犯則者處分規則



從明治三十五年一月  
至明治三十六年二月

曾甫帝國六法分類大審院判例要旨全  
士采阿屬法令類



增補 帝國六法 附屬法令 類分 大審院判例要旨大全目次 乙(刑事集)

刑法

第一編 總則

第一章 法例

◎刑法第三條第二項ノ意義……………一

第二章 刑例

第一節 刑名

第二節 主刑處分

第三節 附加刑處分

◎定規ヲ變更シタル度量衡ハ法律ニ禁シタル物件ナリ……………二

◎通貨ニ紛ハシキ紙幣ノ性質及ヒ其沒收條項ノ適用……………二

◎犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ沒收スルニ適用スヘキ條項……………三

◎罪ノ未遂ノ場合ニ於ケル供用物件ノ沒收……………三

◎應禁物ノ沒收……………三

第四節 徵償處分

◎没付處分ニ失當ノ點アル場合……………四

◎共犯人中ノ一人ニ對シテノ公訴起リタル場合其裁判費用ニ付適用スヘキ法條……………四

◎共同被告人ノ連帶負担……………四

◎刑期ノ誤判……………四

目次

◎刑法第五十一條第二號適用ノ當否……………五

第六節 假出獄

第七節 期滿免除

◎刑ノ期滿免除後餘罪發覺シタル場合ニ於ケル處斷方……………五

第八節 復權

第三章 加減例

第一節 不論罪及宥恕減輕

第二節 自首減輕

◎數箇ノ犯罪アル場合ニ一罪ノ爲メニシタル自首ノ效果……………六

第三節 酌量減輕

◎前科ヲ言渡シタル裁判所ノ名稱ヲ異ニスルモ再犯加重ノ法律適用ニ關係ナシ……………六

第五章 再犯加重

第六章 加減順序

第七章 數罪俱發

◎數罪俱發其一罪ノミノ取下ケノ效果……………七

◎數罪俱發例ノ適用……………七

◎行為ニ箇アリテ特ニ意思一箇ナリシ場合ノ罪責……………七

◎行為ニ箇ニシテ共ニ刑法ニ觸ル、場合ノ罪責……………七

刑罰一



- ◎二箇ノ犯罪事件ハ互ニ分離スルヲ得ス……………八
- ◎居室内ニ入りテ窃盗スヘキヲ教唆シタル教唆者ノ責任……………八
- ◎人ヲ教唆シテ自己ノ犯罪ノ証トナルヘキモノヲ隠蔽セシメタル所爲……………九
- ◎犯罪自衛的ノ教唆罪……………九
- ◎侮辱罪ノ教唆……………九

第八章 數人共犯

- 第一節 正犯……………一〇
- 第二節 從犯……………一〇
- ◎正犯ト從犯トノ關係……………一〇
- ◎共犯者ノ犯罪責任……………一〇
- ◎一團體ト爲リテ賄賂ヲ收受シタル場合ノ責任……………一〇
- ◎刑法第九條ノ解釋……………一〇
- ◎所謂豫備ノ所爲ノ意義……………一一
- ◎數人共謀シテ謀告ヲ爲ス場合ニ於ケル實行者ノ行爲……………一一
- ◎共犯者ノ一人カ爲シタル行爲ノ責任……………一一
- ◎共犯ニ對スル証據……………一一
- ◎共謀犯罪ノ責任……………一二
- ◎共謀ノ意思ト事實トノ連絡……………一二
- ◎所謂犯罪ノ實行ノ解釋……………一二
- ◎所謂實行正犯ノ意義……………一二

第九章 未遂犯罪

- 第十節 親屬關係……………一三
- ◎親屬例ノ意義……………一三
- ◎証人ト被告人トノ親屬關係……………一四

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第二章 國事ニ關スル罪

第三章 靜謐ヲ害スル罪

- 第一節 兇徒聚衆ノ罪……………一五
- ◎兇徒囑集罪ノ成立……………一五
- ◎兇徒囑集罪ノ成立……………一五
- ◎集合ノ或ル一部カ暴動ノ意思ト所爲ト有シタル場合ノ責任……………一五
- 第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪……………一六
- ◎官吏抗拒罪ノ行爲……………一六
- ◎侮辱ノ意義……………一六
- ◎刑第一四一條第二項ノ演說ノ意……………一六
- ◎官吏ノ執行力事實上ノ誤認ニ基因スル場合被執行者ノ爲シタル行爲ノ責任……………一七
- ◎公庭内ニ於テ立會檢察ノ職務ニ對シ侮辱ヲ加フル行爲……………一七
- ◎辯護士控所ニ於テ檢察ヲ指シ侮辱ノ語ヲ放チ大聲演述シタル所爲……………一七
- ◎訟廷ニ列席セル判檢察ニ對シ單一ノ行爲ヲ以テ侮辱ヲ加ヘタル所爲……………一八
- ◎縣立中學校長ノ地位及ヒ之ニ對スル犯罪……………一八
- ◎通信事務員ノ資格……………一八
- 第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪……………一八
- ◎未決囚徒ノ逃走シタル場合ノ罪責……………一八

- ◎犯人ニ隱避ノ便ヲ與フル者ノ罪責……………一九
- ◎罪人隱避罪ノ成立要件……………一九
- 第四節 附加ノ執行ヲ通ルル罪……………一九
- 第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪……………一九
- 第六節 往來通信ヲ妨害スル罪……………二〇
- ◎瀝車ノ軌上ニ石ヲ置タル所爲……………二〇
- ◎瀝車ノ往來ヲ妨害シタル所爲……………二〇
- 第七節 人ノ住所ヲ侵スル罪……………二〇
- 第八節 官ノ封印ヲ破壞スル罪……………二〇
- ◎容器ニ施シタル封印ヲ破壞シ在中ノ物品ヲ取出シ他ニ移シタル所爲……………二一
- 第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪……………二一

第四章 信用ヲ害スル罪

- 第一節 貨幣ヲ偽造スル罪……………二二
- ◎偽造貨幣ヲ他人ニ交付シテ其所有權ヲ移轉シタル所爲……………二二
- ◎偽造貨幣貨物標信ノ程度ハ自由心証ニ委スヘキモノトス……………二二
- ◎自ラ犯罪ノ實行ニ着手シタル後他人ヲシテ其一部ヲ行ハシメタル場合……………二二
- ◎偽造増減變換行使等ノ意義……………二二
- 第二節 官印ヲ偽造スル罪……………二三
- ◎印章偽造ノ行爲……………二三
- 第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪……………二三
- ◎電報送達紙ヲ偽造シ之ニ文字ヲ記入シ配達ノ手續ヲ爲シタル場合ノ罪責……………二三
- ◎電報送達紙ノ性質……………二三
- ◎町長カ其職務ヲ機トシテ私書ニ其監守スル職印又ハ公署……………二三

目次

刑罰三

- 印ヲ押捺シタル所爲……………二四
- ◎官吏カ其官廳ノ取扱例ニ依リ記入スヘキ事項ヲ偽造シタル所爲……………二四
- ◎刑法ノ所謂官文書ノ釋義……………二四
- ◎官廳ノ内達慣例等ニ依リ作成スヘキ書類ニ關シ其例規ノ存在スルヤ否ヤハ一ノ事實問題ニ屬ス……………二四
- ◎官文書本來ノ效用以外ニ效用ヲ爲サシメタル場合ノ罪責……………二五
- ◎執達吏代理ノ作成シタル文書ハ官文書ナリ……………二五
- ◎檢定印章ヲ挾取シ他ノ衙署ニ嵌入シタル所爲……………二六
- ◎官文書偽造ノ所爲……………二六
- ◎郵便貯金通帳ノ性質……………二六
- ◎偽造變造ニ付其判決ヲ異ニスルモ法條ノ適用ニ差異ナカリシ場合……………二六
- ◎偽造ノ所爲ノ種類……………二七
- ◎權利者ニ非ラサル者ノ爲シタル捺印ノ效果……………二七
- ◎文書偽造變造ノ種類……………二七
- ◎取扱ノ便宜上主任者ニ代リ書類ノ文詞ヲ代筆シタル場合其罪責……………二七
- 第四節 私印私書ヲ偽造スル罪……………二七
- ◎文書偽造罪ノ成立ニ於ケル行使ト其目的トノ關係……………二七
- ◎偽造証書ヲ裁列所ニ証據トシテ提出シタルトキハ行使シタルモノナリ……………二八
- ◎約束手形ヲ偽造シ執達吏ナシテ債務者ニ呈示セシメタル所爲……………二八
- ◎私書偽造行使ノ所爲……………二八
- ◎數名連印ノ一通ノ白紙委任狀ニ虛偽ノ事項ヲ記入シテ行使シタル場合……………二九
- ◎自己ノ犯罪辯護ノ爲メ私書偽造シタル所爲……………二九



- ◎共謀ノ上承諾ヲ得サル犯人ノ訴訟代理委任狀ニ偽造行使シタル事實……………二九
- ◎文書偽造行使罪ノ構成要件……………二九
- ◎權利關係ヲ証スヘキ文書ノ形体……………三〇
- ◎一文書カ官私兩面ニ涉ル場合ノ解釋……………三〇
- ◎私印偽造行使罪ノ成立要件……………三一
- ◎印影ニハ必シモ氏名ヲ表彰スルヲ要セス……………三一
- ◎証書ノ記載ヲ増減變更シテ新ナル權利關係ヲ証スヘキ証書ヲ作成シタル所爲……………三一
- ◎私印偽造罪ヲ認定スルニ當リ日時場所方法等ヲ判示セザル場合……………三一
- ◎偽造罪、變造罪、盗用罪、及ヒ詐欺取財等ノ關係……………三二
- ◎印類ハ相報人之レヲ所有スレモ押捺スルノ權ヲ取得セス……………三二
- ◎詐偽ノ所爲ヲ以テ鑑札ヲ受ケタル者ノ處分……………三二
- ◎詐偽ノ所爲ヲ以テ鑑札ヲ受ケタル者ノ處分……………三二
- ◎疾病證書ノ偽書行使……………三二
- ◎第六節 偽證ノ罪……………三三
- ◎賄賂其他ノ方法ニナル文字ノ解釋……………三三
- ◎虛偽ノ供述カ偶然事實ニ適合シタル場合ノ效果……………三三
- ◎偽証ヲ囑托シタル行爲……………三四
- ◎偽証罪ノ成立……………三四
- ◎刑法二二六條ノ所謂自首ナル文字ノ意義……………三四
- ◎偽証罪ハ曲庇ト陪害トニ由テ構成ス……………三四
- ◎偽証罪ハ法廷ニ於テ發覺スルモノナレハ公訴ノ提起ヲ要セス……………三五
- ◎偽証、偽鑑定、及ヒ虛偽ノ供述ニ對スル處分……………三五
- ◎被告人カ無罪ノ旨渡テ受ケタルト否トハ偽証罪ノ成否ニ……………三五

刑塔 四

- ◎關係ナシ……………三六
- ◎証人ノ供述ハ一回毎ニ確定シ其確定ト共ニ偽証罪ハ成立ス……………三六
- ◎第七節 度量衡ヲ偽造スル罪……………三七
- ◎第八節 身分詐稱スル罪……………三七
- ◎官名詐稱ノ實行ニ加功シタル事實ヲ判定セザル裁判……………三七
- ◎身分詐稱罪ノ成立……………三七
- ◎第五節 健康ヲ害スル罪……………三七
- ◎第六節 風俗ヲ害スル罪……………三七
- ◎「チーパー」ノ何タルヤチ明カセザル不法ノ判決……………三七
- ◎賭場開張罪ノ成立及ヒ其者自ラ賭博ヲ爲シタル場合ノ處分……………三八
- ◎賭博罪ノ他ノ犯罪ト異ナル点……………三八
- ◎刑法二六〇條ノ刑ニ一等ヲ減シナカラ二月ノ禁錮ニ處シタル判決……………三八
- ◎刑二二六〇條ノ所謂利ヲ圖リトノ意義……………三八
- ◎相場ノ高低ニ因リ金錢ヲ賭ジテ勝敗ヲ決シタル場合ノ罪……………三八
- ◎巡査カ賭博ノ現行犯ヲ認ムルノ場合……………三九
- ◎骨子骨牌ハ賭博常用ノ器具ナリ……………三九
- ◎賭博ノ行爲中警察官ニ檢舉サレタル場合……………三九
- ◎第七節 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪……………三九
- ◎第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害……………三九

スル罪

第九章 官吏瀆職ノ罪

- ◎第一節 官吏公益ヲ害スル罪……………四〇
- ◎第二節 官吏人民ニ對スル罪……………四〇
- ◎刑法二八八條ノ所謂費用トハ汎ク賄賂カ犯人ノ手ニ現存セル場合ヲ云フ……………四〇
- ◎收賄罪ト賄賂トノ關係……………四〇
- ◎賄賂ヲ收受セハ輒チ犯罪完成ス……………四〇
- ◎收賄罪ニ於ケル請託關係……………四一
- ◎刑法二八六條ノ「刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ認許シタル者」ノ意義……………四一
- ◎刑法二八六條所謂「刑事ノ裁判ニ關シ」ノ釋義……………四一
- ◎刑法ニ所謂官吏ノ意義……………四二
- ◎雇員ノ地位……………四二
- ◎第三節 官吏財産ニ對スル罪……………四二
- ◎書記カ保管中ニ係ル郵便爲替証書ヲ窃取シタル場合……………四二

第二編 身體財産ニ對スル罪

第一章 身體ニ對スル罪

- ◎第一節 謀殺殺殺ノ罪……………四二
- ◎謀殺未遂罪ノ構成……………四二
- ◎故殺未遂ト殺傷トノ關係……………四二
- ◎第二節 毆打創傷ノ罪……………四三
- ◎數人共毆ノ場合……………四三
- ◎人ニ組ミ付キタル所爲ハ即毆打ナリ……………四四

目次

第二章 財産ニ對スル罪

- ◎第一節 窃盜罪……………四七
- ◎田野ノ稻ヲ竊取リタル所爲……………四七
- ◎收稅官吏カ刑罰者ノ財産ヲ差押タル場合ニ其差押物ヲ竊取シタル所爲……………四七
- ◎贓物ヲ以テ物ヲ製造シタル事實……………四八
- ◎官署ノ命令ニ依リ他人ノ看守シタル物件ヲ窃取シタル者ノ罪……………四八
- ◎寄託ヲ受ケタル郵便箱中ヨリ物品ヲ取去リタル所爲……………四八

刑塔 五



- 窃盗罪ノ罪状……………四九
- 刑法第三七七條(親屬相盜)同第三七一條(準窃盜)ノ解釋……………四九
- 立木盜伐ノ場合其既遂ノ時期……………四九
- 刑法ニ所謂邸宅ノ解釋……………五〇
- 持兇器窃盜罪ノ成立……………五〇
- 兇器携帯者カ之ヲ犯罪ノ用ニ供シタル場合ノ處分……………五〇
- 第二節 強盜ノ罪
- 強盜殺人罪ノ所爲……………五〇
- 強盜ニ伴ヒ傷人ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ傷人ニ關與セサル他ノ共犯者ノ責任……………五一
- 強奪ノ爲メ人ヲ傷ケタル行爲……………五一
- 契約證書ハ權利證明ノ具ナルヲ以テ一ノ財物ナリ故ニ証書ヲ強取シタルハ強盜ナリ……………五一
- 強盜ヲ爲スニ當リ二人以上ヲ死ニ致シタル場合……………五一
- 財物ノ奪取カ權利ノ實行ニ非ル場合ノ處分……………五一
- 第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪
- 第四節 家賃分散ニ關スル罪
- 第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪
- 郵便物ノ受取人ニ對シ受領ノ權アル如ク詐ハリ引換代金ヲ騙取シタル所爲……………五二
- 公簿上被相續人名義ナルヲ寄託シ相續人ヲ欺罔シ更ニ相續人ヨリ權利移轉ノ登記ヲ受ケタル所爲……………五二
- 效用ヲ終リタル約束手形ノ支票ヲ欺罔シテ效用アルモノ、如ク爲シ之レカ交付ヲ受ケタル所爲……………五二
- 自己ノ公債證書若クハ株券ト雖モ一旦之ヲ身元保証トシテ他ニ委託シタルヲ費消シタル所爲……………五三
- 財物騙取ノ意思ヲ以テ民事訴訟ニ於テ虛偽ノ答辯ヲ爲シタル場合……………五三

- 委託物騙取罪ト其費消トノ關係……………五三
- 共有物ノ場合其共有者ノ一人カ之ヲ費消シタルトキノ罪……………五三
- 被告ノ辨濟實力及ヒ其辨濟ノ意思ト犯罪成立トノ關係……………五四
- 實買ノ名義ヲ以テ不動産ヲ騙取スル場合……………五四
- 恐喝取財罪ト被恐喝者ノ畏怖トノ關係……………五四
- 約束手形ニ虛無ノ人名ヲ署名シ之ヲ行使シタル所爲……………五四
- 不當ニ訴訟ニ關スル旅費ヲ騙取シタル所爲……………五五
- 欺罔ト騙取トノ因果關係……………五五
- 無効ノ實買ト之ニ基キ爲サレタル登記ノ效果……………五五
- 訴訟費用ヲ請求スルニ當リ虛偽ノ計算書ヲ作成シ確定決定ヲ得テ執達吏ニ取立委任ヲ爲シタル所爲証書ノ一部ヲ騙取シタルヲ認メナガラ其全部ヲ還付スヘシト命シタル判決……………五五
- 恐喝手段ヲ用ヒ財物ヲ交付セシメタル場合……………五六
- 自己ノ振出シタル郵便爲替金ヲ詐取シタル所爲及ヒ其被害者……………五六
- 被害者ノ親族ナルコトヲ認メナガラ親等ノ親族ナルコトヲ明示セシメテ刑ヲ言渡シタル判決……………五六
- 後見人カ被後見人ノ財産ヲ費消シタル場合ノ罪責……………五六
- 共謀假裝シテ裁判所ヲ欺罔シ假處分ノ命令ヲ發シメシメ物品ヲ騙取シタル所爲……………五七
- 犯人ノ用井タル恐喝手段ト恐喝者ノ畏怖トノ關係……………五七
- 詐欺手段ヲ以テ實買ノ承諾ヲ爲シメタル者ノ犯行……………五七
- 他人ノ不動産ヲ冒認シテ抵當ト爲シ金員ヲ騙取シタル所爲……………五八
- 人ヲ欺罔シテ實買證書ニ署名捺印セシメタル所爲……………五八

- 強盜ヲ爲サンコトヲ共謀シ其實行ニ與カリタル者ノ罪責……………五八
- 詐欺罪ヲ行フニ因テ官私文書ヲ偽造シタル所爲……………五八
- 故意ヲ以テ訴訟ヲ提起スルモ被害者カ之ヲ知り任意金圖ヲ仕拂ヒタル場合ノ效果……………五九
- 判文ニ証書横領ノ事實ノミヲ說示シ其証書ノ内容ヲ明示セサル判決……………五九
- 冒認罪ノ意義……………五九
- 詐欺取財ヲ爲サンコトヲ數個ノ行爲ヲナシタル場合其罪ノ箇數……………六〇
- 刑法第三百九十三條第三項ノ所謂重抵當罪ノ解釋……………六〇
- 詐欺取財罪ノ構成……………六一
- 刑法第三百九三條第二項ノ「自己ノ不動産ト雖モ」トアル意義……………六一
- 複寫ニ依リテ作リタル書類ノ效力……………六一
- 金員ヲ騙取スルノ目的ヲ以テ偽造株券ヲ交付シタル所爲……………六二
- 委託物費消罪ト其物費消性トノ關係……………六二
- 金員借受ノ委託ニ依リテ委託關係ヲ生ス……………六二
- 欺罔騙取ノ所爲ト其手段ノ如何ト及ヒ被害者ノ智能ノ程度トノ關係……………六二
- 刑法第三百九十五條ノ所謂委託ノ解釋……………六三
- 偽造証書ヲ行使シタル事實ヲ認ムルモ之ニ對シ何等疑律ヲ爲シタルニ非ラサル判決……………六三
- 一團ノ物件ヲ冒認シテ數度ニ實買交換ヲ爲シ各所爲獨立ナル場合ノ罪科……………六三
- 第六節 贓物ニ關スル罪
- 刑法第四百一條ノ所謂詐欺取財其他犯罪ニ關スル物件ト云フノ意義……………六四
- 知情故買ノ所爲……………六四

- 自己ノ家屋ニ他人住居シタル場合之ニ放火シテ燒毀シタルトキ其罪責……………六五
- 放火罪ノ成立時期……………六五
- 放火罪ノ既遂ナルヤ否ヤノ問題ヲ決スル標準……………六五
- 放火罪ノ既遂ト爲スヘキ分界……………六五
- 第八節 洪水ノ罪
- 樋管ノ栓ヲ抜キ水量ヲ減シタル所爲……………六六
- 共用權ヲ有スル水ヲ漫ニ引用シテ他水利ヲ妨害スル所爲……………六六
- 水利ノ妨害……………六六
- 第九節 船舶ヲ覆没スル罪
- 第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪
- 兩戸ハ家屋ノ一部ナルヲ以テ之ヲ毀チタル所爲ハ家屋毀壞罪ヲ構成ス……………六七
- 事實ヲ説明セサル不法ノ裁判……………六七
- 建造物毀壞ノ解釋……………六七

第四編 違警罪

刑法附則

刑法 終



刑事訴訟法

第一編 總則

- 犯罪ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ公訴ニ附帯シテ賍物ノ返還ハ犯罪以外ノ者ニ對シテモ之ヲ爲スヲ得... 六九
私訴ハ第二審ノ判決アルマテ何時ニテモ之ヲ爲スヲ得...
又一旦之ヲ取下ルモ更ニ之ヲ提起スルヲ得...
呼出ニ應ズル旅費日常モ亦犯罪ヨリ生スル損害ナリ...
被告以外ノ者ニ對シテモ私訴ノ提起ヲ爲スコトヲ得... 七〇
被害者ヨリ抵當權設定登記ノ取消ヲ請求スルハ一種ノ損害賠償ノ請求ニ外ナラス...
犯罪ニ依リテ履行セラレシ買賣契約不履行ノ豫定賠償ハ民法ノ不法行為ノ規定ニ依リ慰謝金ハ私訴ヲ以テ請求スルコトヲ得...
公訴權消滅ノ原因タル確定判決ニアラサル判決... 七一
貼紙ノ上ニ文字ヲ記載シタルト貼紙ヲ以テ文字ヲ蔽フタルトノ弊...
文字ノ收買ハ元ノ文字ヲ無効ナラシムルモノニアラス...
一行ノ全部ヲ削除シ其旨ヲ記載シタルトキハ字數ヲ記載スルヲ要セス...
押印ハ改訂削除ノ個所若クハ欄外ノ記載執レカ一方ニ爲セハ足ル... 七二
一箇ノ押印ヲ以テ二箇ノ變更ヲ証スルヲ得...
文字ノ挿入削除ノ箇所ニ認印ナキモ其欄外ニ認印アレハ足ル...

- 挿入ノ字數ハ之ヲ記載スルヲ要セス... 七三
文字ノ數ヲ記載セサル消除...
官公署ノ印ハ職務以外ノ書類ニ適用スベキモノニ非ス...
第廿條適用ノ範圍...
巡査力犯罪ヲ見聞シタル事實ヲ錄取シタル文書... 七四
刑罰第二一條ノ二ノ規定ニ捺印スルコト能ハサル事由ノ記載ヲ要ストノ文詞ナキヲ以テ其理由ヲ記載スルヲ要セス...
書類ノ每葉ニ契印スヘキ場合...
法定代理人ヲ當事者トシテ表示シタルトキ... 七五
裁判所ノ肩書アリテ書類作成ノ場所ノ記載ナキモノ推定...
刑事カ檢事ノ職務ヲ行フ場合ノ所屬官署稅務管理局長ノ作成シタル告發書力第二十條ニ違背シタルモノナルトキ...
第二十條第二項第二十一條ニ署名捺印ノ方式ニ背クモ其書類ハ必ラシモ無効トナラス...
出張先ニ作成シタル豫審調査ニ所屬官署ノ押印ナキモ無効ニアラサル場合... 七六
檢事ノ職取書ハ第二十條ノ適用ヲ受クベキ書類ニアラス...
書記ノ氏名ヲ其書記自身復寫シタルトキ... 七七
第二十七條ノ法意...

第二編 裁判所

第一章 裁判所ノ管轄

第二章 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避回避

- 忌避申請ハ裁判所ニ到達シタル時其效力ヲ生ス... 七八
共同被告ノ一人ヨリ忌避ノ申請ヲ爲シタルトキト雖モ他ノ被告ニ對スル辯論ハ中止スルヲ要セス...
甲ニ對スル判決ニ於テ甲ハ乙ト共ニ犯罪ヲ爲シタルトノ事實ヲ記スモ乙ニ對シ右罪ヲ豫斷シタルト云フヲ得ス... 七九

第三編 犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

第一章 捜査

- 代書者ノ署名ナキ告發狀ノ效力... 七九
官印ノ押捺ナキ告發調査ハ無効ナリ...
親權者ヲ法律上ノ代理人トシテ告發ヲ爲スコトヲ任シタル場合ノ委任狀...
賭博罪ノ構成ハ現行犯ヲ認知逮捕シタル者ノ巡査ナルト特別ナルトニ關セズ... 八〇
逮捕及告發調査ヲ作ル司法警察官ハ現行犯ニ於テハ逮捕引致シタル者ト別人タルコトヲ要ス...
第一章 起訴
檢事ノ起訴ニ依リテ重罪輕罪ノ區別...
檢事ノ公訴權ハ犯罪アルト同時ニ發生ス... 八一
現行犯ノ起訴...
適法ノ起訴ニ非レハ其效力ナシ...

第二章 豫審

- 裁判所ハ訴訟手續ヲ誤ルモ檢事ノ提起シタル公訴權ニ何等ノ影響ナシ...
檢事力豫審請求書ニ被告ノ氏名ヲ誤ルモ公訴提起ノ效力ニ影響ナシ及ホサス... 八二
檢事力豫審請求書ニハ犯罪事實ノ概要ヲ摘擧スルハ是レ必シモ犯罪ノ日時場所等ヲ詳記スルヲ要セス...
不完全ナル豫審請求書ハ無効ナルモ檢事力完備セル追完ノ手續ヲ爲スト同時ニ公訴ハ裁判所ニ繫屬ス... 八三
第一節 令狀
第二節 拘捕
第三節 證據
第四節 被告人ノ訊問及對質
豫審訊問調査ノ作成ノ時日...
明治十六年第八號布告當時ノ豫審訊問調査ニ書記ノ署名捺印ナキモ不法ニ非ス... 八四
搜查權ヲ有スル司法警察官ノ聽取書ハ公訴提起後ト雖モ無効ニアラス...
檢證調査ハ刑事ノ口述ニ基キテ書記之ヲ作ルモノトス...
豫審判事ハ其所屬支部ノ豫審判事ニ事務ヲ補助シ依歸スルコトヲ得ル場合...
宣誓書ニ刑罰第二一條ノ二ノ規定ニ背クモ其證人ノ宣誓書タル以上ハ無効ニアラス...
證人カ公証ニ於テ一タヒ爲シタル宣誓ノ效力... 八五



- ◎刑訴第一二三條ノ法意……………八五
- ◎證人宣誓書ニ代署シタル書記ノ官氏名ハ必シモ之ヲ記載スルヲ要セス……………八六
- ◎被告事件ヲ告知セサル證人訊問調書ノ效力……………ク
- ◎刑訴法ニ於ケル親屬トハ民法上ノ總テノ親族ヲ指稱スルモノニアラス……………ク
- ◎第一三一條第三項ハ第二一條ノ二項ノ改正ニヨリ自然ニ改廢ニ歸セリ……………八七
- ◎第二百二十七條ノ法意……………ク
- ◎豫審判事ハ鑑定人ヲ命スル權能ヲ有ス……………八八
- ◎第八節 現行犯ノ豫審……………ク
- ◎區裁判所檢察モ被告人ヲ訊問スルノ權ヲ有ス……………ク
- ◎第四百十八條ノ檢察ノ訊問ハ豫審判事ニ屬スル處分ナ行フモノニ非ラス……………ク
- ◎現行犯ニ對シ司法警察官ノ爲ス假豫審ノ訊問調書……………八九
- ◎司法警察官ノ豫審中ノ犯罪事件ニ關スル均査權及ヒ應取書作成ノ權……………ク
- ◎司法警察官力引致シタル現行犯人ヲ檢察力警察署ニ出張シ訊問シタルハ現行犯ノ豫審處分ナリ……………ク
- ◎現行犯ニ付臨檢シタル際ノ証人鑑定人ノ供述ハ事實參考タルニ過キス……………九〇
- ◎第九節 保釋……………ク
- ◎第十節 豫審終結……………ク
- ◎豫審結定ニ對スル抗告申立ト豫審判事ノ付スベキ意見……………九一
- ◎豫審終結決定書ノ送達ノ違法……………ク
- ◎豫審終結決定書ノ正本ニ於ケル形式ノ瑕疵ハ決定ノ確定ヲ妨ケス……………ク

第四編 公判

第一章 通則

- ◎免訴ノ豫審決定ノ效力……………ク
- ◎豫審決定ニ對スル抗告權ノ拋棄……………ク
- ◎強盜罪ナリト思料シテ移付シタルハ移付ノ決定ニシテ重罪事件トシテ裁判スヘキ旨ノ決定ナリト云フヲ得ス……………九二
- ◎判決原本ニ署名スベキ書記……………ク
- ◎保釋中ノ被告ト身体ノ拘束……………ク
- ◎後發ノ餘罪ヲ論セサル場合ノ公訴裁判費用ノ負担……………ク
- ◎公判始末書ニ氏名ノ記載ナキ檢察ノ作リタル檢証調書ノ效力……………九三
- ◎公判始末書ニ空白存スルモ無効ニアラス……………ク
- ◎公判ニ於ケル証人供述ハ公判始末書ニ記載スベキモノナリ……………ク
- ◎入ヲ誤リタル贓品附屬ノ裁判……………九四
- ◎相被告召換ノ費用ハ審問ヲ必要トセシ事件ノ被告ノミニ於テ負担ス……………ク
- ◎呼出狀ニ指示セシ時刻ト開廷セシ時刻カ相違スルモ違法ニアラス……………ク
- ◎辯護ノ届出ナキ場合ト雖モ辯護人立會ヲ承諾シタルモノト認ムヘキ場合……………ク
- ◎辯護人自ラ辯論期日ニ出頭スヘキ旨ノ請書ヲ差出シタル以上ハ呼出狀ヲ送達セサルモ違法ニアラス……………九五
- ◎辯護人ヲ呼出サスシテ証據調ノ決定ヲ爲スハ不法ナリ然レモ其後審理ヲ更新シ前ノ決定ニ依リ証據調ヲ執行スル……………ク

- ◎モ不法ニアラス……………ク
- ◎辯護人ノ出廷ナキ証人ノ訊問ヲ爲シタルハ違法ナリ……………ク
- ◎被告人欠席スルモ辯護權ヲ拋棄シタルモノト云フヲ得ス……………ク
- ◎辯護人ヲ立會ハシメスシテ爲シタル証人訊問……………九六
- ◎公判以前ニ爲ス臨檢ニ關シテハ辯護人ノ立會ヲ要セス……………ク
- ◎受託判事ノ証人又ハ參考人ノ訊問ニハ辯護人ヲ立會ハシムヘキモノニアラス……………ク
- ◎受命判事又ハ受託判事力証據ヲ爲ス場合ニ其期日ヲ訴訟關係人ニ通知セサルモ不法ニアラス……………ク
- ◎受命判事ノ証人參考ノ訊問ニハ被告人ノ意見ヲ徵シ辯解ヲ爲サシムルノ要ナシ……………ク
- ◎前回ノ公判ニ退廷ヲ命セラレタル被告人ト雖モ次ノ開廷ニ出頭セシムヘキモノナリ……………九七
- ◎判決原本作成場所ヲ記載スヘシトノ規定ナシ……………ク
- ◎華州ハ本法ニ所謂捺印ノ一種ナリ……………ク
- ◎供述ヲ爲ササル者ニ對シ調書ニ署名捺印セシムヘキモノニアラス……………九八
- ◎再開延願ハ嘆願ニ過キス……………ク
- ◎事實ノ誤謬アルトキハ公判始末書訂正スルヲ妨ケス……………ク
- ◎公延ニ設備セル箱ハ被告人ノ身体ヲ拘束シタルモノニ非ラス……………ク
- ◎被告人身体拘束ヲ受ケザルコトノ記載……………ク
- ◎二名ノ書記公判ニ立會タルトキハ其公判始末書ニハ二名共ニ署名捺印スヘキモノトス……………九九
- ◎第二〇五條ノ檢察トハ審理又ハ判決言渡ニ干與シタル檢察ノ謂ナリ……………ク
- ◎判決原本ニ辯論ニ立會ハザル檢察ノ氏名ヲ記載スルモ不法ニアラス……………ク

- ◎判決原本ノ作成ト第二百五條ノ特別規定……………一〇〇
- ◎疾病ヲ理由トスル公判延期申請ヲ却下シ欠席判決ヲ爲スモ不法ニアラス……………ク
- ◎審理ヲ更進シタル後則讀ヲ爲シタル形跡ナキ証據書類ヲ採用シタルハ不法ナリ……………ク
- ◎偽造ノ告訴狀及ヒ告發狀ハ証據物件ナリ……………ク
- ◎証憑書類ト證憑物件ノ區別……………ク
- ◎公判開廷前ニナシタル証人訊問ノ囑託……………一〇一
- ◎証人喚問ノ決定ヲ執行スルニ付テノ手續ハ公判ノ内外ナクハス之ヲ爲スコトヲ得……………ク
- ◎公判開廷前ニ申立タル臨檢ノ申請……………ク
- ◎國語ニ通セサル証人ノ訊問……………ク
- ◎受命判事ハ臨檢ノ場所ニ於テ証人及參考人ノ訊問ヲ爲スコトヲ得……………一〇二
- ◎証人參考人ノ訊問囑託決定ニハ受託セラルル裁判所ヲ指シタル規定ナシ……………ク
- ◎証人訊問ノ決定ハ之ヲ取消サル以上ハ必ズ取調ヲ爲サル可ラス……………ク
- ◎審理更新前ニ爲シタル証據調ノ決定ノ效力……………一〇三
- ◎決定シタル証人訊問ノ取消……………ク
- ◎証人ニ對シ利害關係ヲ調査セサルモ違法ニアラサル場合……………ク
- ◎再ヒ証人訊問申請ヲ爲サハルヘカラサル場合……………ク
- ◎証人ノ氏名目錄ヲ相手方ニ送達スベシトノ律意……………ク
- ◎証人喚問ヲ却下スル決定ニハ理由ヲ付スルノ要ナシ……………一〇四
- ◎被告事件ヲ明記セサル証人訊問調書及宣誓書ノ效力……………ク
- ◎審理更新前ニ爲シタル証據調ノ決定……………ク
- ◎証人訊問ノ際被告人ヲ退廷セシムル決定……………ク



- 内縁ノ妻ノ父母ハ証人トシテ訊問シヘキモノナリ……………一〇五
- 村長ノ資格ヲ以テノ私訴ハ民事原告人ニ非ス……………ク
- 裁判長ハ鑑定ノ決定ヲ執行スルニ付告知スルヲ要セス……………ク
- 鑑定書ヲ被告ノ人ニ示シ特ニ意見ヲ促サハルモ違法ニアラサル場合……………ク
- 鑑定書ヲ朗讀スルト被告人ニ示ストハ鑑定書ノ如何ニ由ル……………ク
- 検事力鑑定人ノ喚問ヲ申請スルニ當リ其氏名ヲ指示サル場合……………ク
- 職權ヲ以テ命スル鑑定ノ決定ニハ鑑定人ノ氏名ヲ指示スルヲ要ナシ……………一〇六
- 検事力復査ノ爲メ醫師ノ陳述ヲ聽キ差出サシメタル書面ハ鑑定書ニアラス……………ク
- 証人調書ノ流用……………ク
- 甲所爲ニ對スル証言カ乙所爲ニ對シ效力ヲ及ホス場合……………ク
- 偽造ノ手段方法ヲ判決ニ明示セザルモ不法ニアラス……………ク
- 合併審理ヲ爲シタル數事件ノ判決理由……………ク
- 犯罪ノ証憑充分ナラサルヲ理由トシテ無罪ノ判決ヲ爲ス場合ノ説明……………一〇七
- 有罪ノ部ニ付テ理由ヲ付シタル以上ハ無罪ノ部ニ付テ理由ヲ付スルヲ要セス……………ク
- 特ニ無罪ノ旨渡チ爲スベキニアラサル場合……………ク
- 私訴ニ對スルノ判決……………ク
- 被告ノ手ハサル賠償額ニ對シテハ証據ニヨリ理由ヲ説明セザルモ不當ニアラス……………ク
- 公訴ノ事實ヲ掲載セスシテ無罪ヲ言渡シタル判決……………一〇八
- 刑事ノ氏名ヲ重複ニ記載スルモ違法ニアラス……………ク
- 人違ニ非ラサル以上ハ判決書ノ附書ニ相違アルモ瑕疵ニアラス……………ク

第二章 區裁判所 公判

- 裁判長カ書頭ノ朗讀ヲ爲スモ違法ニアラス……………ク
- 送達証書ハ送達吏ノ署名捺印ヲ以テ足ル必シモ其身券ヲ記載スルヲ要セス……………一〇九
- 送達手續ニ不合六ノ点アルモ送達ヲ受ケタル者ニ於テ異議ナキ以上ハ無効ニアラス……………ク
- 第二百二十六條ノ法意ト代人ノ故障申立……………ク
- 証據調濟ノ後ニ裁判所ハ檢事ニ意見ノ陳述ヲ強ユルヲ要セス……………ク
- 檢事カ被告事件ヲ陳述シタリト認ムルヲ得サル場合……………一〇〇
- 適法ナル故障申立アルトキハ區裁判所ハ當然消滅ス……………ク
- 被告カ故障申立ヲ取消スモ裁判所ノ審理權ヲ妨ケルモノニアラス……………ク
- 第二百九條ノ法意……………一〇一
- 私訴ニ付テハ最終ニ被告ノ意見ヲ聽カサルモ不法ニアラス……………ク
- 爾後ニ於テ變更セントスル申立アル証據ノ供述……………一〇二
- 同上……………ク
- 既知ノ事實ト心証判斷……………ク
- 間接証據ト雖モ心証判斷ニ供スルコトヲ得……………ク
- 裁判外ノ陳述ヲ用フルハ推理判斷ノ一作用ナリ……………ク
- 差判調書ニ記載シアル被告ノ任意ニ爲シタル供述ハ証據ニ供スルヲ得……………一〇三

第三章 地方裁判所 公判

- 受命判事ハ陪檢處分ニ必要ナル証人ヲ訊問スル權アリ……………ク
- 一審判決ノ誤記アルコトヲ判示スルモ其理由ヲ要セス……………一一九
- 犯罪ノ日時カ犯罪又ハ時効ノ成否ニ關セザルトハ其認定ヲ誤リタル第一審判決ヲ取消スノ要ナシ……………ク
- 檢事ノ附帶控訴ニ對シ判決ヲ爲サハルハ不法ナリ……………ク
- 第二審裁判所ハ第一審ト等シク起訴ニ係ル被告事件全体ニ付審理スヘキモノトス……………ク
- 檢事カ控訴ノ申立ヲ爲スニハ控訴ノ公判ニ於テ其趣旨ヲ陳述スルヲ要ス……………一二〇
- 檢事力控訴ノ趣旨ヲ陳述セザルニ拘ハラヌ審理ニ着手スルハ違法ナリ……………ク
- 同上……………ク
- 前項ト反對ナル場合……………ク
- 控訴ハ被告事件ノ全部ニ涉ル……………ク
- 第一審判決ノ主文ト第二審判決ノ主文カ異ナルトキハ第一審判決ヲ取消ス上ニ於テ何等ノ影響ナシ……………一二一
- 檢事ハ附帶控訴ニ其申立ノ方式ノ定メナキヲ以テ口頭ヲ以テモ爲スヲ得……………ク
- 相被告ニ對スル公訴裁判費用ノ半額ノ負担ヲ命ジタル一審判決確定シタルトキハ性質上連帶負担セシムヘキ費用ナルモ他ノ半額ヲ控訴ヲ申立タル被告ニ單獨負担セシムルヲ相當トス……………ク
- 前審証據ノ朗讀ニ當テ得サル處アルモ其証據ニシテ不法ニアラザレハ之ヲ取消スノ要ナシ……………ク
- 第一審公判手續ノ瑕疵……………ク
- 第二審ニ於テ第一審判決ノ一ノ瑕疵ヲ指摘シタルトキハ他ノ瑕疵ヲ取消スヲ要セス……………一二二
- 第二百六十四條ヲ適用スベキ場合……………一二三
- 一所爲ノ公訴事實ニ付キ其一部ヲ有罪トシテ他ノ一部……………ク

第五編 上訴

第一章 通則

- 前科ニ付被告ノ自白カ信スルニ足ルトキハ其証據ヲ調査スルノ必要ナシ……………ク
- 被告人其罪ヲ自白スルモ尙ホ其証據ヲ調ヘサル可ラス……………一一四
- 部員變更前ニ於ケル証據調ノ申請ニ對シテハ變更後ト雖モ決定ヲ爲サハルヘカラス……………ク
- 被告並ニ辯護人ヨリ上訴ヲ爲シタル場合ノ審理判決……………一一五
- 辯護人ヨリ申立タル控訴……………ク
- 代人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得ル事件ノ代人ハ控訴申立ヲ爲スノ權ナシ故ニ其控訴申立ハ不法ナリ……………ク
- 檢事正ノ職務……………ク
- 署名捺印ナキ控訴申立書ハ無効ナリ……………一一六

第二章 控訴

- 控訴申立書ニ記載ノ日附ノ相違……………ク
- 重罪公判ニ付スル旨ノ豫審決定ノ二審ニ及ブ效力……………一一七
- 控訴ノ趣旨カ判決ノ一部ニ限ラサルトキ……………ク
- 控訴審ハ事實認定ノ自由ヲ有ス……………ク
- 一審判決ヲ被告ノ利益ニ變更シタリト云フ能ハサル場合……………ク
- 控訴審ニ於テ新ナル一罪ヲ認メタルトキ……………ク
- 第二百二十七條ノ法意ト控訴審ニ於ケル欠席判決……………一一八
- 第二審ニ於テ控訴ニ係ル事件ヲ第一審ニ差戻ス規定ナク……………ク



- 無罪トシタル判決ニ對スル檢事ノ控訴……………一三三
- 一ノ犯罪カ數箇ノ所爲ヲ包含シ第一審ハ其所爲ノ全部ヲ認メ控訴院ハ其一部ノミヲ認ムル場合……………ク
- 控訴審ニ於テ主文ノ判定無罪事實及刑ノ適用ニ關シ第一審ノ判決ト符合スルトキハ控訴ヲ棄却スヘキモノトス……………ク
- 重罪ニ對シ一審カ無罪ヲ言渡シ他ノ輕罪ニ對シ控訴セシトキハ二審裁判所ハ重罪事件トシテ審理スヘキモノニアラス……………一三四
- 一ノ公訴事實ニ對シ被告ハ有罪ノ部分ノ圍内判決ニ對シ故隙ヲ申立テ檢事ハ無罪ノ點ニ對シ控訴ヲ申立テタル場合……………ク
- 附帶控訴ハ事實及証據調給了後ト雖モ提起スルコトヲ得……………一三五
- 控訴裁判所ハ控訴ニ對シ先ツ適法ニ成立シタルヤ否ヲ調査スベキモノナリ……………ク

第三章 上告

- 欠席判決ニ故隙申立ヲ爲サス直ニ爲シタル上告ハ不適法ナリ……………ク
- 期間ヲ經過シタル上告……………ク
- 不法ノ點ヲ指摘セサル上告應意書ハ無効ナリ……………一三六
- 第二百四十五條ノ規定ハ上告應意書提出ノ場合ニモ適用セラル……………ク
- 判文不明ニシテ安當ヲ欠クト雖モ原判決ヲ破毀スルニ足ラス……………一三七
- 第一審判決未書ニ官署ノ印ヲ押捺セサル不法ヲ取消サルニ對シ判決ハ不法ナリ……………ク

- 認定シタル事實ニ法律ヲ適用セサル判決……………ク
- 控訴申立ニ於ケル檢事ノ署名カ自署ナルヤ否ハ記録外ノ新ナル證據ニ據ベキモノニアラス……………一三八
- 再度欠席シタルニヨリ控訴ヲ棄却シタル場合ニ第一審判決ヲ論議シテ上告ノ理由ト爲スヲ得……………ク

第三編 司法事務ノ取扱

第一章 開廷

第二章 裁判所ノ用語

- 裁判所カ審問ノ際我邦一般常用ノ外國語ヲ雜ヘ用フルモ裁判所構成法第一一五條ニ違背セス……………一三九

刑事訴訟法終

諸法令罰則

- 一 要塞地帯法
  - 極影ヲ禁止シタル場所ヲ寫眞器械ハ犯罪ノ用ニ供シタル物件ニシテ犯罪組成ノ物件ニアラス……………一三一
  - 要塞地帯法ト陸軍省ノ告示……………ク
- 二 新聞紙條例
  - 新聞紙條例第十六條第二項ノ解釋……………一三二
  - 社會ノ秩序ヲ害スル事項ヲ掲載シタル所爲……………ク
- 三 移民保護法
  - 營業トシテ渡航ヲ周旋シタル所爲……………一三三
  - 同上……………ク
  - 渡航周旋ノ意義……………ク
- 四 郵便法
  - 郵便法第二條ニ該當スル犯罪……………一三四
  - 通信事務員カ其監督ノ責アル郵便ヲ窃取シタル所爲……………一三五
- 五 森林法
  - 贖物ノ價格ヲ確定スルハ要スル事件ニ付其價格ヲ明示セシテ言渡シタル判決ハ不法ナリ……………ク
  - 第一審カ法條ヲ適用セサルハ不法ヲ認メ第二審判決ニ於テ之ヲ適用シナカラ原判決ヲ取消サルハ不法ナリ……………一三六
  - 森林法第三十八條第七號ノ解釋……………ク
- 六 取引法
  - 如何ナル類似ノ方法ヲ以テ來賣買ノ取引ヲ爲シタルヤヲ詳示セサルハ不法ナリ……………ク
  - 取引所法第三十二條ノ犯罪……………一三七
  - 名ヲ賣買取引ニ關リタル所爲ハ一種ノ賭博罪ナリ……………ク
- 七 戶籍法
  - 戶籍法第二百五條ニ所謂「利」ノ意義……………一三八
  - 戶籍法ニ所謂「偽」ノ届出……………ク

- 買受ケタル幼兒ヲシテ生長ノ後自己ヲ賣親ト信セシメント欲シ虚偽ノ認知届ヲ爲シタル行爲……………ク
- 警察官ノ職察ノ煩ヲ免ルハ爲メ虚偽ノ認知届ヲ爲セシ所爲……………ク
- 八 商標法
  - 商標法施行前ニ他ニ使用者アル同一若クハ類似ノ商標……………一三九
  - 間接國稅犯則者處分法第六條ノ臨檢ノ意義……………一四〇
  - 間接國稅犯則者處分法第六條ノ臨檢ノ意義……………ク
  - 間接國稅犯則者處分法第六條ノ臨檢ノ意義……………ク
  - 檢事ハ間接國稅犯則者處分法第六條ノ臨檢ノ意義……………ク
  - 收稅官吏ハ現行犯ノ外夜間臨檢搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得……………一四一
  - 間接國稅犯則者處分法第六條ノ臨檢ノ意義……………ク
  - 間接國稅犯則者處分法第六條ノ臨檢ノ意義……………ク
  - 間接國稅犯則者處分法第六條ノ臨檢ノ意義……………ク
- 九 酒造稅法
  - 酒造稅法違反者ニ對シ刑法教唆ノ規定ヲ適用スベキモノナリ……………一四二
  - 酒類製造人ノ代理人家族其他ノ者ヲ教唆シテ稅法違反ノ行爲ヲ爲サシメタル者ノ處罰……………ク
  - 酒造稅法第三十一條ハ刑ノ併科ヲ命ジタル規定ナリ……………一四三
  - 酒造稅法第二十四條ニ所謂「石炭」ノ意義……………ク
  - 税金ノ納付ヲ免カレント企テタル所爲……………一四四
  - 酒類ノ製造者ハ其造石炭ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處セラル……………ク
  - 清酒ノ製造力酒造稅法施行前ニ係ルト雖モ舊取ヲ摸造シ造石炭ノ免除ヲ企テタル所爲カ施行後ナル場合……………ク
- 十 軍機保護法
  - 軍機保護法第十四條ニ所謂防禦裝備物ノ狀況……………一四五
- 十一 市町村會議員選舉罰則……………ク



# 刑法之部

刑 十六

- 市町村會議員選舉規則第二條第二項ノ解釋……………ク
- 國稅徵收法第三十二條第一項ノ所爲ノ解釋……………一四六
- 國稅徵收法第三十二條適用ノ範圍……………ク
- 船員法……………一四七
- 船長カ船舶ヲ立去リタル場合……………ク
- 商法第九十四條ハ同法第九十三條ノ例外ナリ……………ク
- 衆議院議員選舉法……………一四八
- 衆議院議員選舉法ニヨリ開シラレタル者ノ被選舉權ノ停止……………ク
- 選舉法違反者ノ公權停止期間ノ起算點……………一四九
- 選舉法第一條ノ本法ハ大ニ被選舉權ヨリ施行スルノ……………ク
- 衆議院議員選舉法第八七條第一號ハ何人ニモ之ヲ適用スベキモノトス……………ク
- 選舉法第八七條第一項第二號ハ適用スベキ人ニ制限ナシ……………ク
- 衆議院議員選舉法第十一條ニ本法ハ大ニ被選舉權ヨリ之ヲ施行スルノ法律……………一五〇
- 新舊選舉法ヲ比照シテ判決スベキ場合……………一五一
- 衆議院議員選舉法ニ關シ一席ニ於テ數名ヲ登壇シタル場合ハ第一罪ヲ構成スルノミニテ數罪ヲ構成スルモノニ非ズ……………ク
- 選舉法ノ適用ハ選舉日内ノ前後ヲ問ハズ……………ク
- 新舊選舉法ハ公布ノ日ヨリ效力ヲ生スルモ舊選舉法ハ爲メニ效力ヲ失ハズ……………一五二
- 登記官吏ノ登記簿ナル證明ハ公証文書ナリ……………ク
- 町制……………ク

- 村役場書記カ收入役ノ代理中其徵收シタル手数料ヲ窃取シタルハ監守盜ヲ構成ス……………ク
- 書記カ其保管金ヲ費消シタル場合ニ在リテハ委託金費消罪ニ問フヘキモノトス……………ク
- 他人ノ特許ヲ得タル物品ヲ製造販賣シ特許權ヲ侵害シタル場合……………一五三
- 市參事會員モ公吏ナリ……………一五三
- 明治二十三年法律第百號……………ク
- 大藏省長カ國ノ代表者ヲ指定スル場合……………一五五
- 國ノ代表者ヲ指定シタル指定制ニ官署ノ印ヲ捺セザルモ妨ケナシ……………ク
- 明治二十九年逓信省公達郵便及電信局備採用規則……………一五五
- 三等郵便局逓信事務員ノ職務……………ク
- 逓信事務員ハ官吏ニ非ズ……………一五五
- 明治十九年内務省令第二十一號……………ク
- 自治制ノ未タ行ハレサル所ノ戸長ハ官吏ナリ……………ク
- 戸長役場ノ兼生ハ官吏ニ非ズ……………ク

諸法令罰則終

增補 帝國六法分 大審院判例要旨大系乙目次(刑事)大尾



- ① 市町村會合會 選舉規則第二條第三項ノ解釋 ..... 一四六
- ② 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ③ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ④ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑤ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑥ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑦ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑧ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑨ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑩ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑪ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑫ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑬ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑭ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑮ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑯ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑰ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑱ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑲ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑳ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉑ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉒ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉓ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉔ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉕ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉖ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉗ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉘ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉙ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉚ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉛ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉜ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉝ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉞ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉟ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊱ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊲ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊳ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊴ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊵ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊶ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊷ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊸ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊹ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊺ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊻ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊼ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊽ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊾ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊿ 國會議員選舉法 ..... 一四六

- ① 村役場書記ノ收入役ノ代理申其徵收シタル手数料ノ寄取シタルハ監査官ニ提出ス ..... 一五三
- ② 市町村會合會 選舉規則第二條第三項ノ解釋 ..... 一四六
- ③ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ④ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑤ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑥ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑦ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑧ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑨ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑩ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑪ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑫ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑬ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑭ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑮ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑯ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑰ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑱ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑲ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ⑳ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉑ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉒ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉓ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉔ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉕ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉖ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉗ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉘ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉙ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉚ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉛ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉜ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉝ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉞ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㉟ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊱ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊲ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊳ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊴ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊵ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊶ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊷ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊸ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊹ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊺ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊻ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊼ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊽ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊾ 國會議員選舉法 ..... 一四六
- ㊿ 國會議員選舉法 ..... 一四六

# 刑法之部

増補 附録 大審院判例 第六卷 第六百六十六號 (刑部) 大尾



# 增補

帝國六法  
附屬法令

# 大審院判例要旨大全

乙(刑事集)

## 刑法

### 第一編 總則

#### 第一章 法例

刑法第三條第  
二項ノ意義

○刑法第三條第二項ノ規定ハ新法發布前ニ終了シタル犯罪ノ行爲ニ適用スル  
コトヲ得ルニ止マリ新法發布前ニ犯サレタル犯罪カ新法發布後ニ繼續シタ  
ル場合ニ適用スルコトヲ得ス從テ繼續犯ノ場合ニ於テハ單一ナル犯罪トシ  
テ其全部ニ對シ新法ヲ適用スベキモノトス  
【參照】 三十五年十一月十七日判決第一四九三號 森林盜伐ノ件  
若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從  
テ處斷ス

### 第二章 刑例

#### 第一節 刑名

第一編 總則 法例 刑例 刑名



定規ヲ變更シタル度量衡ハ法律ニ禁シタル物件ナリ

通貨ニ紛シキ紙幣ノ性質及ヒ其沒收ノ適用

犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ沒收スルニ適スヘキ條項

第二節 主刑處分 (以上二節ニ該當スヘキ判例ナシ)  
第三節 附加刑處分

○規定ヲ變更シタル度量衡ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ナリトス從テ犯罪ノ用ニ供シタルト否トヲ問ハス又其罪体ニ係ルト否トヲ論セス其物件本來ノ性質ニ從ヒ刑法第四十三條第一號ニ依リ沒收スベキモノトス  
三十五年五月五日 判決第六〇六號

【參照】左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ(一)法律ニ於テ禁制シタル物件(刑法第四十條第一號)

○通貨ニ紛ハシキ外觀ヲ有スル玩弄紙幣ハ法令ニ於テ其製造並ニ所持ヲ禁制シタルモノトス從テ之ニ對シ沒收ノ宣告ヲ爲スニハ刑法第四十三條第一號ヲ適用スベキモノトス  
三十五年九月二十二日 判決第一二四六號 詐欺取財ノ件

○犯罪ノ用ニ供シタル物件ト雖モ元來法律ニ禁制シタル物件トシテ當然沒收セラルヘキ場合ニ於テハ常ニ必ス刑法第四十三條第一號ヲ適用スルコトヲ要シ同條第二號ヲ適用シテ沒收ノ宣告ヲ爲スヘキモノニ非ス  
三十五年九月二十二日 判決第一二四六號 詐欺取財ノ件

【參照】左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ(一)法律ニ於テ禁制シタル物件(二)犯罪ノ用ニ供シタル物件(刑法第四十三條第一號)

罪ノ未遂ノ場合ニ於ケル供用物件ノ沒收

○未遂罪ノ場合ト雖モ犯罪ハ既ニ成立シタルモノナルヲ以テ其犯罪ノ用ニ供シタル物件ハ沒收スヘキモノトス  
三十五年十月十三日 判決第一三三三號 恐喝取財ノ件

第四節 徵價處分

還付處分ニ失當ナル場合

○還付處分ニ付キ失當ノ點アリトスルモ自己ノ利害ニ關係ナキ被告ハ之ヲ論争スルヲ得ス  
三十五年六月十二日 判決第八二四號 持兇器竊盜ノ件

共犯人中ノ一人ニ對シテノ共同起リタル場合ニ對シテノ費用ニ付適用スヘキ條

○刑法第四十七條ハ數名ニテ行ヒタル犯罪ニ付キ共犯人カ共ニ訴追セラレ同一ノ判決ヲ以テ刑ノ言渡ヲ受クル場合ニ適用セラルヘキモノトス從テ共犯人中ノ一人ニ對シテノ公訴起リタルトキハ共同被告ナキヲ以テ同條ヲ適用シ裁判費用ノ連帶負擔ヲ命スル能ハサルハ當然ナリ  
三十五年七月三日 判決第一二二八號 竊盜ノ件



【參照】 數人共犯ニ係ル裁判費用贖物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシム(刑法第四十七條)

共同被告人ノ連帶責任

○共同被告人トシテ有罪ノ判決ヲ受ケタル以上ハ自ラ訴追セラレサル前他ノ共同被告人ニ依リテ生シタル裁判費用ト雖モ共ニ連帶負担スヘキモノトス  
三十五年十月三十日私文書偽造行使詐欺取財未遂及偽證ノ件  
判決第一三九四號

第五節 刑期計算

刑期ノ誤判

○前科有期徒刑十二年ナルヲ十五年ト判示セルモ此誤認ハ刑ノ適用ニ何等ノ影響ヲ及ホサス  
三十五年二月二十七  
日判決第一二三號 特兇器強盜及強盜傷人ノ件

刑法第五十一條第二號適用ノ當否

○刑法第五十一條第二號ハ檢事ノ上訴アリテ其上訴ニ對シ當否ノ判決アリタル場合ニノミ適用スヘキモノトス從テ被告ノ控訴取下ノ爲メ檢事ノ附帶控訴無効ニ歸シタルカ如キ場合ニ適用スヘキモノニ非ス  
三十五年七月十八  
日判決第一九號 委託金費消事件裁判執行異議ノ件

【參照】 檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トチ分タス前判宣告ノ日ヨリ起算ス(刑法第五十一條第二號)

第六節 假出獄 (本節ニ該當スヘキ判例ナシ)

第七節 期滿免除

刑ノ期滿免除後餘罪發覺シタル場合ニ於ケル處斷方

○前ニ發シタル一罪ニ付キ既ニ期滿免除ニ依リ關席判決ヲ以テ言渡サレタル刑ノ執行ヲ免カレタル後餘罪發覺シ刑法第二百二條ヲ適用スルトキハ被告ハ刑ノ執行ノ全部又ハ一部ヲ免カル、ノ結果ヲ生スヘキモ前發ノ罪ニ付キ確定判決ヲ經タル以上ハ同條ノ規定ヲ適用スヘキハ當然ニシテ其被告カ刑ノ執行ヲ免カル、ヤ否ヤハ之ヲ問フノ要ナシ(判旨第一點)  
三十五年一月二十三日判  
決三十四年第一八一八號 竊盜ノ件

【參照】 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該リ已ニ完納シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス(刑法第二百二條第一項)

第八節 復權

第三章 加減例

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕 (以上ノ章節ニ該當スヘキ判例ナシ)

第一編 總則 刑罰計算 假出獄 期滿免除 復權 加減例 不論罪及ヒ減輕 刑罰五







條)トノ二罪ニシテ毆打拷責ノ一罪(刑法第三百二十三條)ニ非ス三十五年二月二十日判決第八六號

【參照】(刑法第三百一十二條第二項)

擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ  
二回以上二十回以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ(刑法  
第三百一十二條)

擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シ  
タル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三回以上三十回以下ノ罰金ヲ附加ス  
(刑法第三百二十三條)

二箇ノ犯罪事  
件ハ互ニ分離  
スルヲ得ス

居宅内ニ入り  
テ物盜スヘキ  
ヲ教唆シタル  
教唆者ノ責任  
人ヲ教唆シテ  
自己ノ犯罪ノ

○二罪俱發シ一ノ重キニ從ヒ處斷シタル場合ニ於テハ二個ノ犯罪事件ハ互ニ  
分離スルヲ得サルモノトス從テ之ニ對スル被告ノ控訴中ニハ當然ニ事件ヲ  
包含ス三十五年五月一日判決第三八一號 約束手形及委任狀偽造行使詐欺取財並附帶私訴ノ件

○人ノ居宅内ニ忍入り窃盜ヲ爲スコトヲ教唆シタル者ハ其手段タル門戶墻壁  
ノ踰越ニ付テモ責任ヲ負ハサルヘカラス三十五年五月八日判決第六二三號 窃盜ノ件

○人ヲ教唆シテ自己ノ犯罪ノ證トナルヘキ物件ヲ隱蔽セシメタル所爲ハ刑法

証トナルヘキ  
モノヲ隱蔽セ  
シメタル所爲

第五百五十二條罪證隱蔽罪ノ教唆罪ヲ構成ス三十五年八月二十九日判決第一一九四號 私印盜用私書偽造  
行使詐欺取財未遂及罪證隱蔽教唆ノ件

【參照】 他人ノ罪ヲ免カレシメンコトヲ圖リ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽シタル者  
ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二回以上二十回以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法  
第二百五十二條)

犯罪自避的ノ  
教唆罪

○教唆罪ハ教唆者カ教唆ニ因テ犯シタル罪ノ要件タラサルヲ要スルヤ勿論ト  
ス從テ刑ノ執行ヲ遁レンカ爲メ他人ニ囑託シ自己ニ代リテ受刑セシメ自己  
ヲ隱避セシメタル所爲ハ隱避罪ヲ教唆シタルモノト云フヲ得ス三十五年十二月二  
十三日判決第二二  
號 罪人隱避ノ件

侮辱罪ノ教唆

○侮辱ノ記事ヲ認メタル原稿ヲ新聞社員ニ交付シテ之ヲ新聞紙ニ掲載發行セ  
シメタル所爲ハ其編輯人ニ侮辱罪ヲ教唆シタルモノトス三十五年十二月二十五日官  
判第二〇九四號 吏侮辱ノ件

註 此判例ハ便宜上茲ニ挿入スルコトトセリ

第八章 數人共犯

第一節 正犯 (本節ニ該ル判例ナシ)

第一編 總則 自首減輕 酌量減輕 再犯加重 加減順序 數罪俱發 刑 附 九



第二節 從犯

正犯ト從犯トノ關係

○從犯ノ罪ハ正犯ノ幫助スル罪ナルヲ以テ正犯ノ行爲ニシテ犯罪ノ構成要素ヲ具備スル以上ハ從犯ノ罪モ亦成立スルモノトス從テ賄賂收受罪ニ付テハ正犯ニシテ官公吏タル身分ヲ有スル以上ハ從犯ノ身分如何ヲ問フノ要ナシ三十五年三月二十八日 判決第一八〇六號 公史收賄贓金收受ノ件

共犯者ノ犯罪責任

○共犯ノ一人ハ他ノ共犯者ヲ代表シテ行動ヲ爲スモノナルカ故ニ共犯中一人ノ行爲ニ付テハ他ノ共犯者モ共ニ其責ニ任スヘキモノトス同前

一團體ト爲リテ賄賂ヲ收受シタル場合ノ責任

○數人共謀シテ一團體ト爲リ賄賂ヲ收受シタル上ハ即チ其團體ニ於テ收受シタルモノナルヲ以テ賄賂ノ現存セサルモノハ亦其團體ニ於テ使用シタルモノト認メサルヲ得ス從テ共犯者ハ賄賂ノ全部ニ付キ共同ノ責任ヲ負フモノニシテ各自カ分配ニ依テ得タル部分ノミニ付キ責任ヲ負フモノニ非ス同前

刑法第九條ノ解釋

○刑法第九條ハ正犯者カ罪ヲ犯ス意思ノ確定シ居ルコトヲ知テ之ヲ幫助スル場合ノミナラス唯其意アルモノト察知シテ之ヲ幫助スル場合ヲモ包含ス從テ從犯者カ正犯者ノ決意以前ニ爲シタル行爲ト雖モ爾後正犯者カ犯罪遂行ノ幫助ト爲リタル以上ハ其行爲ハ從犯罪ヲ構成スルモノトス同前

所謂豫備ノ所爲ノ意

○刑法第九條ニ所謂豫備ノ所謂トハ正犯者カ犯罪ニ着手ノ前後ヲ問ハス其犯罪ヲ容易ナラシムル爲メノ加擔行爲ナリトス同前

【參照】 重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止タ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス(刑法第九條)

數人共謀シテ合ニ於ケル實行者ノ行爲カ爲シタル行爲ノ責任

○數人共謀シテ誣告ヲ爲ス場合ニ在テハ共謀者中一人ノ犯罪行爲ノ實行ハ共謀者全体ノ行爲ト看做スヘキモノトス三十五年六月十日 判決第九三〇號 詐欺取財及誣告等ノ件

○甲乙共謀ノ上官有立木ヲ冒認販賣スルニ當リ甲ハ自己ニ拂下ヲ受ケタリト詐稱シタルニ非サルモ共謀者ノ一人ナル乙カ正當ニ拂下ヲ受ケ居ルモノナリト詐リ之ヲ販賣シタルトキハ冒認販賣罪ヲ構成ス三十五年十月二十八日 判決第一三八六號 森林竊盜冒認販賣詐欺取財官ノ印章盜用及附帶私訴ノ件

共犯ニ對スル證據

○一ノ犯罪事實ニ付キ完全ナル效力ヲ有スル證人ノ供述ハ其同一犯罪事實ニ追加セラレタル共犯ニ對シテモ亦同一ノ效力ヲ有ス從テ其證人ノ供述ヲ採テ后ニ訴追セラレタル共犯ニ對スル證據ト爲スモ違法ニ非ス三十五年十月三十日 判決第一三九四號



共謀犯罪ノ責任

○人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取セントコトヲ共謀シ分身一体其目的ヲ遂行シタル以上ハ共犯者ハ表面上直接加功セサル行爲ニ付テモ責任ヲ負フヘキモノトス  
三十五年十二月二日 判決第二〇一六號 詐欺取財ノ件

共謀ノ意思ト事實トノ連絡

○財物ヲ騙取セントコトヲ共謀シタル以上ハ證書ヲ騙取シタル場合ニ於テモ共謀ノ意思ト事實トノ間ニ連絡ヲ欲キタルモノト云フヲ得ス前

所謂犯罪ノ實行ノ解釋

○犯人カ或犯罪ヲ實行セントスルニ當リ其目的ヲ達スルカ爲メニハ犯人カ其犯罪ノ遂行ニ必要ナル所爲ヲ實行スルコト、犯罪實行ノ當時ニ於テ之ヲ妨クヘキ事實ノ存在セサルコトヲ必要トス從テ苟クモ其所爲ニ依リ此二個ノ要件ノ一ヲ充タシタル以上ハ其所爲カ犯罪構成ノ要件タル積極的ノ實行行爲ナルト犯罪行爲ノ實行ニ對シ消極的ノ作用タル妨害排除ノ行爲ナルトニ論ナク其犯罪ノ實行ニ干與シタルモノトス  
三十六年一月二十七日 判決三十五年第二三五號 持兇器窃盜ノ件

註 此判例ハ便宜上茲ニ挿入スルコトトセリ

所謂實行正犯ノ意義

○實行正犯トハ犯罪ノ成立ニ重要ナル行爲ヲ爲ス者ヲ云フ從テ見張ナルモノ

カ窃盜罪成立ニ重要ナル行爲ナル以上ハ實行正犯ノ責ニ任スヘキモノトス  
三十六年一月十五日判決 三十五年第二六五號 窃盜ノ件

### 第九章 未遂犯罪

○本章ニ掲出スヘキ判例多々之レアリ然レトモ亦是ヲ當該各條項ニ分付シテ掲記スルノ便宜ナルニ如カス讀者幸ニ各章ニ就テ參觀セラレンコトヲ請フ

### 第十章 親屬例

親屬例ノ意義

○親屬例刑法第一編第十章ハ民法上親屬ト爲スヘキ者ヲ規定シタルニ非スシテ親屬又ハ姻屬ノ關係ヨリシテ刑法上特別ニ處分スヘキ者ヲ列擧シタルモノトス刑事訴訟法第二十四條モ亦同一ノ主旨ニ外ナラス從テ民法ノ制定ニ依リ親屬例ニ變更ヲ及ホスヘキモノニ非ス  
三十五年五月八日 判決第五二八號 私書變造行使詐欺取財未遂ノ件

【參照】 此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ「一、祖父母父母夫妻二、

子孫及ヒ其配偶者三、兄弟姉妹及ヒ其配偶者四、兄弟姉妹ノ子及ヒ其配偶者五、父母ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者六、父母ノ兄弟姉妹ノ子七、配偶者ノ祖父母父母八、配偶者



ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者九、配偶者ノ兄弟姉妹ノ子干、配偶者ノ父母ノ兄弟姉妹(刑法第百十四條) 祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ兄弟姉妹ト稱スルハ異父異母ノ兄弟姉妹同シ養子其養家ニ於ケル親屬ノ例ハ實子ニ同シ(刑法第百十五條)

此法律ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第百十四條第百十五條ノ規定ニ從フ(刑事訴訟法第百二十四條)

証人ト被告人トノ親屬關係

○刑事訴訟法第百二十三條第二號ノ被告人トハ共犯アル事件ニ付テハ共犯トシテ訴追ヲ受ケタル被告人全體ヲ指稱シタルモノトス從テ共犯ノ一部カ公判ニ付セラレ他ノ一部ハ豫審中ナル場合ト雖モ其證人ト被告人トノ親屬關係ハ被告人全體ニ付キ之ヲ問查スルヲ要ス(三十五年十一月六日判決第一三〇九號) 公私印盗用公私文書偽造行使ノ件

【參照】左ニ記載シタル者ハ證人ト爲ルコトヲ許サス但宣誓ヲ爲サシメスシテ事實

參考ノ爲ノ其供述ヲ聽クコトヲ得(第二、民事原告人及ヒ被告人ノ親屬但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ)(刑事訴訟法第百二十三條第二號)

### 第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

#### 第一章 皇室ニ對スル罪

#### 第二章 國事ニ關スル罪 (以上三章ニ該當スヘキ判例ナシ)

#### 第三章 靜謐ヲ害スル罪

##### 第一節 兇徒聚衆ノ罪

兇徒嘯集罪ノ成立

○兇徒嘯集罪(刑法第百三十七條)ハ多衆カ現ニ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲スコト、其暴動カ多衆共同ノ意思ニ基クコト、ニ依リテ成立ス從テ多數ノ人カ此等ノ暴動行爲ヲ爲スモ暴動者間ニ意思ノ合同ナキトキハ本罪ヲ構成セス(三十五年五月十二日判決第六九六號) 兇徒聚衆治安警察法違犯官吏抗拒等ノ件

兇徒嘯集罪ノ成立

○兇徒嘯集罪(刑法第百三十七條)ハ多衆カ其共同ノ意思ヲ以テ暴動行爲ヲ爲スニ依リテ成立ス從テ多衆集合ノ初ニ於テ暴動ヲ爲スノ意思ナキモ其後ニ至リ暴動ノ意思ヲ生シ共同シテ暴動ヲ爲シタルトキハ本罪ヲ成立ス(前同)

○當初平穩ナル多衆ノ集合ト雖モ多衆ノ意思如何ニ依リ何時ニテモ兇徒嘯集ニ變シ得ヘキモノトス而シテ其集合ノ全部之ニ變セザルモ一部ノ人ニシテ暴動ノ意思ヲ生シ現ニ暴動ヲ爲シタルトキハ其之ニ干與シタル者ニ對シテ

集合ノ或ル一部カ暴動ノ意思ヲ爲トシタル場合ノ責任



ハ本罪ヲ構成ス前

【參照】兇徒多衆ヲ嘯集シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ處ス其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附加隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(刑法第百三十七條)

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

官吏抗拒罪ノ行爲

○何人ト雖モ官吏カ職務ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ之ヲ妨害シタル者ハ官吏抗拒罪(刑法第百三十九條)ノ制裁ヲ受クベキモノトス而シテ其妨害者ノ執行ヲ受クベキ人タルト其以外ノ第三者タルトハ之ヲ問フノ要ナシ(三十五年四月十五日判決) 家屋毀壞毆打創傷ノ件(二十四日判決)

【參照】官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第百三十條)

侮辱ノ意義

刑第一四一條第二項ノ演說ノ意

○侮辱トハ誹毀ト罵詈トヲ意味スル法語ナリトス從テ罵詈ニシテ公吏ノ職務ニ對スルモノナル以上ハ公吏侮辱罪ヲ構成ス(三十五年四月十五日判決) 公吏侮辱ノ件 ○刑法第百四十一條第二項ノ演說トハ或事項ノ問題ヲ掲ケ之ヲ演述說示スル

義

モノ、ミヲ云フニ非ス(三十五年五月二日判決) 公吏侮辱ノ件

【參照】官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容者クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ(刑法第百四十一條)

官吏ノ執行力ニ對シテ誤認ニ基キ執行スル場合ニ於テ其責任ヲ負ハルノ行爲

○官吏カ職務ヲ以テ正當ニ法律規則ヲ執行スル場合ニ在テハ縱令其執行力事實上ノ誤認ニ基キタルトキト雖モ被執行者ハ之ニ服從スルノ義務アルモノトス從テ之ニ暴行ヲ加ヘ抗拒シタル以上ハ官吏抗拒罪ヲ構成ス(三十五年五月十三日判決) 九號 官吏抗拒ノ件

公庭内ニ於テ立會檢事ノ職務ニ對シテ侮辱ヲ加フルノ行爲

○公庭内ニ於テ立會檢事ノ職務ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ檢事ニ面シタル儘故ラニ兩手ニテ顔ヲ撫テ大ナル咳嗽様ノ聲ヲ發シ隻手ヲ高ク差伸シ大聲ヲ發シタル所爲ハ刑法第百四十一條第一項ニ所謂形容ヲ以テ侮辱シタルモノトス(三十五年六月十二日判決) 官吏侮辱ノ件

辯護士控所ニ於テ檢事ノ指シタル大聲演說ヲ放チ大聲演說

○裁判所構内辯護士控所ニ於テ辯護士新聞記者廷丁給仕傍聽人等數十名居合セタル際暗ニ檢事ヲ指シ侮辱ノ語ヲ放チ大聲演說シタル所爲ハ刑法第百四十一條第二項ニ所謂公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタルモノトス前



【參照】 官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖書又ハ公然ノ演説ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ(刑法第百四十一條)

懲戒ニ列府セ  
ル刑檢事ニ對  
シテ侮辱ヲ爲  
加ヘタル所爲

○ 訟廷ニ判席セル判事檢事等ニ對シ單一ノ行爲ヲ以テ侮辱ヲ加ヘタル所爲ハ即チ一ノ官憲ニ對スル侮辱行爲ニシテ各人ニ對スル毎ニ一罪ヲ構成スルモノニ非ス從テ審理ノ結果被害者ノ數ヲ増減スルモ之カ爲メ殊別ノ判決ヲ爲スノ要ナシ前同

縣立中學校長  
ノ地位及之  
ニ對スル犯罪

○ 縣立中學校長ハ刑法ニ所謂官吏ナリトス從テ其職務ニ對シ侮辱シタル行爲ハ官吏侮辱罪ヲ構成ス(三十五年九月三十日判決第八八五號) 官吏侮辱罪ノ件

通信事務員ノ  
資格

○ 通信事務員ハ雇員ニシテ官吏ニ非ス(三十六年一月十三日判決三十五年第一八九五號) 窃盜等ノ件

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

未決囚徒ノ逃  
走シタル場合  
ノ罪責

○ 警察官カ刑事訴訟法第五十八條ノ規定ニ基キ令狀ヲ持タスシテ逮捕シタル被告人ハ未決ノ囚徒ナリトス而シテ其囚徒ニシテ監獄ノ一部ナル警察署ノ留置場ニ拘禁セラレタルトキハ其入監中ナルコト論ヲ俟タス從テ該囚徒ニシテ逃走シタルトキハ刑法百四十四條ノ囚徒逃走罪ヲ構成スルモノトス(十三

五年四月二十二日  
判決第六三七項) 窃盜及囚徒逃走ノ件

【參照】 司法警察官及ヒ巡查憲兵卒其職務ヲ行フニ當リ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ルヘキ輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ令狀ヲ待タズシテ被告人ヲ逮捕ス可シ(刑事訴訟法第五十八條第一項)

未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第四百四十二條ノ例ニ同シ但原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス(刑法第百四十四條)

已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス若シ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス(刑

第四百四十二條

犯人ニ隱避ノ  
便ヲ與フル者  
ノ罪責

○ 刑法第百五十一條ノ犯罪人隱避ノ罪ハ自カラ隱避ノ行爲ヲ行ハサルモ犯罪ニ隱避ノ便ヲ與ヘタルニ依リテ成立ス(三十五年五月十九日判決第五八九號) 罪人隱避ノ件

罪人隱避罪ノ  
成立要件

○ 罪人隱避罪(刑法第百五十一條)ハ犯罪人ナルコトヲ知リテ之ヲ隱避セシムルニ因リテ成立ス從テ隱避ノ所爲カ其犯罪人ニ對スル告訴又ハ豫審請求前ニ在ルヤ若クハ其後ニ在ルヤハ犯罪ノ成立ニ影響ナシ前同

【參照】 犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタル者ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿

シ若クハ隱避セシメタル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪 囚徒逃走ノ罪及ヒ及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪 刑罰 十九



以下ノ罰金ヲ附加ス若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フ  
(刑法第百五十一條)

第四節 附加刑ノ執行ヲ通ルノ罪

第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪  
(以上二節ニ該當スル判例ナシ)

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

瀛車ノ軌上ニ  
石ヲ置タル所  
爲

○瀛車カ軌上ノ石ヲ割ルヤ否ヤニ試験センカ爲メ軌上ニ石ヲ置キタル所爲ハ其直接ノ目的ハ往來ヲ妨害スルカ爲メニ非スト雖モ既ニ之ヲ知リナカラ其所爲アリタル以上ハ瀛車往來妨害罪(刑法第百六十五條)ヲ構成ス  
三十五年四月四日  
判決第五〇八號

瀛車ノ往來ヲ  
妨害シタル所  
爲

○刑法第百六十五條ハ瀛車ノ往來ヲ妨害スル爲メニ出テタルコトヲ要シ現ニ妨害ヲ爲シタルコトヲ必要トセス  
前

【參照】瀛車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス(刑法第百六十五條)

第七節 人ノ住所ヲ侵スル罪 (本節ニ該當スル判例ナシ)

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

容器ニ施シタル  
封印ヲ破棄シ  
シタル所爲  
移シタル所爲

○收税官吏カ容器ニ施シタル封印ヲ破棄シ在中ノ物品ヲ取出シ他ニ移シタル所爲ハ封印破棄罪(刑法第百七十四條)差押物件藏匿罪(刑法第三百九十六條)ノ二罪俱發ナリトス從テ窃盜罪(刑法第三百七十一條)ヲ以テ論スヘキモノニ非ス  
五年九月十九日判  
決第一二七二號

【參照】官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重懲罰ニ處ス若シ看守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ  
(刑法第百七十四條)

自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重懲罰ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス(刑法第三百九十六條)

自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之ヲ奪取シタル者ハ窃盜ヲ以テ論ス(刑法第三百七十一條)

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪 (本節ニ該當スル判例ナシ)

第四章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

第二編

公益ニ關スル重罪輕罪ノ加刑ノ執行ヲ通ルノ罪 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪 往來通信ヲ妨害スル罪 人ノ住所ヲ侵スル罪 刑 罰 二 十 一



偽造貨幣ヲ他人ニ交付シテ其所有權ヲ移シタル所爲

偽造貨幣眞物ニ自由心証ニ依リテハ自由心証ニ依リテハ

自ラ犯罪ノ實行ニ着手シタル後他人ヲシテ其一部ヲ行ハシメタル場合

偽造増減變換行使等ノ濫竽

○偽造貨幣ヲ他人ニ交付シテ其所有權ヲ移轉スルハ貨幣ノ用法ニ從ヒ之ヲ使用シタルモノトス從テ偽造貨幣ヲ小遣錢トシテ贈與シタル所爲ハ偽造貨幣行使罪ヲ構成ス而シテ其行爲ノ有償タルト無償タルトハ犯罪ノ成立ニ影響ヲ及ホサス 三十五年四月七日 判決第四一三號 偽造紙幣知情收受行使ノ件

○偽造貨幣行使罪ヲ斷スルニ當リ其貨幣カ果シテ貨幣トシテ人ヲ欺クノ程度ニ偽造セラレタルヤ否ヤハ事實裁判所ノ自由ナル心證判斷ニ委スヘキモノトス而シテ其心證斷罪ノ因テ生スル偽造ノ程度ハ之ヲ判示スルノ要ナシ 前

○自ラ犯罪ノ實行ニ着手シタル後他人ヲシテ其一部ヲ行ハシムルハ犯罪ノ教唆ニ非スシテ犯罪行爲ノ分擔ナリ從テ自ラ貨幣ヲ偽造シ他人ヲシテ之ヲ行使セシメタル場合ニ在リテハ貨幣偽造行使ノ一罪ニ問フヘキモノトス 三十五年四月十一日判決 第三〇六號 銀貨銅貨偽造行使ノ件

註 此判例ハ便宜上茲ニ挿入スルコトトセリ

○刑法ニ所謂偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者トアル中ニハ文書ヲ偽造又ハ變造シテ自カラ之ヲ行使シタル者ハ勿論他人ノ偽造又ハ變造シタル文書ナルコトヲ知リテ之ヲ行使シタル者ヲモ包含ス 三十五年十二月八日 判決第一九二七號 偽造株券行

使詐欺取財ノ件

第二節 官印ヲ偽造スル罪

○印章偽造ノ行爲ハ行使ノ手段ニ外ナテス唯官印ニ付テハ特ニ手段タル偽造ノミナルモ之ヲ罰スヘキコトヲ規定シタルニ過キス從テ偽造ト行使ト併發シタル場合ニ在テハ其目的タル行使ノ所爲ニ付キ其罪ヲ定ムヘキモノトス 三十五年十一月六日 判決第一五〇二號 公印公文書偽造變造行使使詐欺取財ノ件

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

○電報送達紙ヲ偽造シ之ニ必要ナル文言ヲ記入シテ配達ノ手續ヲ爲シタルトキハ縱令日附印ノ押捺ナシト雖モ官文書偽造行使罪ヲ構成ス 三十五年二月二十日 判決第一〇五號 官文書變換行使ノ件

○電報送達紙ハ郵便電信局ニ於テ作成スル文書ナレハ私人ノ通信ト雖モ尙ホ官文書ナリトス 前

○町長カ自己ニ關スル事項ノ取扱ヲ避ケスシテ其町長タルヲ機トシ他人ノ證明願書ヲ偽造シ其監守ニ係ル町長ノ職印及ヒ役揚印ヲ押捺シタル所爲ハ公文書偽造罪ヲ構成ス 三十五年三月二十八日 判決第一六三號 公文書偽造公印盜用私印私書偽造行使詐

第二編 公益ニ關スル重罪 官印ヲ偽造スル罪 官ノ文書ヲ偽造スル罪

印章偽造ノ行爲

電報送達紙ヲ偽造シ之ニ必要ナル文言ヲ記入シテ配達ノ手續ヲ爲シタルトキハ縱令日附印ノ押捺ナシト雖モ官文書變換行使ノ件

電報送達紙ノ性質

町長カ其職務ヲ機トシテ私利私欲ニ依リテ公文書ヲ偽造シタル所爲







官文書偽造ノ所爲

○法律ニ於テ代理ヲ許ス場合ナルト其然ラサル場合ナルトヲ問ハス苟クモ代理權限ヲ有セサル者カ擅ニ其代理ト記入シ之ヲ以テ眞ニ官ヨリ發シタル文書ナリトシテ行使シタルトキハ官文書偽造行使罪ヲ構成ス 三十五年十月二十日 判決第一四一六號 公文書偽造行使及詐欺取財ノ件

郵便貯金通帳ノ性質

○郵便貯金通帳ハ郵便局ナル官廳ニ於テ官吏カ職務上作成スヘキ文書ナリトス從テ其記載事項ハ一人ノ貯金證明ニ過キスト雖モ官ノ文書ニ外ナラス 三十五年十一月二十四日 判決第一五九號 官文書變造行使詐欺取財ノ件

偽造變造ニ付其判決ヲ異スルモ法律上適宜ニ差異ナカシシ場合

○偽造ト云ヒ變造ト云フモ共ニ刑法第二百三條ノ適用ヲ受クヘキモノナレハ縱シ其判決ヲ異ニスルモ法律上何等ノ影響ヲ生スヘキモノニ非ス從テ之カ爲メ判決ヲ取消シ又ハ判決ヲ破毀スヘキ限ニ在ラス 三十五年十二月九日 判決第一八〇九號 官文書變造行使ノ件

【參照】官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス眞官ノ文書ヲ毀棄シタル者又同シ(刑法第二三條)

偽造ノ所爲ノ種類

○明治三十四年度第一期縣稅地租割ノ領收書中第一期ノ一ナル文字ノ上ニ更

權利者ニ非ラサル捺印ノ效果

ニ一畫ヲ加ヘ二ノ字ト爲シ以テ第二期縣稅地租割ノ領收書ヲ作成シタル所爲ハ文書ノ變造ニ非スシテ偽造ナリトス 三十五年十二月二十五日 判決第二一九號 公文書變造行使ノ件

文書偽造變造ノ種類

○書類ノ作成者ニ非サル他ノ係官ニシテ承認ノ爲メ其書類ニ捺印スルモ書類ヲ作成シタルモノト云フヲ得ス從テ捺印ノ所爲ハ文章偽造變造罪ヲ構成セス 三十五年十一月十三日 判決第三三號 公文書偽造行使詐欺取財ノ件

取扱ノ便宜上主任者ニ代リテ書類ノ文詞ヲ筆記シタルニ止マルトキハ書類ヲ作成シタルモノト云フヲ得ス從テ其書類ハ職權アル主任者ノ作成シタルモノニシテ偽造文書ヲ以テ目スヘキモノニ非ス

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

○文書偽造罪ハ信用ヲ害スル罪ナルヲ以テ或目的ヲ以テ偽造若クハ變造ノ文書ヲ行使スルニ因リ成立シ結局ノ目的ヲ達シ得ルト否トハ犯罪ノ構成ニ影



響ナシ 三十五年一月十七日判決  
三十四年第一八四〇號 官文書變換行使ノ件

【參照】 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス(刑法第二〇三條第一項)

偽造証書ヲ裁  
判所ニ提出シタ  
ルトキハ行使  
シタルモノナ  
リ

○法律上證書ノ提出ヲ要セサル場合ナリトスルモ之ヲ證據トシテ裁判所ニ提出シタル事實アル以上ハ其證書ハ行使セラレタルモノトス從テ該證書ニシテ偽造ナルトキハ偽造文書行使罪ヲ構成ス三十五年十月三十日  
判決第一三九五號 私印盜用私書偽造行使詐欺取財未遂ノ件

約束手形ヲ偽  
造シ執達吏ヲ  
呈示セシメタ  
ル所爲

○約束手形ヲ偽造シ執達吏ヲシテ手形面ノ債務者ニ呈示セシメタル所爲ハ約束手形偽造行使罪ヲ構成ス三十五年二月四日  
判決第一〇五七號 官文書變造行使手形偽造行使詐欺取財未遂ノ件

私書偽造行使  
ノ所爲

○米一俵ノ借用證書ヲ調製スルニ當リ米額ノ個所及ヒ保證人ノ個所ニ貼紙ヲ爲シ置キ後ニ至リ其貼紙ヲ剝取リテ米額ヲ増加シ保證人ノ個所ニ借用主ト記入シタル連借證書ヲ作り之ヲ行使シタル所爲ハ私書變造行使ニ非スシテ私書偽造行使罪ナリ三十五年二月十八日  
判決第一一七號 私印盜用私書變造行使詐欺取財ノ件

數名連印ノ一  
項ニ虚偽ノ事  
項ヲ記入シタ  
ル所爲

○七名ノ押印アル一通ノ白紙委任狀ニ虚偽ノ事項ヲ記入シ之ヲ行使シタルハ集合シタル七箇ノ印影ニ對スル一所爲ナリトス從テ其印ニシテ同一制裁ニ

自己ノ犯罪  
爲シタル所  
爲

屬スルモノナルトキハ一箇ノ私印盜用罪ヲ構成スルモノトス三十五年四月十四日  
日判決第三七三號 私印盜用私書偽造行使詐欺取財ノ件

共謀ノ上承諾  
ヲ得サル人  
ノ訴訟代理  
任ヲ受シタル  
事實

○共謀ノ上承諾ヲ得サル他人ノ訴訟代理委任狀ヲ恣ニ偽造シ之ヲ行使シタル事實ハ被告ニ惡意アリタルコト自ラ明カナルヲ以テ特ニ其惡意アリタルコトヲ判示スルノ要ナシ三十五年四月二十四日  
日判決第一九四二號 私書偽造行使ノ件

文書偽造行使  
罪ノ構成要件

○文書偽造行使罪ヲ構成スルニハ其文書ヲ偽造行使シタルニ因リ他人ニ害ヲ生シ又ハ生シ得ヘキコトヲ要ス從テ他人名義ノ文書ヲ偽造行使スルモ其者ノ爲メ必ス利益ヲ生シ損害ヲ生スヘカラサルトキハ犯罪ヲ構成セス前

權利關係ヲ証  
スヘキ文書ノ  
形体

○苟セ權利關係ヲ證スヘキ文書ナル以上ハ其形体ノ何タルヲ問ハズ刑法第二百十條第一項ニ所謂證書ナリトス三十五年五月六日  
判決第六八三號 私書偽造行使ノ件

【參照】 賈買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四回以上四十四以下ノ罰金ヲ附加

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪 私印私書ヲ偽造スル罪



刑法第二項

一文書カ官私  
合ノ解  
面ニ涉ル場  
合ノ解

○同一ノ文書ニシテ一面ハ私文書偽造トナリ一面ハ官文書偽造ト爲ル場合ニ於テハ私文書偽造罪ハ自ラ官文書偽造罪中ニ包含ス三十五年五月十九日判決第六三二號官印盗用官文書偽造行使賄賂收受ノ件

私印偽造行使  
罪ノ成立要件

○私印偽造行使罪ノ成立スルニハ偽造ニ係ル印章カ人ヲシテ眞印ナルコトヲ信セシムヘキ程度ニ偽造セラレタルヲ以テ足ル而シテ其偽印ノ眞印ニ酷似スルト否トハ之ヲ問フノ要ナシ三十五年六月二日判決第八一七號私印私書偽造行使ノ件

印影ニハ必シ  
モ氏名ヲ表シ  
スルヲ要セス

○印影ニハ必シモ氏名ヲ表シスルノ要ナシ從テ「相濟」ト刻シタル印類ト雖モ押捺者ノ承諾ヲ證スル爲メ其名下ニ押捺スルニ於テハ調印ニ外ナラヌ三十五年六月二十日判決第一〇一〇號詐欺取財未遂及偽證ノ件

証書ノ記載  
増減變更シテ  
新ナル權利關  
係ヲ証スヘキ  
タル所爲

○新ニ證書ヲ作成シ又ハ既存ノ證書ヲ利用シ其記載ヲ増減變更シテ新ナル權利關係ヲ證スヘキ證書ヲ作成シタル所爲ハ證書偽造ナリ而シテ既存ノ證書ノ記載ヲ増減變更スルモ單ニ其證書ノ效力ヲ變更スルニ過キサル所爲ハ證書變造ナリ三十五年六月五日判決第七七六號約束手形偽造行使並詐欺取財ノ件

私印偽造罪ヲ  
認定スルニ當  
リ日時場所方  
法ヲ判示所  
セサル場合

○私印偽造罪ヲ認定スルニ當リ常ニ必スシモ其偽造ノ日時場所方法ヲ判文ニ揭ケテ事實上及ヒ證據上ノ理由ヲ示スノ要ナシ三十五年九月二十五日判決第一二六〇號私印私書偽造行使詐欺取財ノ件

偽造罪、變造  
罪、盗用罪、  
詐欺取財罪  
等ノ關係

○私書ノ偽造若クハ變造罪ト私印ノ偽造若クハ盗用罪及ヒ詐欺取財罪トハ罪質自ラ牽聯シテ互ニ密接ノ關係ヲ有ス從テ私書ノ偽造若クハ變造罪ニ付キ公訴ノ提起アリタルトキハ私印ノ偽造若クハ盗用罪モ亦其公訴ニ包含スヘキモノトス三十五年十月二十日判決第一四六七號約束手形偽造行使ノ件

印類ハ相續人  
之ヲ所有スル  
ノ權ヲ取得セ  
ス

○印類ナル物休ハ相續ニ依リ相續人ノ所有トナルコトヲ得ヘキモ被相續人ノ實印トシテ之ヲ押捺使用スルノ權利ヲ取得スルモノニ非ス從テ被相續人カ生前ニ押捺シタルモノトシテ之ヲ押捺使用スルニ於テハ盗用罪ヲ構成ス三十五年十二月二十二日判決第二〇六七號私印盗用私書偽造行使ノ件

詐欺ノ所爲ヲ  
以テ鑑札ヲ受  
ケタル者ノ處

○刑法第二百十四條ハ苟モ詐欺ノ所爲ヲ以テ鑑札ヲ受ケタル者ヲ處罰スルモノトス從テ其鑑札名義者ノ何人タルヤハ犯罪ノ成立ニ影響ナシ三十五年五月六日判決第七三〇號詐欺ノ所爲ヲ以テ鑑札ヲ受ケタル件

【參照】 屬藏身分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五



日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加フ(刑法第二十四條)

刑法第二十四條ノ免狀ノ意義

○刑法第二十四條ニ所謂免狀トハ之ヲ受クルト同時ニ或特殊ノ行為ヲ實行シ得ヘキ權利ヲ享有スルモノヲ云フ從テ書記試驗及第證書ノ如キ試驗ニ及第シタルコトヲ證スルニ過キササルモノハ同條ニ所謂免狀ニ非ス(三十五年五月十六日判決第八〇五號)

詐欺ニ依リ免狀ヲ取得シタル件

【參照】 醫藥身分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加フ(刑法第二十四條))

疾病證書ノ偽造行使

○刑法第二百五條第一項ニハ醫師ノ氏名ヲ用ヒテ疾病證書ヲ偽造行使シタル者ニ對スル刑罰ヲ定メ同條第二項ニハ人ノ囑託ヲ受ケ詐偽ノ疾病證書ヲ作りタル醫師ニ對スル刑罰ヲ定メアルモ其疾病證書ノ作成ヲ醫師ニ囑託シタル者ニ對スル刑罰ノ定メアルコトナシ(三十五年十一月二十一日判決第一八三九號) 疾病證書偽造行使ノ件

【參照】 公務ヲ免カル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處

シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス醫師囑託ヲ受ケテ其詐欺ノ證書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ(刑法第二十五條)

第六節 偽證ノ罪

「賄賂其他ノ方法ニナル文字ノ解釋

○刑法第二百二十五條ノ其他ノ方法中ニハ贈與ノ豫約ノ如キ賄賂ニ類似セル方法ハ勿論詐欺脅迫其他囑託者カ他人ヲシテ偽證ヲ爲スコトニ決意セシムルニ付キ用ユル總テノ方法ヲ包含ス(三十五年二月二十七日判決第一四〇號) 官命抗拒及偽證囑託ノ件

【參照】 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦偽證ノ例ニ同シ(刑法第二百二十五條)

「虛偽ノ供述カ偶然事實ニ適合シタル場合ノ效果

○或事實ヲ見聞セサル證人カ現ニ之ヲ見聞シタリト稱シ虛偽ノ陳述ヲ成シタル場合ニ於テハ偽證罪ハ完全ニ成立ス而シテ證人カ現ニ見聞シタリト偽リタル事實カ偶々實際ノ事實ニ適合スルモ偽證罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボサス(三十五年九月二十二日判決第一二二四號) 偽證ノ件

「偽証ヲ囑託シタル行爲

○甲カ處罰セラル、トキハ會社ノ不名譽ナルニ付キ公判廷ニ於テハ甲ハ乙ヲ毆打シタルコトナキ旨證言セヨト囑託シ丙ヲシテ偽證ヲ爲スノ決意ヲ爲サシメタル所爲ハ刑法第二百二十五條ニ所謂其他ノ方法ヲ以テ偽證ヲ囑託シ



タルモノトス 三十五年九月二十三  
日判決第一三〇三號 偽證致唆ノ件

【參照】 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者亦偽證ノ例ニ同シ (刑法第二百二十五條)

偽證罪ノ成立

○偽證罪ハ其證人ニ對スル訊問ノ全ク終リタルトキニ於テ初メテ成立ス而シテ訊問ノ全ク終ルトキトハ豫審ニ在テハ豫審判事カ訊問ヲ止メ調書ヲ讀聞ケタル上證人ニ於テ其供述ヲ變更増減セサル意思ヲ表示シタル時ヲ云フ 三十五年十月二十日判決  
第一三四七號 偽證ノ件

刑法第二百二十六條ノ所謂自首ナル文字ノ意義

○刑法第二百二十六條ノ自首ナル文字ニハ自白ヲ包含セス 前同  
【參照】 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス (刑法第二百二十六條)

偽證罪ハ曲庇ト陷害トニ由テ構成ス

○證人ノ直接ノ目的ハ被告人ヲ曲庇若クハ陷害スルニ非スシテ自己ノ惡事ヲ隱蔽スル爲メナリトスルモ現實被告人ヲ曲庇若クハ陷害スルコトヲ知り故ラニ不實ノ陳述ヲ爲シタルトキハ偽證罪ヲ構成ス 三十五年十一月十一日判決第一五九七號 偽證ノ件

偽證罪ハ法律ニ於テ發覺スルモノナレハ公訴ノ提起ヲ要セス

○公判裁判所ニ於テ發覺シタル偽證ニ付テハ公訴ノ提起ヲ要セス裁判所カ檢事ノ請求ニ因リ合議ノ上被告ニ對シ合狀ヲ發シ豫審判事ニ送致スベキ旨ノ

決定ヲ爲シタルトキハ公訴ノ提起アリタルト同一ノ地位ニ在ルモノニシテ送致ハ決定ノ執行ニ過キス且此場合ニ送致書ヲ作成スベキ規定ナキヲ以テ其送致書ニ不適式ノ点アルモ之ヲ受理シ豫審ヲ爲シタルハ違法ニ非ス 三十五年十月四日判決第一八九一號 偽證ノ件

【參照】 證人又ハ鑑定人ノ供述不實ニシテ故意ニ於テ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノト思料シタルトキハ裁判所ニ於テ檢事又ハ訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ取押ヘ拘引狀ヲ發シ豫審判事ニ送致スヘシ (刑訴法第九十五條)

○刑事訴訟法第九十五條ノ特別手續ハ偽証又ハ偽鑑定アリタル訴訟ニ限リ之ヲ行フコトヲ得ルモノナルモ虛偽ノ供述ヲ爲シタル者カ其認廷ヲ退去シタルト否トハ同條ニ依リ裁判所ニ付與シタル權能ニ消長ヲ來スコトナシ 三十五年十二月十八日判決第一七九八號 偽証ノ件

【參照】 證人又ハ鑑定人ノ供述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト思料シタルトキハ裁判所ニ於テ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ取押ヘ拘引狀ヲ發シ豫審判事ニ送致ス可シ其證人又ハ鑑定人ノ供述ハ裁判所書記之ヲ錄取シ豫審判事ニ送致ス可シ本條ノ場合ニ於テ裁判所ニ於テ檢事

偽証、偽鑑定、及ヒ虛偽ノ供述ニ對スル處分



其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ本案ノ辯論ヲ停止スルコトヲ得(刑  
訴訟法第百  
九十五條)

被告人カ無罪  
ト言渡ラセケ  
タルト否トハ  
偽証罪ノ成否  
ニ關係ナシ

証人ノ供述ハ  
一回毎ニ確定  
シ共ニ確定ハ  
ニ偽証罪ハ成  
立ス

○ 苟クモ証人カ刑事々件ニ關シ宣誓ノ上被告人ヲ曲庇スル爲メ偽証ヲ爲シ  
タル以上ハ偽証罪ハ直チニ成立ス從テ被告人カ無罪ノ言渡ヲ受ケタルト否  
トハ偽証罪ノ成否ニ何等ノ影響ナシトス 三十五年一月二十七日判  
決三十五年第二四六號 偽證ノ件

○ 證人カ數回諮問ヲ受ケタル場合ト雖一回毎ニ調書ノ讀聞ヲ受ケ其供述ヲ變  
更増減セサル意思ヲ表示シタルトキハ證人ノ供述ハ一回毎ニ確定シ其確定  
ト共ニ偽証罪ハ成立ス從テ證人カ前回ニ爲シタル供述ヲ取消スモ之カ爲メ  
既ニ成立シタル犯罪ヲ消滅セシムルモノニ非ス 三十五年十月二十日  
判決第一三四七號 偽證ノ件

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪 (此節ニ該當スル判例ナシ)

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

官名詐稱ノ實  
行ニ加功シタ  
ル事實ヲ判定  
セサル裁判

身分詐稱罪ノ  
成立

○ 官名ヲ詐稱シ人ヲ恐喝シテ金圓ヲ騙取センコトヲ共謀シタル旨ヲ判示スル  
モ其詐稱ノ實行ニ加功シタル事實ヲ判定セスシテ官名詐稱ノ正犯ナリトシ  
處罰シタルハ不法ナリ 三十五年三月十四日  
判決第一二一號 官名詐稱恐喝取財ノ件

○ 官名並ニ職名ヲ明示シテ身分ヲ詐稱シタルニ非サルモ何々縣廳第何課ニ奉

職スル役人某ト詐稱シタル所爲ハ官職詐稱罪ヲ構成ス 三十五年十二月十五  
日判決第一九九九號 私印私  
書偽造行使官職詐稱致唆詐欺取財ノ件

第五章 健康ヲ害スル罪 (此章ニ該當スル判例ナシ)

第六章 風俗ヲ害スル罪

「チーバー」ノ  
何タルヤヲ明  
示セザル不法  
ノ判決

賭博開張罪ノ  
成立及ヒ其者  
自ラ賭博ヲ爲  
シタル場合ノ  
處分

賭博罪ノ他ノ  
犯罪ト異ナル  
點

○ 「チーバー」ト稱スル賭博開張ノ所爲アリト判示シ「チーバー」ノ何タルヤヲ明示  
セザル判決ハ不法ナリ 三十五年二月十日  
判決第一八六九號 富籤興行ノ件

○ 賭博開張ノ罪ハ賭博ヲ開設シテ手數料若クハ寺錢等ノ如ク一定ノ利益ヲ得  
ルニ因テ完成スルモノトス從テ開張者自ラ賭博ヲ成スニ於テハ別ニ賭博罪  
ヲ構成ス 三十五年四月二十二日  
判決第四三三號 賭博開張及賭博等ノ件

○ 賭博罪ノ他ノ犯罪ト異ナル點ハ唯現行犯ニ限り之ヲ罰スルニ在リ從テ賭博  
正犯カ成立スル以上ハ之ヲ幫助シタル從犯モ亦成立ス而シテ賭博開張又ハ  
賭博ヲ爲スニ付キ必要ナル帳簿ノ記載ヲ爲スハ幫助ノ行爲ナルヲ以テ從犯  
トシテ處分スヘキモノトス 前同

○ 賭博開張罪ノ從犯ヲ以テ論シ刑法第二百六十條ノ刑ニ一等ヲ減シ二月七日  
以上九月以下ノ重禁錮一圓五十錢以上七十五圓以下ノ罰金處斷スヘキモノナ

刑法二六〇條  
ノ刑ニ一等ヲ  
減シナカラニ  
月ノ禁錮ニ處  
シタル判決

第二編 公益ニ關スル犯罪 賭博罪 賭博罪ノ處罰 身分ヲ詐稱スル罪 刑増 三十七



ルコトヲ説示シナカラ二月ノ重禁錮七圓ノ罰金ニ處シタルハ刑ノ適用ヲ誤  
リタルモノトス前

【参照】賭場ヲ開帳シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一年以下ノ重  
禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第二  
六〇條)

○賭場ヲ開帳シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ云々ノ規定(刑法第二百  
六十條)中利ヲ圖リトハ利益ヲ取得スルノ企圖アルコトヲ要スルノミニシテ  
既ニ利益ヲ取得シタルコトヲ要スルノ趣旨ニ非ス(三十五年五月十五  
日判決第六一七號)賭場開帳及賭  
博ノ件

【参照】賭場ヲ開帳シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一年以下ノ重  
禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第二  
六〇條)

○取引所ノ相場ノ高低ハ偶然ノ事柄ニ屬ス從テ其高低ニ因リ勝敗ヲ決スルノ  
方法ヲ以テ金錢ヲ賭シタルトキハ賭博罪ヲ構成ス(三十五年九月二十五  
日判決第一一七號)賭博開帳及  
幫助ノ件

○判文ニ博奕ヲ爲シ居リタル現場ヲ巡查ニ認メラレ且ツ現場ニ在リタル骨牌  
ヲ押收セラレタルモノナリト掲ケアル以上ハ巡查カ賭博ノ現行犯ヲ認メ現

刑第二六〇條  
ノ所謂利ヲ圖  
リトノ意義

相場ノ高低ニ  
因リ金錢ヲ賭  
シタル場合ノ  
罪科

巡查カ賭博ノ  
現行犯ヲ認メ  
ルノ場合

骨子骨牌ハ賭  
博常用ノ器具  
ナリ

賭博ノ行爲中  
警察官ニ檢舉  
セラレタル場  
合

行犯ニ對スル手續ヲ盡シタル事實明カナルヲ以テ現行犯タルノ理由ニ於テ  
不備アルコトナシ(三十五年十月九日  
判決第一三七八號)賭博ノ件

○骨子骨牌ノ如キハ賭博常用ノ器具ナルヲ以テ金錢ヲ賭シ之ヲ使用シテ博奕  
ヲ爲シタル旨ヲ判示スルニ於テハ偶然ノ事ニ依テ勝敗ヲ決シタル事實ハ自  
ラ明瞭ナリトス(三十五年十一月四日  
判決第一七七一號)賭博ノ件

○賭博ノ胴元タル甲ヨリ賭具配布方ノ周施ヲ託サレタル乙カ賭金者ヨリ賭金  
ヲ受ケ賭具ヲ携帶シ即チ賭博ノ行爲中警察官ニ檢舉セラレタル場合ニ於テ  
ハ縱令胴元タル甲ハ未タ賭金ヲ受取ラス且ツ檢舉ノ際現場ニ在ラサルモ甲カ  
賭博ノ行爲中檢舉セラレタルモノナリトス(三十五年十二月十九  
日判決第二二九號)賭博ノ件

### 第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

### 第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

(以上章目ニ該當スヘキ判例ナシ)

### 第九章 官吏瀆職ノ罪

#### 第一節 官吏公益ヲ害スル罪 (本節ニ該ル判例ナシ)

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪 刑律 三十九  
商業及ヒ農工業ヲ妨害スル罪 官吏瀆職ノ罪 官吏公益ヲ害スル罪